

平成 29 年度

# JOCスポーツ環境専門部会 活動報告書

JOC SPORT AND ENVIRONMENT COMMISSION REPORT 2015



**JAPANESE OLYMPIC COMMITTEE**  
SPORT AND ENVIRONMENT COMMISSION

公益財団法人 日本オリンピック委員会 スポーツ環境専門部会





# スポーツと環境についての啓発活動

Japanese Olympic Committee

## 環境基本理念

公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)は、オリンピック・ムーブメントを通じ、世界平和運動とスポーツ振興に寄与する目的に基づき、JOC事務所の環境への取り組みを実践し、環境マネジメントシステムの継続的改善を行うことにより地球環境の保全に貢献する。

## 行動指針

1. JOC事務所において、電力の節減、紙の有効利用などの省資源及び資源リサイクルを推進する。
2. 新たに物品を調達するにあたってはグリーン購入を優先する。
3. 環境に関する法的要求事項及び、その他の要求事項を遵守する。
4. 環境の教育啓発活動の推進によって、全ての職員が環境方針を理解し、その実現に努めるとともに、環境方針を外部にも公表する。

公益財団法人日本オリンピック委員会

会長 竹田 恆和



●第13回JOCスポーツと環境・地域セミナー(川崎市: JOCパートナー都市)

会期: 2017年11月26日(日) / 会場: 川崎市産業振興会館ホール / 参加人数: 229名

【主催者・共催者挨拶】



平岡英介 JOC副会長 兼 専務理事



福田紀彦 川崎市長

【基調対談】



宮下純—JOCスポーツ環境専門部会員  
(コーディネーター)



左から荻原健司氏、大久保秀昭氏、田中丈夫氏、西山雄二氏

【プレゼンテーション】



野端啓夫  
JOC理事 / スポーツ環境専門部会長  
(コーディネーター)



宮川潔氏  
川崎市環境局地球環境推進室  
担当課長



井上剛氏  
株式会社川崎フロンターレサッカー事業部  
集客プロモーショングループ

【集合写真】



【会場風景】





●第14回JOCスポーツと環境・担当者会議(総務委員会フォーラム)

会期：2018年3月7日(水)／会場：味の素ナショナルトレーニングセンター／参加人数：63名



野端啓夫 JOC理事／スポーツ環境専門部会長



山下淳生氏 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会総務局持続可能性部持続可能性計画課長

【グループディスカッション】



各班でのディスカッション



各班でのディスカッション



各班からの発表



各班からの発表

### ●オリンピックデーラン

会期：2017年6月11日(日)～2018年3月31日(土)／会場：全国10会場／参加人数：のべ10,600名



長野大会



新潟大会



喜多方大会

### ●オリンピックコンサート

会期：2017年6月9日(金)／会場：東京国際フォーラム ホールA／参加人数：3,155名



会場内に環境ポスターを掲出



# (公財)日本陸上競技連盟

Japan Association of Athletics Federation

## ●セイコーゴールデングランプリ陸上2017川崎

会期：2017年5月21日(日)／会場：神奈川県・川崎市等々力陸上競技場



ジャスティン・ガトリン選手 (USA)  
2017年世界陸上100m優勝、  
リオデジャネイロ五輪100m2位



ケーリン・ホイットニー選手 (USA)  
2014年U20世界選手権200m優勝、  
2014年パンアメリカン200m優勝



ケンブリッジ飛鳥選手  
リオデジャネイロ五輪4×100mR 2位、  
2016年日本選手権 100m 優勝

## ●京都マラソン2018

会期：2018年2月18日(日)／会場：京都市内

**DO YOU KYOTO? マラソン**  
環境先進都市・京都にふさわしい大会

- カーボン・オフセットの実施**  
環境負荷低減のための取り組みとして、大会期間中に発生するCO2排出量を、環境負荷低減プロジェクトに投資することでオフセットしています。
- リユースごみ箱の活用**  
大会期間中は、会場内各所にリユースごみ箱を設置し、ごみ分別の徹底を図ります。
- マイボトル給水の実際**  
大会期間中は、会場内各所にマイボトル給水ステーションを設置し、マイボトルでの給水を行います。
- スタート会場での物販店舗・ボランティアウェアの提供**  
スタート会場には、大会期間中は、物販店舗やボランティアウェアの提供を行います。
- ノーマイカーデーの実施**  
2月18日(日)は、ノーマイカーデーを実施し、環境負荷低減を図ります。
- 燃料電池自動車「FCV」の導入**  
大会期間中は、会場内各所に燃料電池自動車「FCV」を導入し、環境負荷低減を図ります。
- フードバンクへの提供**  
大会期間中は、会場内各所にフードバンクを設置し、食料の提供を行います。
- 小型家電からメダルを制作**  
大会期間中は、会場内各所に小型家電からメダルを制作し、環境負荷低減を図ります。
- 印刷物のペーパーレス化**  
大会期間中は、会場内各所に印刷物のペーパーレス化を実施し、環境負荷低減を図ります。

# (公財)日本水泳連盟

Japan Swimming Federation

## ●第93回日本選手権(競泳競技)

会期：2017年4月16日(日)／会場：愛知県・日本ガイシアリーナ



環境横断幕を囲んでのフォトセッション

## ●第72回国民体育大会(競泳競技)

会期：2017年9月15日(金)／会場：愛媛県・松山中央公園プール



環境横断幕を囲んでのフォトセッション

## ●ジャパンオープン2017

会期：2017年5月19日(金)～21日(日)  
会場：東京辰巳国際水泳場



環境横断幕を囲んでのフォトセッション

## ●日本泳法研究会

会期：2018年3月17日(土)、18日(日)  
会場：長崎市民総合プール



環境横断幕を掲示

## ●水泳の日2017・金沢

会期：2017年5月28日(日)／会場：石川県・金沢プール



「水泳の日2017・金沢」でもスタンブラリーを実施。初の地方開催。子どもたちが楽しみながら環境問題を考える機会となった

## ●受動喫煙防止ポスター



大会会場での受動喫煙防止キャンペーンポスターを作成





# (公財)日本サッカー協会

Japan Football Association

## ●名古屋グランパス 久屋大通公園クリーンアップアクション

会期：毎月第3火曜日  
会場：愛知県・名古屋テレビ塔および久屋大通公園周辺



身近な地域貢献活動として、クラブマスコット・スタッフで参加

## ●サンフレッチェ広島×グリーンバード広島 清掃活動

会期：2017年12月17日(日)  
会場：広島市中心部



平和都市・広島をきれいにしよう!

## ●京都サンガF.C. 省エネ相談所の設置

会期：2017年5月27日(土)、9月23日(土)  
会場：京都府・西京極スタジアム



相談員が家庭で取り組める省エネ活動についてアドバイス

## ●ファジアーノ岡山 リユースカップチャレンジ

会期：2017年10月22日(日)、11月5日(日)  
会場：岡山県・シティライトスタジアム



岡山市環境事業課と協働し、紙コップからリユースカップへ

## ●ガイナレ鳥取 ガイナレレグリーンプロジェクト

@鳥取砂丘除草活動  
会期：2017年8月5日(土)  
会場：鳥取県・鳥取砂丘



選手・スタッフ、サポーター、ボランティアの皆さん総勢25名で活動

## ●日本サッカー協会 電子登録証への移行

### 2. チーム登録責任者・代理向け 2-2. 選手証の出力

■ 電子選手証出力画面です。

① 電子選手証出力画面です。

② 「登録証を印刷」ボタンをクリックすることで、紙へ印刷してご利用いただけます。(印刷する際の用紙に規定はありません。)  
※スマートフォンなどで画像として保存し、画面提示でご利用いただくことも可能です。

パソコンをご利用の場合、このボタンから印刷してご利用頂けます。  
※スマートフォンなどでは表示されません

**画面説明**

電子選手証の出力画面  
ご利用の機種によってボタン表示の有無が異なります。

**重要ポイント**

① 電子選手証が出力されます。  
② 「登録証を印刷」ボタンをクリックすることで、紙へ印刷してご利用いただけます。(印刷する際の用紙に規定はありません。)  
※スマートフォンなどで画像として保存し、画面提示でご利用いただくことも可能です。

画面提示      紙へ印刷

2018年度にて完全電子化(プレーヤーズファースかつ環境にも優しい運用へ)

# (公財)全日本スキー連盟

Ski Association of Japan



●本連盟執行部において  
環境委保全に関して  
啓発活動を実施

写真左より、  
岡田良平常務理事、  
矢船保夫専務理事、  
菱沼信夫副会長、  
皆川賢太郎常務理事

# (公社)日本ボート協会

Japan Rowing Association

●戸田ボートコースにおける水草の除去活動

会期：2017年6月～10月／会場：埼玉県・戸田ボートコース



異常繁殖した水草

●お台場レガッタ

会期：2017年7月2日(日)／会場：東京都・お台場海浜公園特設コース



会場に環境ポスターを掲出

●セーフティアドバイザー講習会

会期：2018年1月28日(日)

会場：埼玉県・戸田公園管理事務所



●オリンピックが教えるボート教室

会期：2017年6月18日(日)

会場：愛媛県・イオンモール今治新都市 きらめきコート





# (公財)日本テニス協会

JAPAN TENNIS ASSOCIATION

## ●三菱全日本テニス選手権92nd

会期：2017年10月21日(土)～10月29日(日)／会場：東京都・有明コロシアム、有明テニスの森公園コート



表彰式



会場のゴミ箱前に環境ポスターを掲示し、分別収集を励行

## ●第35回第一生命全国小学生テニス選手権大会

会期：2017年7月28日(金)～30日(日)

会場：東京都・第一生命保険株式会社 相楽園グラウンドテニスコート



表彰式

## ●テニス漫画『Baby Steps』の環境ポスター



## ●JTAホームページで「JTA環境保全基本方針」を紹介



# (公社)日本ホッケー協会

Japan Hockey Association

## ●第39回全国スポーツ少年団ホッケー交流大会

会期：2017年8月5日(土)～7日(月)

会場：山口県・玖珂総合公園人工芝グラウンド



大会風景

## ●男子第80回、女子第59回全国高等学校ホッケー選手権大会

会期：2017年7月29日(土)～8月2日(水)／会場：山形県・川西町総合運動公園ホッケー場、県立米沢商業高等学校ホッケー場



大会会場に環境バナーを掲出

## ●第72回国民体育大会ホッケー競技

会期：2017年10月1日(日)～5日(木)

会場：愛媛県・伊予市民競技場、松前町民グラウンド



大会会場に環境バナーを掲出

## ●第15回全日本マスターズホッケー大会

会期：2017年10月8日(日)、9日(月・祝)

会場：滋賀県立伊吹運動場



大会会場に環境バナーを掲出

## ●第66回全日本学生ホッケー選手権大会

会期：2017年11月8日(水)～12日(日)／会場：大阪府・立命館大学OICホッケー場、奈良県・天理大学親里ホッケー場

会場：大阪府・立命館大学OICホッケー場



大会会場に環境ポスターを掲出

## ●第91回全日本男子ホッケー選手権大会

会期：2017年11月24日(金)～26日(日)

会場：大阪府・立命館大学OICホッケー場



大会会場に環境ポスターを掲出



# (公財)日本バレーボール協会

Japan Volleyball Association

## ●平成29年度天皇杯・皇后杯全日本選手権大会ファイナルラウンド

会期：2017年12月15日(金)～17日(日)、23日(土)、24日(日)／会場：東京都・東京体育館、大田区総合体育館／参加人数：のべ26,000人



大会会場における環境バナーの掲出



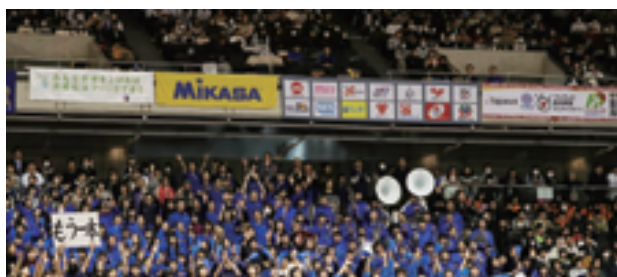
大会会場、入り口及び諸室におけるゴミの分別

## ●ジャパネット杯春の高校バレー

### 第70回全日本バレーボール高等学校選手権大会

会期：2018年1月3日(水)～8日(月・祝)

会場：東京都・東京体育館／参加人数：のべ70,000人



大会会場における環境バナーの掲出

## ●ファミリーマートカップ第37回全日本小学生大会

会期：2017年8月7日(月)～10日(木)

会場：東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県内の各会場



小学生選手たちと環境啓発バナー

# (公財)日本バスケットボール協会

JAPAN BASKETBALL ASSOCIATION

## ●ウインターカップ2017 平成29年度第70回

### 全国高等学校バスケットボール選手権大会

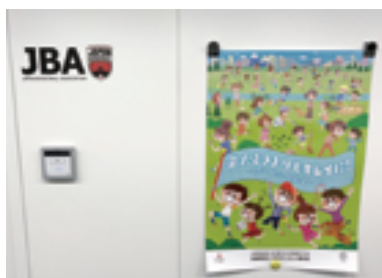
会期：2017年12月23日(土・祝)～29日(金)

会場：東京都・東京体育館



大会プログラムに環境ポスターを掲載

## ●日本バスケットボール協会事務局



オフィス内に環境ポスターを掲出



リサイクルの徹底(ダンボールごみ)

# (公財)日本体操協会

Japan Gymnastics Association

## ●第71回全日本体操競技選手権大会

会期：2017年4月7日(金)～9日(日)／会場：東京体育館



会場内に環境バナーを掲出



## ●第56回NHK杯体操

会期：2017年5月20日(土)、21日(日)  
会場：東京体育館



会場内に環境バナーを掲出

## ●第71回全日本体操種目別選手権大会

会期：2017年6月24日(土)、25日(日)  
会場：群馬県・高崎アリーナ



会場内に環境バナーを掲出

## ●第35回全日本ジュニア新体操選手権大会

会期：2017年10月6日(金)～8日(日)  
会場：千葉ポートアリーナ



会場内に環境バナーを掲出

## ●第70回全日本新体操選手権大会

会期：2017年10月27日(金)～29日(日)  
会場：千葉ポートアリーナ



会場内に環境バナーを掲出



# (公財)日本スケート連盟

Japan Skating Federation

## ●平昌オリンピックスピードスケート日本代表選手選考競技会

会期：2017年12月27日(水)～12月30日(土)／会場：長野県長野市・長野市オリンピック記念アリーナ(エムウェーブ)



大会役員(実施本部にて)



各部屋に設置されたゴミ箱

## ●ISUグランプリ NHK杯国際フィギュアスケート競技大会

会期：2017年11月10日(金)～11月12日(日)／会場：大阪府大阪市・大阪市中央体育館



会場内に環境バナーを掲出



会場内に環境バナーを掲出

## ●第86回全日本フィギュアスピードスケート選手権大会

会期：2017年12月20日(水)～12月24日(日)／会場：東京都調布市・武蔵野の森総合スポーツプラザ



会場内に環境バナーを掲出



実施本部に設置したゴミ箱

# (公財)日本アイスホッケー連盟

Japan Ice Hockey Federation

## ●女子アイスホッケー日本代表スマイルジャパン壮行試合in長野

会期：2017年12月24日(日)、25日(月)／会場：長野県・長野市多目的スポーツアリーナ ビッグハット



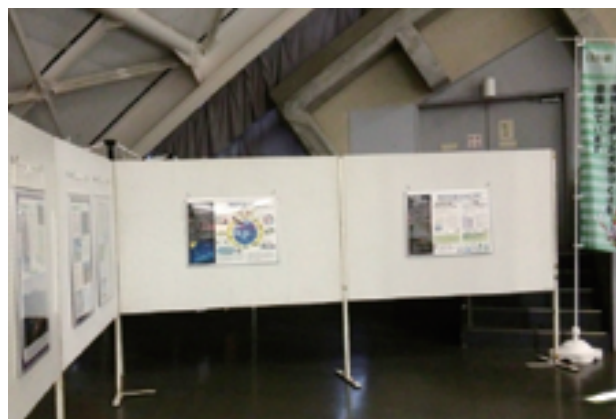
会場にて環境ポスターの掲示



ゴミ分別に取り組む水野会長(左)、坂井総合企画室長(右)

## ●第12回日光杯全日本女子中学・高校生アイスホッケー大会

会期：2017年12月22日(金)～25日(月)／会場：栃木県・県立日光霧降アイスアリーナ



「日光杯チームECO」と称しECOブースの設置・パネル掲示



## ●スケートリンク清掃活動

会期：2017年12月30日(土)／会場：沖縄県・スポーツワールドサザンヒルアイスアリーナ



加盟団体のスケートリンク清掃活動







# (公財)日本レスリング協会

Japan Wrestling Federation

## ●平成29年度ジュニアクイーンズカップ選手権大会

会期：2017年4月2日(日)  
 会場：東京都・駒沢オリンピック公園総合運動場体育館  
 参加人数：205団体・557名



試合風景

## ●第34回全国少年少女レスリング選手権大会

会期：2017年7月21日(金)～23日(日)  
 会場：福岡県・北九州市立総合体育館  
 参加人数：196クラブ・1043名



試合風景

## ●第72回国民体育大会レスリング競技

会期：2017年10月7日(土)～10日(火)  
 会場：愛媛県・宇和島市総合体育館



開会式風景

## ●平成29年度天皇杯・全日本選手権大会

会期：2017年12月20日(水)～23日(土)  
 会場：東京都・国立代々木競技場第2体育館  
 参加人数：361名



試合風景

## ●2017エリートキャンプ

会期：2017年11月17日(金)～20日(月)  
 会場：東京都・味の素ナショナルトレーニングセンター  
 参加人数：40名



選手と指導者の皆さん

## ●各大会での分別収集とペットボトルのエコキャップ運動



# (公財)日本セーリング連盟

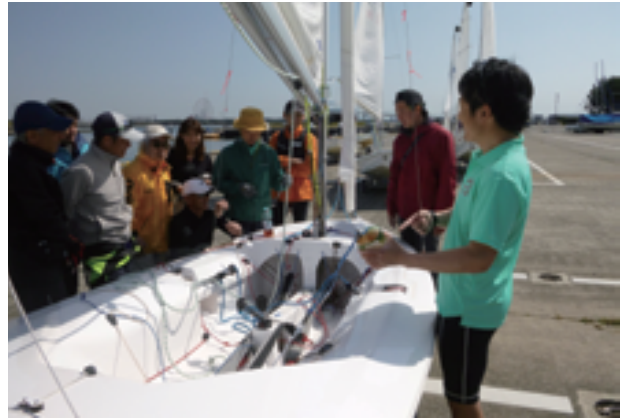
JAPAN SAILING FEDERATION

## ●ペットボトルホルダー活用例

会期：通年／会場：東京都・若洲ヨット訓練所



ホルダーを艇内に縛り付けておくことで、沈んだ際にボトルの海への流出を防止



ペットボトルホルダーの活用方法を現場でレクチャー

## ●環境委員会発行小冊子「きれいな海のために私たちができること」発行



日本セーリング連盟環境委員会facebookページからダウンロード可能(左:表面、右:裏面)。どなたでもご利用ください。

## ●第72回国民体育大会セーリング競技

会期：2017年10月1日(日)～4日(水)／会場：愛媛県・新居浜市



Used Sailを使ったエコバッグワークショップ





# (公社)日本ウエイトリフティング協会

Japan Weightlifting Association

## ●第64回全国高等学校ウエイトリフティング競技選手権大会

会期：2017年8月3日(木)～6日(日)  
会場：福島県・福島明成高校



優勝した明石南高校(兵庫県)

## ●第19回全国高等学校女子ウエイトリフティング競技選手権大会

会期：2017年7月21日(金)～23日(日)  
会場：北海道・札幌市西区体育館



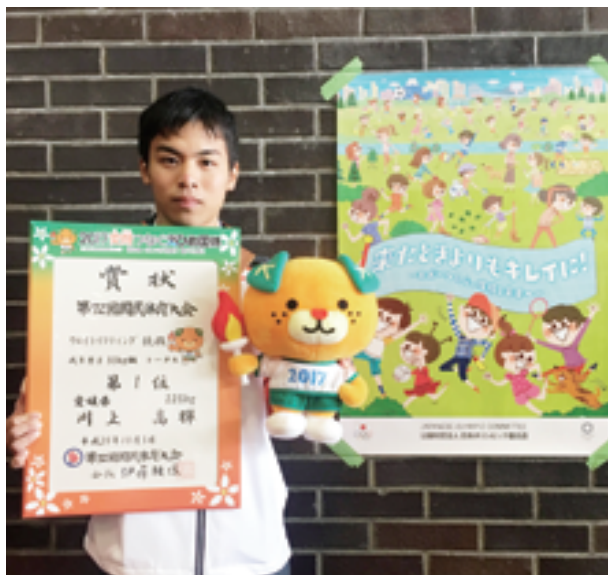
75kg級で優勝した阿部葉選手

## ●第72回国民体育大会ウエイトリフティング競技

会期：2017年10月5日(木)～9日(月)／会場：愛媛県・新居浜市民文化センター



ゴミの分別に協力する八木かなえ選手(53kg級優勝)



日本新記録で優勝した53kg級・川上高輝選手

## ●第25回日韓中ジュニア交流競技大会

会期：2017年8月25日(金)～27日(日)／会場：茨城県・高萩市文化センター



飲料の入っていた段ボール箱を解体し、資源ゴミとして活用



使用済みの記録用紙や試技申込用紙も資源ゴミとして処理



大会で書類保管用に使用した封筒は再利用のため、保管

# (公財)日本ハンドボール協会

JAPAN HANDBALL ASSOCIATION

## ●ハンドボール日韓戦2017

会期：2017年7月29日(土)  
会場：東京都・駒沢体育館



会場内に環境バナーを掲出

## ●第25回全日本マスターズハンドボール大会

会期：2017年8月11日(金)～13日(日)  
会場：東京都・エスフォルタアリーナ八王子



会場内に環境バナーを掲出

## ●第72回国民体育大会ハンドボール競技

会期：2017年10月5日(木)～9日(月)  
会場：愛媛県・西条市、松山市 松山市総合コミュニティセンター 他



会場内に環境バナーを掲出

## ●ANA CUP第42回日本ハンドボールリーグプレーオフ

会期：2018年3月23日(金)～25日(日)  
会場：東京都・駒沢体育館



左から、市原則之元JOC副会長、多田博JHL会長、吉田實副会長、山下泉顧問、藤森徹JHL副会長

## ●第13回春の全国中学生ハンドボール選手権大会

会期：2018年3月24日(土)～28日(水)  
会場：富山県・氷見市ふれあいスポーツセンター



会場内に環境バナーを掲出

## ●環境啓発ポスターのプログラム掲載



第25回全日本マスターズ大会、第8回全国中学生クラブチームカップ、第44回全国高等専門学校選手権大会、第42回日本リーグ、第72回国民体育大会、第69回日本選手権、第26回JOCジュニアオリンピックカップ、第13回春の全国中学生選手権大会



# (公財)日本ソフトテニス連盟

Japan Soft Tennis Association

## ●平成29年度定時評議員会

会期：2017年6月11日(日)／会場：東京都品川区・アワーズイン阪急



加盟団体を代表する評議員により定時評議員会が開催された。環境・教育プロジェクトより活動内容が報告され、マナーチェックシートを紹介し、活用を促した

## ●ソフトテニスマナー BOOK

配布先：全加盟団体、都道府県ソフトテニス連盟等



ソフトテニスマナーBOOK表紙及び裏表紙  
裏表紙には(公財)日本ソフトテニス連盟環境・フェアプレー横断幕の標語の「環境宣言」来たときよりも美しく!「フェアプレー宣言」ありがとう あなたの笑顔と そのマナー を記載



ソフトテニスマナーBOOKの中からの抜粋  
P13「監督・コーチ」P17「本部・役員のマナー」  
上記以外にもP9「選手」のところで「ペットボトルやゴミは持ち帰り、ゴミを出さないようにしましょう。」等を記載



# (公財)日本卓球協会

Japan Table Tennis Association

## ●平成29年度全日本卓球選手権大会

会期：2018年1月15日(月)～21日(日)  
会場：東京体育館



バナー掲示



プログラム掲載



配布資料

## ●関東学生会長杯争奪卓球大会

会期：2017年12月6日(水)、7日(木)  
会場：東京都・エスフォルタアリーナ八王子



ゴミ分別用袋を配布し大会終了後に回収



観客席のゴミチェックを実施

## ●関東学生秋リーグ戦

会期：2017年8月27日(日)  
～10月7日(土)  
会場：東京都・港区スポーツセンター



プログラムに環境広告を掲載

# (公財)日本相撲連盟

Japan Sumo Federation

## ●平成29年度全日本相撲選手権大会

会期：2017年12月3日(日)／会場：東京都・国技館



大会会場に環境ポスターを掲出

# (公社)日本馬術連盟

Japan Equestrian Federation

## ●第41回全日本ジュニア障害馬術大会

会期：2017年8月10日(木)～13日(日)  
会場：静岡県・御殿場市馬術・スポーツセンター



## ●第47回全日本総合馬術大会2017

会期：2017年11月24日(金)～26日(日)  
会場：兵庫県・三木ホースランドパーク



## ●機関誌「馬術情報」への環境ポスター掲載



## ●大会パンフレットへの環境ポスター掲載







# (公社)日本フェンシング協会

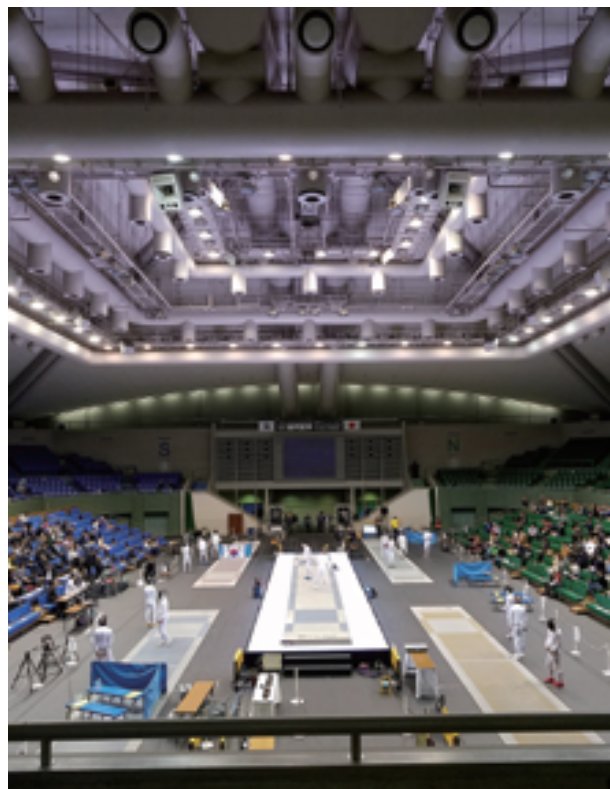
FEDERATION JAPONAISE D'ESCRIME

## ●2017高円宮杯東京ワールドカップ

会期：2017年11月10日(金)～11月12日(日)／会場：東京都・駒沢オリンピック公園総合運動場 体育館



体育館入口



会場内の様子



会場2階客席／ペットボトル・缶・可燃ゴミ等の分別



男子フルーレ団体戦 銅メダル獲得



会場2階客席扉にポスター掲示

# (公財)全日本柔道連盟

All Japan Judo Federation

## ●平成29年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会

会期：2017年11月11日(土)、12日(日)／会場：千葉ポートアリーナ



大会プログラムへのポスター広告の掲載



横断幕の掲示

## ●平成29年度全日本ジュニア柔道体重別選手権

会期：2017年9月9日(土)、10日(日)／会場：埼玉県立武道館



ゴミの分別状況及びポスター掲示



会場クリーンアップタイムの実施状況及び、機関紙「まいんど」掲載状況



## ●全日本柔道連盟 事務局受付



事務局受付にてポスターを掲示



# (公財)日本ソフトボール協会

Japan Softball Association

## ●第50回日本女子ソフトボールリーグ

会期：2017年4月22日(土)、23日(日)、2017年11月4日(土)、5日(日)

会場：全国30会場(開幕節、決勝トーナメント：愛知県名古屋市・ナゴヤドーム)



開幕節(ナゴヤドーム)でフェンスに設置した環境標語バナー



環境ポスターをデザインした大会案内を作成し、関係者、来場者に配布した



全国各地の会場に設置した環境標語バナー(左:松山市坊ちゃんスタジアム/右:習志野市秋津野球場)



## ●公益財団法人日本ソフトボール協会事務局



事務局でもクールビズ、ウォームビズ、紙の削減やごみの分別廃棄、エアコンのこまめな温度調整、ファイルの再利用を心掛けている

# (公財)日本バドミントン協会

Nippon Badminton Association

## ●第67回全日本実業団選手権大会

会期：2017年7月5日(水)～9日(日)／会場：秋田県秋田市



米元小春選手・田中志穂選手(北都銀行:女子団体準優勝)  
穂積志 秋田市長 齊藤永吉 秋田県協会長

## ●第35回全日本レディース選手権大会

会期：2017年7月20日(木)～23日(日)／会場：静岡県静岡市



綿貫民輔 日本協会会長、銭谷欽治 専務理事と大会役員

## ●バドミントンS/Jリーグ最終戦

会期：2018年2月4日(日)／会場：東京都墨田区



園田啓吾選手・嘉村健士選手(トナミ運輸:男子優勝)  
銭谷欽治 専務理事

## ●第67回全日本実業団大会

会期：2017年7月5日(水)～9日(日)／会場：秋田県秋田市



大会プログラムに環境活動ポスター掲載

# (公財)全日本弓道連盟

All Nippon Kyudo Federation

## ●第68回全日本弓道大会

会期：2017年5月2日(火)、3日(水)

会場：京都府・京都市勤業館「みやこめっせ」



会場に環境ポスターを掲載



# (公社)日本ライフル射撃協会

National Rifle Association of Japan

## ●第72回国民体育大会ライフル射撃競技

会期：2017年10月1日(日)～10月4日(水)／会場：愛媛県・内子町城の台公園特設ライフル射撃場



競技会場に設置された分別ゴミ箱とポスター掲示(写真右より日本ライフル射撃協会 藤井優副会長、松丸喜一郎会長、愛媛県選手、鍵山博国体委員長、愛媛県ライフル射撃協会 稲垣健次会長)

## ●朝霞射撃場事務所撤収作業



マニフェスト発行、徹底した分別等、適切な廃棄物処理を実施

## ●ライフル射撃情報誌への環境ポスターの掲載



# (公財)日本ラグビーフットボール協会

JAPAN RUGBY FOOTBALL UNION

## ●日本選手権兼決勝決定トーナメント 優勝チーム表彰式

会期：2018年1月13日(土)／会場：東京都・秩父宮ラグビー場



岡村正会長、高島正之チェアマン、サントリーサンゴリアスチームとの優勝表彰写真。シーズン中のトップリーグ各試合競技会場にて、経済界協議会との合同による美化活動「KEEP THE STADIUM CLEAN」を実施。©JRFU

## ●ジャパンラグビートップリーグ2017-2018 年間表彰式

会期：2018年1月21日(日)／会場：東京都内



トップリーグリーダー会議代表としてクボタスピアーズ稲橋良太選手より網走市の森林保全活動「TRY for GREEN」プロジェクト寄付金を水谷洋一網走市長へ寄託。©JRFU



「TRY for GREEN」プロジェクトにも貢献したヤマハ発動機ジュビロの五郎丸歩選手はベストキッカー賞を受賞、河野一郎副会長との表彰写真。©JRFU

# (一財)全日本剣道連盟

All Japan Kendo Federation

## ●第65回全日本剣道選手権大会

会期：2017年11月3日(木)／会場：東京都・日本武道館



## ●平成29年度全日本少年少女武道(剣道)錬成大会

会期：2017年7月22日(土)、23日(日)／会場：東京都・日本武道館



## ●全日本剣道連盟事務局



北の丸事務所の入口に環境ポスターを掲示



事務所内のリサイクルボックス

## ●中古剣道具の活用



剣道具製造職人による小手・面の補修



剣道具製造職人による胴の補修



# (公社)日本近代五種協会

Modern Pentathlon Association of Japan

## ●ジャパン近代3種シリーズ2017第2戦(和歌山大会)

会期：2017年7月9日(日)／会場：和歌山県・橋本市運動公園



鉛弾・フロンガスを使わない、環境にやさしいエアースポーツガンを使用



参加選手、スタッフでBB弾を撤去

## ●ジャパン近代3種シリーズ2017第4戦(千葉大会)

会期：2017年9月3日(日)／会場：千葉県・リソル生命の森リゾート



環境ポスターの掲示



会場内にてゴミの分別収集を実施

## ●ジャパン近代3種シリーズ2017第5戦(調布大会)

会期：2017年10月2日(月)／会場：東京都・調布市民大町スポーツ施設



鉛弾・フロンガスを使わない、環境にやさしいエアースポーツガンを使用



大会参加者とスタッフの集合写真

# (公社)日本山岳・スポーツクライミング協会

Japan Mountaineering and Sport Climbing Association

## ●日本ユース選手権リード競技大会

会期：2017年4月15日(土)、16日(日)  
会場：千葉県・印西市松山下公園総合体育館



## ●IFSCボルダリングワールドカップ

会期：2017年5月6日(土)、7日(日)  
会場：東京都・エスフォルタアリーナ八王子



## ●第20回JOCジュニアオリンピックカップ大会

会期：2017年8月12日(土)～14日(月)  
会場：富山県・南砺市桜ヶ池クライミングセンター



## ●第41回自然保護委員総会

会期：2017年9月9日(土)～11日(月)  
会場：石川県・白山市



## ●第13回ボルダリングジャパンカップ

会期：2018年2月3日(土)、4日(日)  
会場：東京都・駒沢オリンピック公園総合運動場屋内球技場



## ●なすかし雪遊び隊2018

会期：2018年3月27日(火)～29日(木)  
会場：福島県・国立那須甲子青少年自然の家







# (公社)日本カヌー連盟

JAPAN CANOE FEDERATION

## ●2017カヌー・ジャパンカップ第3戦

会期：2017年5月27日(土)、28日(日)  
会場：福島県二本松市・阿武隈川・島山コース



クリーンリバー活動

## ●2017カヌー・ジャパンカップ第4戦

会期：2017年6月24日(土)、25日(日)  
会場：青森県西目屋村・岩木川カヌー競技場



クリーンリバー活動

## ●2017カヌー・ジャパンカップ第5戦

会期：2017年8月5日(土)、6日(日)  
会場：岩手県奥州市・胆沢川カヌー競技場



クリーンリバー活動

## ●2017カヌー・ジャパンカップ最終戦

会期：2017年9月29日(金)～10月1日(日)  
会場：岐阜県揖斐川町・揖斐川特設カヌー競技場



クリーンリバー活動

## ●平成29年度全国少年少女カヌー大会

会期：2017年7月21日(土)、22日(日)／会場：山梨県富士河口湖町・精進湖カヌー場



草刈前のゴミ拾い



草刈前のゴミ拾い

# (公社)全日本アーチェリー連盟

ALL JAPAN ARCHERY FEDERATION

## ●全日本小中学生アーチェリー選手権大会

会期：2017年6月24日(土)、25日(日)  
会場：長崎県大村市・大村市総合運動公園



大会終了後、参加者全員でバナー撮影

## ●第72回国民体育大会アーチェリー競技

会期：2017年10月2日(月)～4日(水)  
会場：愛媛県今治市・宮窪石文化運動公園



競技中に環境標語を掲示板に標示

## ●全日本フィールド選手権大会

会期：2017年6月2日(金)～4日(日)／会場：滋賀県米原市・奥伊吹スキー場



開会式会場付近にバナーポスターを掲示



閉会式後参加者全員でバナー撮影

## ●全日本ターゲットアーチェリー選手権

会期：2017年10月27日(金)～29日(日)  
会場：静岡県掛川市・小笠山総合運動園



競技中に環境標語を掲示板に標示

## ●第27回全日本室内アーチェリー選手権大会

会期：2018年3月17日(土)、18日(日)  
会場：東京都町田市・町田市立総合体育館



弓具検査の場所でポスター掲示



# (公財)全日本空手道連盟

JAPAN KARATEDO FEDERATION

## ●日本空手道会館内の様子



エアコンの設定温度に関するポスター



EVの節約を呼びかけるポスター

## ●第6回関東少年少女空手道選手権大会

会期：2017年7月2日(日)／会場：神奈川県・秋葉台文化体育館



## ●第17回全日本少年少女空手道選手権大会

会期：2017年8月5日(土)、6日(日)／会場：東京都・東京武道館



大会会場に環境ポスターを掲示

## ●天皇盃・皇后盃 第45回全日本空手道選手権大会

会期：2017年12月10日(日)／会場：東京都・日本武道館



大会会場内で環境ポスターの掲示



大会プログラムに環境ポスターを掲載

# (公社)全日本銃剣道連盟

ALL JAPAN JUKENDO FEDERATION

## ●第61回全日本銃剣道優勝大会

会期：2017年4月23日(日)／会場：東京都・日本武道館



大会会場に環境バナーを掲示



監督会議会場に環境ポスターを掲示



大会プログラムにポスターを掲載



競技風景

# (公財)日本ゴルフ協会

JAPAN GOLF ASSOCIATION

## ●ゴミの分別収集を励行

第50回日本女子オープンゴルフ選手権(2017年9月28日～10月1日・我孫子ゴルフ倶楽部)、第82回日本オープンゴルフ選手権(2017年10月12日～15日・岐阜関カントリー倶楽部)、第27回日本シニアオープンゴルフ選手権(2017年9月14日～17日・ザ・クラシックゴルフ倶楽部)の大会会場において、ゴミの分別収集を行った





# (公財)全日本なぎなた連盟

ALL JAPAN NAGINATA FEDERATION

## ●第72回国民体育大会なぎなた競技会

会期：2017年10月1日(日)～3日(火)／会場：愛媛県・松山市総合コミュニティセンター体育館



国体会場



体育館入口でゴミの分別収集を実施



体育館内にてゴミの分別



環境呼びかけスタッフ



大会会場内で環境ポスターの掲示



選手控室入り口



# (公財)全日本ボウリング協会

JAPAN BOWLING CONGRESS

## ●全日本ボウリング協会事務局



スイッチ盤近くにポスターと注意書きを貼付



プリンター付近に環境ポスターを掲示

## ●JOCジュニアオリンピックカップ 第41回全日本高校ボウリング選手権大会

会期：2017年7月31日(月)～8月2日(水)／会場：神奈川県川崎市・川崎グランドボウル



環境ポスターを手に記念撮影(左:男子優勝者 西山響選手、右:女子優勝者 戸塚真由選手)



大会プログラムに啓発用広告を掲載

## ●平成29年度第3回理事会

会期：2018年3月22日(木)／会場：愛知県稲沢市・稲沢グランドボウル



会場内にポスターを掲示



会場内にポスターを掲示



# (一財)全日本野球協会

Baseball Federation of Japan

## ●アオダモ植樹キャンペーン2017 第1回植樹

会期：2017年7月15日(土)／会場：北海道・苫小牧国有林  
参加人数：130名



## ●アオダモ植樹キャンペーン2017 第3回植樹

会期：2017年9月30日(土)／会場：北海道・由仁町道有林  
参加人数：120名



## ●アオダモ植樹キャンペーン2017 第4回植樹

会期：2017年10月14日(土)／会場：北海道・新冠国有林  
参加人数：103名



## ●2017年度野球指導者講習会

会期：2018年1月12日(金)  
会場：東京都 国立オリンピック記念青少年総合センター  
参加人数：300名



山中正竹副会長



会場内に環境ポスターを掲示

# (公社)日本武術太極拳連盟

JAPAN WUSHU TAIJIQUAN FEDERATION

## ●全日本武術太極拳選手権大会

会期：2017年7月7日(金)～9日(日)

会場：東京都渋谷区・東京体育館



会場入り口にポスターを掲示した

## ●JOCジュニアオリンピックカップ大会

会期：2017年4月8日(土)、9日(日)

会場：愛知県名古屋市・愛知県武道館



## ●日本武術太極拳連盟トレーニングセンター



来客の目に触れるよう、入口に環境ポスターを掲示

## ●強化指定選手も環境活動に協力



ゴミの持ち帰りなど、環境への配慮を呼び掛けている





# (公社)日本カーリング協会

JAPAN CURLING ASSOCIATION

## ●第23回オリンピック冬季競技大会(2018／平昌)女子カーリング日本代表決定戦

会期：2017年9月8日(金)～10日(日)／会場：北海道北見市・アドヴックス常呂カーリングホール



大会会場に環境ポスターを掲示



中部電力対LS北見



平昌オリンピック代表に決定し、銅メダルを獲得したLS北見のメンバー

## ●第35回全農日本カーリング選手権大会(男女)

会期：2018年1月28日(日)～2月4日(日)／会場：北海道名寄市・サンピラー交流館カーリングホール



旧ポスターも活躍中



北海道銀行のチームメンバー

# (公社)日本トライアスロン連合

Japan Triathlon Union

## ●グリーントライアスロンin横浜

会期：2017年4月15日(土)／会場：神奈川県・山下公園



開会宣言



海底から引き上げられたゴミ



海底内の海の様子を中継



学生ボランティアがイベント協力

## ●NTT ASTCTトライアスロンアジアカップ

会期：2017年6月25日(日)

会場：大阪府・大阪城公園及び周辺特設コース



Green Triathlon 会場掲出

## ●ITUトライアスロンワールドカップ

会期：2017年11月4日(土)

会場：宮崎県・みやざき臨海公園、一ツ葉有料道路、フェニックス・シーガイア・リゾート周辺



Green Triathlon 会場掲出



# (公社)日本スカッシュ協会

Japan Squash Association

## ●第28回全日本アンダー23選手権大会

会期：2017年6月3日(土)、4日(日)／会場：埼玉県・さいたまスカッシュスタジアムSQ-CUBE



高校生、大学生が参加する大会の目立つところに環境ポスターを掲示



選手みんなでアピール

## ●第31回ジャパンジュニアオープンスカッシュ選手権大会

会期：2017年7月25日(火)～28日(金)／会場：神奈川県・横浜スカッシュスタジアムSQ-CUBE



世界の子供に分別・エコをアピール



選手みんなでエコをアピール

## ●第46回全日本スカッシュ選手権大会

会期：2017年11月23日(木)～26日(日)  
会場：岡山県・(公財)倉敷スポーツ公園  
マスカットスタジアムスカッシュコート



会場の目立つところに環境ポスター

## ●JOCジュニアオリンピックカップ第22回全日本ジュニアスカッシュ選手権大会

会期：2018年3月25日(日)～27日(火)  
会場：神奈川県・横浜スカッシュスタジアムSQ-CUBE



ジュニアからエコの意識を。子供から大人へ

# (公社)日本ボディビル・フィットネス連盟

Japan Bodybuilding & Fitness Federation

## ●第29回日本マスターズ選手権大会

会期：2017年9月10日(日)

会場：三重県伊勢市・シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢



環境標語横断幕を掲示

## ●第25回日本女子チャレンジカップフィジーク選手権大会

第17回ミス21健康美大会

会期：2017年8月13日(日)／会場：東京都品川区・きゅりあん大ホール



会場内に環境ポスターを掲示

# (一社)全日本テコンドー協会

All Japan Taekwondo Association

## ●第10回全日本ジュニアテコンドー選手権大会

会期：2017年7月30日(日)／会場：長野県・松本市総合体育館



開会式で牧野総務委員長より環境啓発について呼びかけ

## ●第11回全日本学生テコンドー選手権大会

会期：2017年9月4日(日)／会場：岐阜県・羽島市かんぱの宿体育館



開会式で牧野総務委員長より環境啓発について呼びかけ

## ●各大会プログラムに環境ポスターを掲載



## ●協会事務局に環境ポスターを掲示





# (公社)日本ダンススポーツ連盟

Japan DanceSport Federation

## ●2017ダンススポーツグランプリin北海道

会期：2017年8月20日(日)  
会場：北海道・北海きたえーる



環境バナーをバックに表彰式

## ●第25回都道府県対抗全国ダンススポーツ大会in愛媛

会期：2017年11月12日(日)  
会場：愛媛県・松山総合コミュニティセンター体育館



監督会議会場に環境ポスターを掲示

## ●第20回東京オープンダンススポーツ選手権

会期：2018年2月25日(日)  
会場：東京都・東京体育館



海外から多数の選手が出場

## ●2017年度理事会

会期：2018年3月5日(日)  
会場：東京都・当連盟ダンススポーツトレーニングセンター(DTC)



スクリーン脇に環境ポスターを掲示

# (一社)日本セパタクロー協会

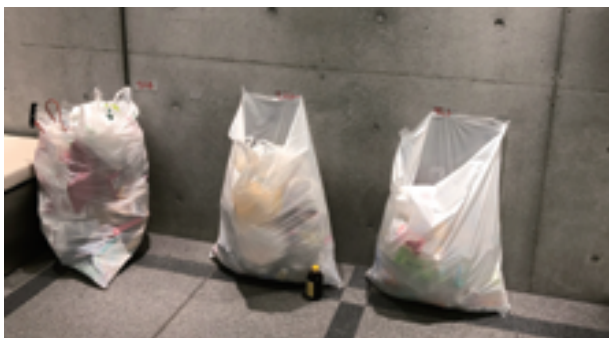
JAPAN SEPAKTAKRAW FEDERATION

## ●第24回全日本セパタクローオープン選手権大会

会期：2017年7月15日(土)、16日(日)／会場：東京都・墨田区総合体育館



大会パンフレットに環境ポスター掲載



大会会場におけるゴミの分別

# (一社)日本バイアスロン連盟

Japan Biathlon Federation

## ●バイアスロン東日本選手権大会

会期：2018年1月26日(金)～28日(日)／会場：岩手県八幡平市・田山バイアスロン競技場



ゴミの分別収集を徹底



環境に関する講習会を実施

## ●第54回バイアスロン日本選手権大会

会期：2018年3月3日(土)～6日(火)／会場：北海道札幌市・西岡バイアスロン競技場



キャプテンミーティングにて環境保全の説明を実施



大会役員用控室でゴミの分別収集

## ●ミニバイアスロン競技倶知安大会

会期：2018年3月12日(日)／会場：北海道虻田郡倶知安町・旭ヶ丘会場



体験講習会を実施し、環境とスポーツとのかかわり、環境保全の重要性を訴えた





# (一社)日本サーフィン連盟

Nippon Surfing Association

## ●NSA SURFERS BEACH CLEAN ACT 2017

会期：2017年9月3日(日)、10日(日)／会場：全国のサーフポイント120カ所



青森県 金浜海岸



茨城県 波崎海岸



神奈川県 平塚海岸



静岡県 伊豆白浜海岸



三重県 国府の浜



福岡県 芥屋海岸

# (一社)日本カバディ協会

JAPAN KABADDI ASSOCIATION

## ●JOCジュニアオリンピックカップ大会

### 「第2回カバディチャレンジカップ」

会期：2017年6月10日(土)、11日(日)

会場：東京都・瀧野川女子学園 体育館

参加人数：約300名



男・女アベック優勝の大正大学チーム

## ●第11回東日本カバディ選手権大会

会期：2017年8月5日(土)、6日(日)

会場：東京都・帝京大学 アリーナ

参加人数：約300名



男子優勝A.K.Sチームと河合陽児事務局長



競技会場に環境バナーを掲出



女子優勝APSARASチームと河合陽児事務局長

## ●第28回全日本カバディ選手権大会

会期：2017年9月30日(土)、10月1日(日)

会場：東京都・国立オリンピック記念青少年総合センター 大体育室

参加人数：約400名



環境バナーを囲んでの記念撮影



競技会場に環境ポスターを掲出





# (一社)日本クリケット協会

Japan Cricket Association

## ●2017年度総会

会期：2017年3月24日(土)／会場：東京都港区 株式会社コトブキ



総会参加者 集合写真



総会 会長挨拶

## ●Champions Trophy 2017

会期：2017年10月7日(土)～9日(日)

会場：栃木県佐野市・佐野渡良瀬グラウンド



優勝チーム 栃木クリケットクラブ

## ●日本クリケット協会 事務所前



スタッフによる意識向上

# (公社)日本オリエンテーリング協会

Japan Orienteering Association

## ●第43回全日本オリエンテーリング大会

会期：2017年6月18日(日)／会場：栃木県・矢板市立矢板中学校体育館



体育館内に環境ポスターを掲示



表彰台横に環境ポスターを掲出し、参加者の目に留まるようにした

# (公社)日本アメリカンフットボール協会

JAPAN AMERICAN FOOTBALL ASSOCIATION

## ●三菱電機杯 第72回毎日甲子園ボウル「地域美化推進活動“Clean Up Action”」

会期：2017年12月17日(日)／会場：兵庫県・「阪神甲子園球場」周辺8駅／参加人数：約2,000名



関西地区 阪神今津駅  
大阪大学



関西地区 阪神武庫川駅  
追手門学院大学



関西地区 阪神甲子園球場  
最終地点



九州地区  
西南学院大学



東北地区  
東北大学



北陸地区  
金沢工業大学



# (公社)日本チアリーディング協会

Foundation of Japan Cheerleading Association

## ●JAPAN CUP 2017日本選手権大会

会期：2017年8月18日(金)～20日(日)／会場：東京都・国立代々木競技場第一体育館



環境ポスターを手に記念撮影をする高等学校部門優勝チーム



会場内に環境バナーを掲示

## ●第11回チアリーディング・アジア・インターナショナル・オープンチャンピオンシップ／第4回アジア・ジュニア・チアリーディングチャンピオンシップ

会期：2017年5月13日(土)、14日(日)  
会場：群馬県高崎市・高崎アリーナ



大会パンフレットに環境広告を掲載

## ●第9回チアリーディング世界選手権大会

会期：2017年11月11日(土)、12日(日)  
会場：群馬県高崎市・高崎アリーナ



大会パンフレットに環境広告を掲載

## ●サマーキャンプ(夏期集中講習会)

会期：2017年7月26日(水)～28日(金)  
会場：東京都・国立オリンピック記念青少年総合センター



講習会会場内の正面に環境ポスターを掲示。またゴミの分別収集を行った

## ●事務室内掲示



事務局内に環境ポスターを掲示

# (公社)日本コントラクトブリッジ連盟

Japan Contract Bridge League

## ●第51回アジアパシフィックブリッジ選手権

会期：2017年5月28日(日)～6月7日(金)  
会場：韓国 ソウル・リビエラホテル



代表選手6名(遠藤瑛輔、山本哲太郎、及川直弥、片桐直人、江口秀太、今給黎英嗣)

## ●任天堂杯

会期：2017年12月2日(土)、3日(日)  
会場：大阪ブリッジセンター



ごみの分別の徹底を行った

## ●全日本地域対抗チーム選手権／浜松リジョナル

会期：2017年7月29日(土)、30日(日)  
会場：静岡県・グランドホテル浜松



競技参加者が後片付けに一部協力した

## ●玉川高島屋S・C杯

会期：2017年4月15日(土)、16日(日)  
会場：東京都・玉川高島屋S・Cアリーナホール、四谷ブリッジセンター



環境啓発ポスターを常設会場に設置



常設会場のゴミの分別収集



競技開始前に環境保全への協力をアナウンス



# (一社)日本フライングディスク協会

JAPAN FLYING DISC ASSOCIATION

## ●リサイクル活動～ゴミとして捨てられる段ボールを活用し、フライングディスクを製作

会期：2017年7月22日(土)、10月14日(土)／会場：大阪府貝塚市／参加人数：110名



工作風景



段ボールをリサイクルしたフライングディスク

## ●第2回熊本ビーチアルティメット大会

会期：2017年4月8日(土)、9日(日)

会場：熊本県・御立岬海水浴場／参加人数：130名



大会でのビーチクリーン活動

## ●第1回南三陸ビーチアルティメット

会期：2017年9月3日(日)

会場：宮城県・サンオーレそではま／参加人数：143名



大会でのビーチクリーン活動

## ●2017蒲郡ビーチアルティメット& ディスクフェスティバルIn LAGUNA

会期：2017年10月7日(土)、8日(日)

会場：愛知県・蒲郡市ラグーナビーチ／参加人数：371名



大会でのビーチクリーン活動

## ●2017熱海ビーチアルティメット大会

会期：2017年10月14日(土)、15日(日)

会場：静岡県・熱海サンビーチ／参加人数：877名



大会でのビーチクリーン活動

# (公財)日本スポーツ協会

Japan Sports Association

## ●生涯スポーツ・体力づくり全国会議2018 —人・スポーツ・未来—

会期：2018年2月2日(金)／会場：広島県・グランドプリンスホテル広島

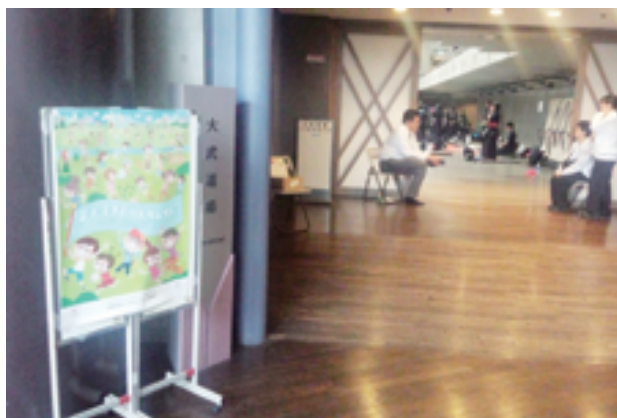


会場入口付近に環境ポスターを掲示。参加者に対し環境保全を喚起



## ●第40回全国スポーツ少年団剣道交流大会

会期：2018年3月25日(日)～27日(火)／会場：東京都・東京武道館



会場入口付近に環境ポスターを掲示。参加者に対し環境保全を喚起





# (特非)日本オリンピック・アカデミー

Japan Olympic Academy (JOA)

## ●JOAセミナー

会期：2017年5月28日(日)／会場：東京都・明治大学 駿河台キャンパス



登壇者の皆さん



藤原庸介講師

## ●JOAセミナー

会期：2017年5月28日(日)／会場：東京都・明治大学 駿河台キャンパス



園田俊介講師



会場風景

## ●第40回JOAセッション

会期：2017年12月16日(土)／会場：東京都・国士舘大学 多摩キャンパス



和田浩一氏による基調講演



登壇者の皆さん

# 平成 29 年度 スポーツ環境専門部会活動報告書

JOC Sport and Environment Commission Report 2017

■写真によるスポーツ環境の啓発活動報告	2
Photographic Report of Activities on Sport and Environment	

## 本文目次・Contents

1. スポーツ環境専門部会活動の 意義について	57
Objective of the JOC Sport and Environment Commission	
2. 第 13 回 JOC スポーツと環境・ 地域セミナー 開催報告	58
Report of the 13th JOC Regional Seminar on Sport and Environment	
3. 第 14 回スポーツと環境担当者会議（総務委員会） 開催報告	61
Report of the 14th JOC National Sport Federations Conference on Sport and Environment	
4. スポーツ環境保全、啓発・ 実践活動状況について	63
Issues Regarding Awareness and Implementation Activities	
(1) 各競技団体等の活動	64
Activities of the JOC affiliated NFs and organizations	
(2) JOC スポーツ環境専門部会員の活動	114
Activities of the member of JOC Sport and Environment Commission	
(3) スポーツと環境に関するアンケート集計結果について	116
Results of the Questionnaire Regarding Environmental Activities of NFs	
(4) スポーツと環境についてのレクチャー原稿	119
Lecture draft on Sport and Environment	





<b>5. IOC 持続可能性と レガシー委員会について</b> .....	127
IOC Sustainability and Legacy Commission	
<b>6. 東京 2020 オリンピック・ パラリンピックに向けた取り組み</b> .....	128
Activity for TOKYO 2020 Olympic/Paralympic Games	
<b>7. 関連資料</b> .....	131
References	
(1) JOC スポーツ環境活動者一覧 .....	131
JOC Activities Person of Sport and Environment	
JOC スポーツ環境専門部会 .....	131
JOC Sport and Environment Commission	
本会加盟団体（スポーツ環境担当者） .....	132
National Federation	
(2) IOC 持続可能性とレガシー委員会 .....	135
IOC Sustainability and Legacy Commission	
(3) OCA スポーツと環境委員会 .....	135
OCA Sport and Environment Committee	
(4) IOC スポーツ環境委員会小史 .....	136
Brief History of the IOC Sport and Environment Commission	
(5) JOC スポーツ環境専門部会小史 .....	137
Brief History of the JOC Sport and Environment Commission	
(6) オリンピック・アジェンダ 2020 20 + 20 の提言（抜粋） .....	138
IOC OLYMPIC AGENDA 2020	

## 1

## JOCスポーツ環境専門部会活動の意義について

Objective of the JOC Sport and Environment Commission



公益財団法人日本オリンピック委員  
スポーツ環境専門部会  
部会長 野端 啓夫

2017年度（平成29年度）の公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）スポーツ環境専門部会の活動に対し、ご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

2017年度の環境専門部会の主な活動は、異常気象や自然災害の原因となっている地球温暖化に危機感を持ち、スポーツを楽しめる環境を50年後、100年後の子供たちに残すために環境保全の啓発に取り組んで参りました。

その一環として、「来たときよりもキレイに！」とスローガンが記された環境保全ポスターを各競技大会のパンフレットに掲載していただき、指導者・アスリートの皆さんに対して、環境に興味を持ち、エネルギー・資源の節減やゴミの分別など、できることから実行していこうと訴えて参りました。JOCでは、地球環境保全のスポーツ界における啓発・実践活動の必要性を理解していただき、実践の協力を呼びかける事を目的として、平成30年度は11月28日に高崎市にて環境・地域セミナーを開催する予定です。

具体的な環境活動の事例としては、スポーツ施設の照明や冷暖房の調整による節電、ゴミの分別などがあります。環境貢献として中古ボールやラケット等のリユース活動、植樹活動、競技場周辺の清掃活動などが挙げられます。

これまでに環境専門部会にて完成させたツールを生かし「スポーツ環境の啓発活動」から、来る東京2020大会に向けスポーツを通じて地球環境・地域環境の大切さを発信できればと考えます。

環境専門部会にて完成させたツールは以下のとおりです。

- ①シンボルアスリートによる地球環境危機動画として環境省が製作、JOCが協力した映像を各競技会場で流し、環境保全の啓発に取り組む。
- ②各加盟団体にて行われている指導者研修会の場にて、指導者に対して「スポーツと環境」の研修を実践してもらうためのレクチャー原稿を作成。
- ③オリンピック・パラリンピック等経済界協議会との連携を深め、「KEEP THE STADIAM CLEAN」（競技会場美化活動）や「カーボンオフセット」の活動を広げていく。

今後も東京2020大会に向けて、組織委員会・東京都・環境省・民間団体（経済界協議会）・JOCが一体となり、啓発活動から更に一歩突っ込んだ環境保全活動を推進していきたいと考えます。



## 2

## 第13回JOCスポーツと環境・地域セミナー 開催報告

Report of the 13th JOC Regional Seminar on Sport and Environment

## ■開催概要

1. 趣 旨：公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）は、平成13年度からスポーツ環境専門部会を設置し、環境に係わる啓発・実践活動を推進している。その活動のひとつとして、例年JOCパートナー都市で開催している標記セミナーを今年度は川崎市で開催し、川崎市のスポーツ関係者を対象としてスポーツ界における地球環境保全の必要性について改めて考え、どのように実践に移していくかを学ぶことを目的に実施した。
2. 主 催：公益財団法人日本オリンピック委員会
3. 共 催：川崎市（JOCパートナー都市）
4. 後 援：スポーツ庁、環境省、公益財団法人日本体育協会、  
公益財団法人川崎市スポーツ協会、川崎市スポーツ推進委員連絡協議会
5. 日 時：平成29年11月26日（日） 13:30～16:30
6. 場 所：川崎市産業振興会館ホール（川崎市幸区堀川町66番地20）
7. 参加者：JOC、川崎市、日本体育協会、川崎市スポーツ協会、川崎市スポーツ推進委員協議会、  
スポーツ関係団体、JOCパートナー都市 他 229名
8. プログラム：
  - 13:30 開会 主催者挨拶  
平岡 英介 JOC 副会長兼専務理事  
福田 紀彦 川崎市長
  - 13:45 対談「スポーツと環境の関わり」  
大久保秀昭 慶應義塾体育会野球部監督／オリンピック（野球）  
荻原 健司 JOC スポーツ環境専門部会員／  
オリンピック（スキー／ノルディック複合）  
田中 丈夫 JOC スポーツ環境専門部会員／  
（公財）東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会  
大会準備運営第一局持続可能性部長  
西山 雄二 JOC スポーツ環境専門部会員／横浜市市民局局長  
コーディネーター： 宮下 純一 JOC スポーツ環境専門部会員／  
オリンピック（水泳／競泳）
  - 15:00 休憩
  - 15:15 プレゼンテーション「スポーツを通じた環境保全の啓発・実践活動」  
「川崎市の環境に係る取り組みについて ～地球温暖化対策の取組～」  
宮川 潔 川崎市環境局地球環境推進室担当課長  
「Jリーグクラブとしての地域環境保全へ向けた普及啓発の取り組みについて」  
井上 剛 株式会社川崎フロンターレサッカー事業部  
集客プロモーショングループ  
コーディネーター：野端 啓夫 JOC スポーツ環境専門部会長／JOC 理事
  - 16:20 閉会の挨拶  
野端 啓夫 JOC スポーツ環境専門部会長／JOC 理事
  - 16:30 閉会

## ■セミナー概要

JOC パートナー都市である川崎市の産業振興会館ホールで「第13回 JOC スポーツと環境・地域セミナー」を開催。本セミナーは、川崎市を中心としたスポーツ関係者とともに、スポーツ界における地球環境保全の必要性について改めて考え、その活動をどのように実践に移していくかを一緒に学ぶことを目的に行われ、今年度は川崎市内のスポーツ関係者など 229 名が参加した。

はじめにセミナー開催にあたり、主催者を代表して平岡英介 JOC 副会長兼専務理事は、国際オリンピック委員会 (IOC) と JOC などの国内オリンピック委員会が、オリンピック・ムーブメントの一つとして日頃から環境問題に取り組んでいることを説明。「川崎市の皆様方と我々がなぜ環境問題に取り組んでいかなければならないのか、どのように取り組めば良いのかを、一緒に考える機会をいただきました。大変ありがとうございます」と感謝の意を示し、「今日は我々がスポーツ界において果たすべき役割を明確にして、豊かな社会の実現、世界平和を含めて環境問題にしっかり取り組むための方法を模索していきたいと考えております」と開会の挨拶。続けて開催地を代表して福田紀彦川崎市長は、「多摩川がとてもきれいになった」というエピソードと共に、川崎市民約 1.5 万人が参加し 38 年間続いている多摩川の美化活動を紹介。「私はその美化活動に子供の頃から携わってきたお陰で、環境マインドが自然と身につきました。全てのスポーツに携わる、スポーツを愛する人たちが環境マインドを持って過ごしていると、世の中が確実に良い方向に変わっていくんだということを、私たち川崎市民は証明してきたと思います。JOC さんが今回、この川崎でシンポジウムをやろうと選んでいただいたことを私は大変誇りに思いますし、JOC のパートナー都市としてふさわしい都市であり続けたいと思っています」と述べた。

### ●基調対談「スポーツと環境の関わり」

基調対談「スポーツと環境の関わり」ではオリンピックで慶應義塾大学体育会野球部の大久保秀昭監督と、いずれも JOC スポーツ環境専門部会員であるオリンピックの荻原健司さん、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会大会準備運営第一局の田中丈夫持続可能性部長、横浜市市民局の西山雄二局長がパネリストとして参加。同じく JOC スポーツ環境専門部会員でオリンピックの宮下純一さんがコーディネーターを務め、それぞれの立場から環境に対する取り組みを共有した。

まず、東京 2020 大会における取り組みを田中持続可能

性部長が紹介。大会の基本コンセプトに従った取り組みの一つとして「持続可能性」を掲げている背景と、大会組織委員会で策定した「持続可能性に配慮した運営計画」で定めている方針、目標、施策などを説明した。

「東京の夏は暑いですが、運営側としてどのような配慮を計画していますか？」という荻原さんからの質問に、田中部長は「遮熱性のアスファルト、水蒸気(ミスト)の噴射、植樹など色々検討をしています」と回答。競技をするアスリートだけでなく、長時間観戦する観客のコンディションも考慮して、日陰をつくったり、水を提供するなどの対策を考えていると明かした。

次に、横浜市のトライアスロン競技大会における「カーボン・オフセット」について西山局長が説明した。同市ではエリート競技者も参加する「世界トライアスロンシリーズ横浜大会」と、小学生から気軽に参加できる「横浜サイドトライアスロン大会」の 2 大会で、海底で CO<sub>2</sub> を吸収する「ブルーカーボン」に注目したカーボン・オフセットを実施。大会参加者から「環境協力金」を参加費に含む形で徴収し、横浜市漁業協同組合協力のもと地元産わかめの地産地消を促すことで CO<sub>2</sub> 排出量をオフセットする、という内容を紹介した。

カーボン・オフセットの実績が毎回公表されていることも付け加えた西山局長は、「プレーヤーはどうしてもプレーすることに集中してしまうので、『実は裏でこんな努力をしているんだ』といったようにスポーツが出来る状況をしっかり認識するというのが本当に大事だなと感じます」と、取り組みに対する思いを語った。

JOC からは環境省の地球温暖化対策キャンペーン「COOL CHOICE」とのコラボレーションを紹介。リオデジャネイロオリンピックメダリストの吉田沙保里選手(レスリング)、三宅宏実選手(ウエイトリフティング)、海老沼匡選手(柔道)の 3 人が出演する映像を制作し、スポーツイベントなどで流していることを宮下さんが説明した。

また荻原さんは元スキー競技者の視点で冬季競技の危機について言及。温暖化の影響で世界は深刻な雪不足が発生しており、「このまま温暖化が進むと、2080 年に冬のオ



オリンピックを開催できる都市が世界で6つしか存在しなくなる」という調査結果も紹介した。

「有限な資材の再活用」というテーマでは、大久保監督が木製バットの再利用に関する事例として、折れたバットが箸や靴べらとして再加工される仕組みを説明。東京2020大会の選手村の「ビレッジプラザ（選手のリラックススペース）」が各地の木材を借りて建てられることや、不要になった携帯電話などの金属からメダルを作る「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」の推進、今年9月に行われた「横浜シーサイドトライアスロン大会」で山梨県道志村の間伐材を利用した木製メダルを贈呈したことなどが田中持続可能性部長、西山局長からそれぞれ紹介された。

最後に荻原さんが対談を総括し、「環境保全活動というのは突き詰めれば一人ひとりの取り組みになりますが、どうせやるならみんなで集まって、にぎやかに出来る活動が良いですね。我々の競技で言えば、もっと雪を愛する、スキーを愛する人が集まって一斉にできるイベントをやればいいと思います」とコメント。「我慢するとか苦しいものではなく、みんなで楽しくやっていきましょう」と呼びかけた。

## ●プレゼンテーション

### 「スポーツを通じた環境保全の啓発・実践活動」

後半はJOCスポーツ環境専門部会長の野端啓夫理事がコーディネーターを務め、「スポーツを通じた環境保全の啓発・実践活動」をテーマに2名がプレゼンテーションを行った。

まずは川崎市環境局地球環境推進室の宮川潔担当課長が「川崎市の環境に係る取り組みについて ～地球温暖化対策の取り組み～」を発表。今年10月に人口150万人を突破した川崎市は、かつては大気汚染や多摩川の汚れが非常に目立っていた。事業者、市民、行政が一体となった対策を行い、環境の大幅な改善に成功したと語った宮川課長は、同市の特徴としてCO<sub>2</sub>排出量のうち産業部門の構成比が高いという点を示した。その対策として、特に臨海に拠点をおく各企業がそれぞれ環境技術を高める努力を行った結果、省エネ対策や廃棄物処理・リサイクルなどに関するノウハウが蓄積。それが東南アジアを中心とした世界の環境問題解決にも貢献していると説明した。

また、宮川課長は企業との取り組みとして行っている「川崎水素戦略リーディングプロジェクト」や、2箇所の発電所における再生可能エネルギー導入のほか、地域住民や事業者と一体となった温暖化対策の事例として体験型教育プ

ログラムの実施、福田市長の冒頭あいさつでも言及があった多摩川の美化活動、里山の保全活動などを紹介。ごみの排出や食品ロスを削減するための仕組みづくりや啓蒙活動なども合わせ、多岐にわたる取り組みが共有された。

続いては川崎市に拠点を置くプロスポーツチームを代表し、株式会社川崎フロンターレサッカー事業部集客プロモーショングループの井上剛さんが登壇。「Jリーグクラブとしての環境保全へ向けた普及啓発の取り組みについて」と題した発表を行った。

井上さんは、CO<sub>2</sub>削減のために同市が推進する「カーボン・チャレンジ川崎エコ戦略（CCかわさき）」に基づいて構築した「カーボン・チャレンジ等々力（CC等々力）」がチームのエコ活動の軸になっていると説明。ホームゲームを開催する等々力競技場で実施しているリユース食器の導入、エコキャップの回収、サポーター団体と協力した清掃活動、太陽熱温水器の設置などのほか、クラブ事務所の壁面緑化、川崎市環境局と連携した啓発キャンペーン、選手会主催の多摩川清掃活動、自治体や企業が各々で行っているエコ推進事業が一同に会した川崎市最大の参加型エコイベント「エコ暮らしこフェア」の開催など、様々な事例を紹介した。

これらの活動はクラブと市民とをつなぐ大切な事業であり、スポーツを通じて地域貢献が出来ると同時にクラブとしてポジティブなイメージを発信できる場としてもメリットがあると語った井上さん。プロスポーツとして勝ち負けという要素がチームの経営を大きく左右する側面があるのが難しいとしながらも、「勝ち負けだけではないところでクラブを好きになってもらうために、イベントにより地域性を出して、誰にでも『すごい』、『楽しい』と思ってもらえるような活動を続けていくことがプロスポーツチームの一つの使命だと思っています」と力を込めた。

セミナーの最後に、野端スポーツ環境専門部会長の閉会の挨拶。「環境保全の取り組みというのは、ゴールの見えない活動でもあります。しかし、着実に温暖化の影響が深刻になっている今、スポーツを楽しめる環境を50年後、100年後の子供達に何があっても残さなければいけません」と、将来を見据えた環境保全活動の重要性を訴えた。そして、今回の参加者に向けたお願いとして「セミナーで皆さんが感じられたこと、このまま温暖化が進むことへの危機感や、まず自分に出来ることをするという重要性を、仲間の指導者や選手、子供達にぜひ伝えて頂きたいと思います」と呼びかけて、セミナーを締めくくった。

## 3

## 第14回JOCスポーツと環境担当者会議(総務委員会フォーラム)開催報告

Reports of the 14th IOC National Sport Federations Conference on Sport and Environment

## ■開催概要

1. **趣 旨** : スポーツにおける持続可能性への理解を深めると共に、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会(東京 2020 大会)に向けた関係者・関係団体との地球環境保全への連携、実践活動の推進を図るために標記会議を開催する。
2. **主 催** : 公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)
3. **日 時** : 平成 30 年 3 月 7 日(水) 14:55 ~ 16:25  
※「総務委員会フォーラム」10:00 ~ 16:30 の中で実施をした。
4. **場 所** : 味の素ナショナルトレーニングセンター 1 階 研修室 1 ~ 3
5. **出席者** : 本会役員、本会スポーツ環境専門部会員、本会加盟競技団体環境担当者他 63 名(総務委員会フォーラム全体 145 名)

## ■プログラム:

- 14:55 開会挨拶 野端啓夫 JOC 理事 / JOC スポーツ環境専門部会部会長
- 15:00 情報提供  
東京 2020 大会持続可能性に配慮した運営計画第二版の方向性について  
東京オリンピック・パラリンピック組織委員会総務局持続可能性部持続可能性計画課長  
山下淳生
- 15:25 グループディスカッション  
テーマ: 東京 2020 大会に向けた環境保全実践活動について  
コーディネーター: 野端啓夫 JOC 理事 / JOC スポーツ環境専門部会部会長
- 16:25 閉会

## ■会議概要

日本オリンピック委員会(JOC)は3月4日、平成29年度「総務委員会フォーラム」を味の素ナショナルトレーニングセンター(味の素トレセン)で開催。これは、「女性スポーツ専門部会」「アントラージュ専門部会」「スポーツ環境専門部会」の3つの専門部会による合同フォーラムで、今年度はJOC、JOC加盟競技団体(NF)の役職員ら57団体145名が参加した。

午後から行われたスポーツ環境専門部会「スポーツと環境担当者会議」では、はじめに野端啓夫 JOC 理事 / スポーツ環境専門部会会長が「平成29・30年度スポーツ環境専門部会活動」について報告した。

続いて、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の山下淳生総務局持続可能性部持続可能性計画課長が、「東京 2020 大会持続可

能性に配慮した運営計画第二版の方向性について」と題し情報提供。大会における「持続可能性」の重要性のほか、持続可能性運営計画(第二版)の構成要素や施策案、また、計画の策定スケジュールなどを共有した。

これを受けて、「東京 2020 大会までの3年間、啓発活動から実践活動に向けてスポーツ環境専門部会として何ができるか」をテーマに、参加者は6班に分かれてグループディスカッションを実施。各グループからは「用具をリユースする仕組み作り」「NFの運営にかかる事務作業や大会運営をウェブ化(ペーパーレス化)」「トップアスリートによる環境啓発」「環境保全啓発ポスターの外国語化」などの具体案があがった。

最後に野端部会長は、「同部会で今回寄せられた意見を参考にしながら2020年、またその先に向けた取り組みを検討していく」と締めくくった。



■出席者一覧

所属先	出席者名
(公財) 日本オリンピック委員会	齋藤 泰雄
	松丸 喜一郎
	小風 明
	塚原 光男
	野端 啓夫
	風間 明
	齋藤 由紀
	玉利 聡一
(公財) 日本サッカー協会	江川 純子
(公財) 全日本スキー連盟	矢船 保夫
(公財) 日本テニス協会	千葉 輝夫
(公社) 日本ボート協会	加藤 直美
	黒田 直子
(公財) 日本バレーボール協会	齋藤 聖二
(公財) 日本バスケットボール協会	向山 悟
(公財) 日本スケート連盟	天野 好人
	森村 直樹
(公財) 日本アイスホッケー連盟	宮尾 博一
	新屋 清喜
(公財) 日本レスリング協会	桑田 信昭
(公財) 日本ハンドボール協会	河上 千秋
(公財) 日本卓球協会	羽生 綾子
(公財) 全日本軟式野球連盟	吉岡 大輔
(公財) 日本相撲連盟	中谷 有紀
(公社) 日本馬術連盟	木口 明信
	長友 満則
	八木 由里
(公社) 日本フェンシング協会	加藤 裕子
(公財) 全日本柔道連盟	黒田 正人
(公財) 日本ソフトボール協会	加瀬 俊介
(公財) 全日本弓道連盟	戸部 孝仁
(公社) 日本ライフル射撃協会	田村 恒彦
	松島 愛

所属先	出席者名
(公社) 日本近代五種協会	黒白 昭二
(公財) 日本ラグビーフットボール協会	高野 敬一郎
(公社) 日本山岳・スポーツクライミング協会	松隈 豊
(公社) 全日本アーチェリー連盟	工藤 潤一
(公社) 全日本銃剣道連盟	鈴木 健
(一社) 日本クレール射撃協会	大江 直之
(公財) 日本ボウリング協会	宮内 久美子
(一社) 日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟	間野 史子
	居石 真理絵
(一財) 全日本野球協会	柴田 穰
(公社) 日本武術太極拳連盟	勝部 典子
	神庭 裕里
(公社) 日本カーリング協会	長谷川 庄一
(公社) 日本トライアスロン連合	楠 里沙
(公財) 日本ゴルフ協会	塩田 良
(公社) 日本スカッシュ協会	丹野 由規
(公社) 日本ボディビル・フィットネス連盟	岩崎 靖
(一社) 日本サーフィン連盟	宗像 富次郎
(一社) 日本ローラースポーツ連盟	岩片 則雄
	脇 弥恵子
	松本 昌子
(一社) 日本カバディ協会	河合 陽児
(一社) 日本セパタクロー協会	野田 哲由
(一社) 日本クリケット協会	本島 由起子
(公社) 日本チアリーディング協会	北野 綾子
(公社) 日本コントラクトブリッジ連盟	大政 哲人
	高野 英樹
(公社) 日本パワーリフティング協会	宮本 英尚
(一社) 日本フライングディスク協会	梅原 貴正
	弓田 恵里香

## 4

## スポーツ環境保全、啓発・実践活動状況について

Issues regarding awareness and implementation activities

## (1) 各競技団体の活動

(公財) 日本陸上競技連盟……………	64	(公社) 日本近代五種協会……………	91
(公財) 日本水泳連盟……………	65	(公財) 日本ラグビーフットボール協会…	91
(公財) 日本サッカー協会……………	66	(公社) 日本山岳・スポーツクライミング協会…	93
(公財) 全日本スキー連盟……………	68	(公社) 日本カヌー連盟……………	94
(公財) 日本テニス協会……………	69	(公社) 全日本アーチェリー連盟……………	94
(公社) 日本ボート協会……………	70	(公財) 全日本空手道連盟……………	95
(公社) 日本ホッケー協会……………	71	(公社) 全日本銃剣道連盟……………	96
(公財) 日本バレーボール協会……………	72	(公財) 全日本なぎなた連盟……………	96
(公財) 日本体操協会……………	73	(公財) 全日本ボウリング協会……………	97
(公財) 日本バスケットボール協会……………	73	(一財) 全日本野球協会……………	97
(公財) 日本スケート連盟……………	74	(公社) 日本武術太極拳連盟……………	99
(公財) 日本アイスホッケー連盟……………	75	(公財) 日本カーリング協会……………	100
(公財) 日本レスリング協会……………	76	(公社) 日本トライアスロン連合……………	100
(公財) 日本セーリング連盟……………	77	(公財) 日本ゴルフ協会……………	102
(公社) 日本ウエイトリフティング協会…	78	(公社) 日本スカッシュ協会……………	102
(公財) 日本ハンドボール協会……………	79	(公社) 日本ボディビル・フィットネス連盟…	103
(公財) 日本自転車競技連盟……………	80	(一社) 全日本テコンドー協会……………	103
(公財) 日本ソフトテニス連盟……………	81	(公社) 日本ダンススポーツ連盟……………	104
(公財) 日本卓球協会……………	82	(一社) 日本バイアスロン連盟……………	105
(公財) 全日本軟式野球連盟……………	83	(一社) 日本サーフィン連盟……………	106
(公財) 日本相撲連盟……………	84	(一社) 日本カバディ協会……………	106
(公社) 日本馬術連盟……………	84	(一社) 日本セパタクロー協会……………	107
(公社) 日本フェンシング協会……………	85	(一社) 日本クリケット協会……………	108
(公財) 全日本柔道連盟……………	86	(公社) 日本アメリカンフットボール協会…	108
(公財) 日本ソフトボール協会……………	87	(公社) 日本チアリーディング協会……………	109
(公財) 日本バドミントン協会……………	88	(公社) 日本コントラクトブリッジ連盟…	110
(公財) 全日本弓道連盟……………	89	(公社) 日本オリエンテーリング協会…	111
(公社) 日本ライフル射撃協会……………	89	(公社) 日本パワーリフティング協会…	111
(一財) 全日本剣道連盟……………	90	(一社) 日本フライングディスク協会…	112

## (2) スポーツ環境専門委員の活動

松岡修造委員……………	114
宮下純一委員……………	115

※(公財)=公益財団法人、(公社)=公益社団法人、(一財)=一般財団法人、(一社)=一般社団法人





## (1) 各競技団体等の活動

Activities of the JOC affiliated NFs and organizations

### (公財) 日本陸上競技連盟

#### 1. 実施概要

大会やイベント、その他事業や事務局内での環境保全取り組みについて、環境保全に繋がる活動を積極的に行い、一つひとつの活動に対し、環境の保護と配慮を意識していくと共に、環境への負荷を極力減らすような活動を継続的に行っている。

#### 2. 平成 29 年度事業活動

- 大会表彰時に環境啓発バナーの掲示
- 大会及び事務局内でのポスター掲示
- 大会時競技場内のクリーン化、資源ゴミ回収、周辺環境の美化
- 大会時のカーボンオフセットやハイブリットカー等による環境配慮
- 大会時のリサイクル資源の活用
- 専用システム・アプリを使用したペーパーレス化
- 事務局内での google システム (G-suite) を利用した印刷軽減とデータ共有
- 発行物、出版物作成部数の検討
- 事務局内のゴミ分別の徹底

#### 3. 具体的な活動実施内容とその成果

##### ①大会表彰時に環境啓発バナーの掲示

国際陸上競技連盟主催の年間シリーズ (全 9 戦) 「IAAF ワールドチャレンジ」の第 2 戦となるゴールデングランプリ陸上 2017 川崎大会にて、環境啓発ポスターの掲示や参加選手に協力いただいて、啓発活動を行った。

##### ②大会及び事務局内でのポスター掲示、大会プログラム掲載

本連盟主催大会で環境啓発ポスターを掲示し、大会関係者・選手のみならず観戦者も含め、環境活動の重要性をアピールした。また、事務局内会議スペースの目の届きやすい入口に、環境ポスターを掲示し、本連盟来訪者に対して意識していただけるようにしている。

##### ③大会時競技場内のクリーン化、資源ゴミ回収、周辺環境の美化

大会開催時に、競技場内のクリーン化や見回りによるゴミ放置の注意指導はもちろん、資源ゴミの回収及びリユース回収箱の設置などを行った。

##### ④大会時のカーボンオフセットやハイブリットカー等による環境配慮

大会開催によって温室効果ガスの排出をできる限り削減し、排出分の埋め合わせをするために、マラソン大会のスポンサー企業と協力して、大会当日使用する輸送関係や大会運営車の CO<sub>2</sub> 排出量を把握し、ハイブリットカーの導入や周辺の森林環境整備を行い、温室効果ガスの削減努力をすることにより、環境配慮を行っている。

##### ⑤大会時のリサイクル資源の活用

東京マラソンでは、大会前の EXPO 会場にて衣類やスポーツウエアなどのリユース品回収を行い、マレーシアで仕分けされた後、世界 15 カ国に送る活動をし、資源の有効活用の一環として行っている。

## ⑥専用システム・アプリを使用したペーパーレス化

参加エントリープロセスのペーパーレス化や、専用システム・アプリを利用した大会詳細情報のWEB化を行い、環境に配慮している。

## ⑦事務局内での google システム (G-suite) を利用した印刷軽減とデータ共有

事務局内のインフラ整備を行い、事務局員同士・外部関係者とのデータ共有化や PC 画面での資料共有を実施し、印刷物を減らすよう努めている。また、複合機と社員カードを連動させ、個人の印刷量確認も行っている。

## ⑧発行物、出版物作成部数の検討

本連盟で発行するパンフレットや出版物について、制作単価よりも廃棄リスクを第一に検討し、配布数や販売数をあらかじめ詳細に見積もり、余剰分が出ないように配慮をしている。

## ⑨事務局内のゴミ分別の徹底

事務局内のゴミについて、資源ゴミと燃える・燃えない・ビン／カン／ペットボトルに分け、ペットボトルはラベルを剥がしキャップも外して分別をするようにしている。

## 4. 全体的な成果と今後の課題

環境に関する啓発活動を日常から大会準備・大会前後も含めて積極的に行い、会場に限らず地域や周辺環境にも配慮しながら、環境への負荷を極力減らした大会運営やエコ推進活動を今後も実施していくと共に、事務局内をはじめ関係者や参加者、観戦者も含め、身近に環境活動に触れてもらう機会を増やしていきたい。

## 5. JOC スポーツ環境専門部会員 風間 明

中央競技団体として、率先して環境への配慮を考えながら大会やイベント事業に引き続き取り組んでいくと共に、加盟団体・協力団体・大会事務局・スポンサーなどと連携を図りながら、来訪者・選手・運営役員などすべての人に対して、環境への意識づけを行っていきたい。

.....

## (公財) 日本水泳連盟

.....

## 1. 実施概要

『水』有りきのスポーツ競技団体として、地球を取り巻く環境保全を常に心がけるよう、持続可能で身近な小さな活動の積み重ねを心がけ、また水泳4団体（日本水泳連盟・日本スイミングクラブ協会・日本マスターズ水泳協会・日本障がい者水泳協会）と共催事業を実施するなど、次世代を主なターゲットとした啓発活動の更なる拡大・促進を図り、連携の輪を広げる。

## 2. 平成29年度事業活動

- 「水泳の日」(2017年5月28日) 総合イベント内にブースを設置、展示と場内での参加型啓発イベント(スタンプラリー) 企画、およびエココンテスト作品(ポスター等)を普及活動に積極的利用
- 連盟や競技関連情報のペーパーレス化・マイボトル運動・エコ製品推進運動、HPでの啓発活動
- 競技会等における環境活動の継続
  - 1) 大会監督者会議での活動告知、環境啓発ページのプログラム掲載 等
  - 2) 場内で参加者と来場者への協力を促す(啓発ポスター・バナー掲示、ゴミ分別等)



### 3. 具体的な活動実施内容とその成果

#### ①「水泳の日」総合イベント内での展示および啓発スタンプラリー

本年より全国各ブロックを巡回する水泳4団体共催「水泳の日」総合イベントを石川県金沢市にて開催。そのイベント内で例年同様ブースを設け委員会活動内容を掲示、同時に場内をエリアとし水泳連盟独自の標語を使用したスタンプラリーを開催。昨年同様多数の参加があり、来場者約1,500名中、約845名が参加・ゴールした。現地学生委員会メンバーの協力によりご当地クイズとのセットで正解を求め、子供たちを中心に人気イベントであった。

#### ②『紙削減プロジェクト』の継続実施・強化

連盟が特に力を注ぐ情報システム化を活用し、即時結果配信システム等の充実により更なる紙での情報配信の削減が強化された。また更に進化し競技会エントリーから記録賞等までの一貫したシステム構築により、あらゆる無駄な資源消費削減に一役買っている。

#### ③競技会等における環境活動

監督者会議でのミニレクチャー、バナーの場内掲載役員集合写真を撮影、休憩時間を利用した場内ビジョンシステムでのアピールメッセージ露出、ゴミの削減を前提とし会場の所轄自治体ルールに則った分別と持ち帰りの実施。プログラムや月刊機関紙『水泳』へのポスター掲載。

### 4. 全体的な成果と今後の課題

スタンプラリーは、水泳4団体で活動する3年目、初めての地方開催の「水泳の日」にも多くの愛好者が参加した。今後も日本各地を巡回開催する予定であり、来場が予想される水泳ファン層へ直接アピールする参加型イベントを更に各地で発展させたい。2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、持続可能でより身近な事から積み上げ、同時に将来のトップスイマーたちにもアピールしていきたい。

### 5. JOC スポーツ環境専門部会員 齋藤 由紀

スポーツ環境委員会は連盟内発足13年となり、昨年に引き続き『水泳の日』内で3度目のイベントを実施。基本的活動内容の理念は、小さなことの積み重ねで日常の延長上にあるという連盟の基本スタンスがかなり浸透し、一般観客参加型企画として成功した。環境活動の持続可能な輪を、特に若年層を含めた水泳愛好者にも広げる事を目指すものであるが、今後はより積極的にトップ選手にも協力を仰ぎ、次の発信力のあるプログラムも企画・具体化したい。

## (公財) 日本サッカー協会

### 1. 実施概要

公益財団法人日本サッカー協会（JFA）の「理念」、および「国連グローバル・コンパクト」における環境3原則（2009年7月に署名）、そして、環境省「チャレンジ25キャンペーン」（2010年1月に登録）に基づき活動を継続。

### 2. 平成29年度事業活動

- 主催／後援競技会等におけるゴミ分別や公共交通機関利用の啓発
- JFA グリーンプロジェクトの推進
- 事務所（JFAハウス）における環境への配慮（クールビズの実施等）
- 倫理規範に基づき、コンプライアンス・SR教育を実施

### 3. 具体的な活動実施内容とその成果

#### ① JFA 事務局内での代表的な活動

評議員会、理事会、常務理事会、研修会、通常会議について、プロジェクター・iPad・ノート PC 使用にて紙削減を実施。その他ウェブ会議の導入も行った。昨年同様、10 万枚規模の削減。

#### ② JFA グリーンプロジェクト

引き続き、都道府県協会、サッカークラブ、自治体、学校、幼稚園・保育園を対象に芝生の苗の提供等を実施。

#### ③ 電子登録証の導入

2015 年度より全登録カテゴリーにて電子登録サービスを導入し、2018 年度に完全電子登録証へ移行。

#### ④ 教育・啓発

倫理規範に基づき、「JFA コンプライアンス・ハンドブック」を 2017 年 9 月に発行。16 遵守事項の中に「自然環境の保全」を位置づけ、今後の教育・啓発における準備について着手した。

#### ⑤ 地域／Jリーグ

ベガルタ仙台	「ユアテックススタジアム仙台を日本一きれいなスタジアムに！」という趣旨の下、着手した同活動も 15 年の実績に。継続して、ゴミの持ち帰り、ゴミの分別、オリジナルタンブラー利用等総合的な取り組みを実施中。
横浜 FC	ニッパツ三ツ沢球技場開催のホームゲームでは、毎回、削減した CO <sub>2</sub> 量を場内の大型映像装置にて削減量を放映、サポーターを巻き込んだエコ活動を展開中。
京都サンガ F.C.	2012 年より、西京極スタジアムの電気使用量やゴミの焼却などによりホームゲームの開催で発生する CO <sub>2</sub> を「DO YOU KYOTO ? クレジット」によってカーボンオフセットしている。
ガンバ大阪	ホームタウンから青少年健全育成や環境事業、街のにぎわい創りへのアシスト（協賛）事業として、「ガンバシスト for ECO」活動の一環として、地域清掃活動を実施。
ファジアーノ岡山	岡山市環境事業課と協働し、10 月・11 月のシティライトスタジアムにて、リユースカップチャレンジ（リユースカップの導入）を実施。
サンフレッチェ広島	「きれいな街は、人の心もきれいにする」をコンセプトに、平和都市・広島をきれいにする活動を定期的実施。
JFA	高円宮杯 U-18 サッカーリーグ 2017 チャンピオンシップ（埼玉スタジアム 2002）にて、オリンピック・パラ等経済界協議会との連携により、ゴミ袋を配り、ゴミ削減の啓発活動を実施。

### 4. 全体的な成果と今後の課題

#### ● JFA

2017 年 8 月開催のユニバーシアード夏季大会では、現地報道にて日本人選手団が自主的に地域清掃活動に取り組んだことが話題となった。継続してサッカー界として、環境負荷削減に努めることに加え、人材育成に努めたい。

#### ● Jリーグ

J 1 から J 3 まで全国 50 クラブ以上の活動の中でも、地域商店会、幼稚園等の各種イベント・巡回に続き、スタジアム周辺等の清掃活動など環境活動が根付いている。



## 5. JOC スポーツ環境専門部会員 玉利 聡一

スマートフォンの契約台数が 9,000 万契約に到達している昨今、JFA では 2017 年に指導者の電子登録証移行を、2018 年度に審判、サッカー選手・監督の電子登録証移行を行い、完全に電子移行を果たします。継続的な取り組みに加え、こうした技術等の活用により、楽しく安心したサッカー界、環境・社会にも寄与するスポーツとして活動を継続します。

# (公財) 全日本スキー連盟

## 1. 実施概要

本連盟は冬季スポーツ競技団体として、地球温暖化による雪不足を切実な問題として捉え、13 年前より「I LOVE SNOW」キャンペーンを展開している。このキャンペーンでは、「自然に対する感謝を表す活動」、「雪を通じた感動体験の共有」、「親子の絆を深める機会の提供」、「健康や楽しみを得るための機会の提供」という四つのキーワードを掲げ、「スノースポーツ」、「アスリート」を通して環境保全に対する啓発活動を行っている。

## 2. 平成 29 年度事業活動

- Fun to Share キャンペーン参加による低酸素社会への啓発活動
- 「I LOVE SNOW」キャンペーン

## 3. 具体的な活動実施内容とその成果

### ① Fun to Share キャンペーン参加による低酸素社会への啓発活動

Fun to Share 宣言『スノースポーツを通して自然の大切さを伝えることで、低炭素社会へ。』を行い、環境保全に対する啓発活動を行った。

### ② 「I LOVE SNOW」キャンペーン

雪の大切さとスノースポーツの楽しさを共有するアイテムとして、「I LOVE SNOW」グッズの販売を行った。販売グッズに間伐材を原料とした繊維で作製したトートバック等を追加した。

#### 〈成果〉

上記の活動により、雪（自然環境）を守ることの大切さ、日常的に意識することが環境保全に繋がることを発信できた。

## 4. 全体的な成果と今後の課題

「I LOVE SNOW」キャンペーンを展開し 13 年目を迎え、継続の重要性を感じているが、キャンペーンの飽和感が否めない状況である。今後は、この状況をベースにし、新たな手法にて啓発活動のステップアップを行いたい。

## 5. JOC スポーツ環境専門部会員 荻原 健司

近年の気象状況の特徴である、時季外れの気温の上昇や降雪地域の偏りは、スノースポーツにかかわる競技者や産業に多大な影響を与えている。また、今後、更に地球温暖化が加速していくことにより、スノースポーツが置かれる環境が厳しくなることは間違いない。世界中の次世代の人々がスノースポーツを楽しむことができるよう、世界に向けて環境保全をアピールしていかなければならない。冬季スポーツ競技団体として、今後も「雪とスノースポーツ」をキーワードに地球温暖化防止や環境保全に関するメッセージを発信したいと考えている。

# (公財) 日本テニス協会

## 1. 実施概要

日本テニス協会(JTA)では、テニス界における環境保全・啓発・実践活動の3つの柱を掲げている。これまでの教育・啓発活動を中心とした環境保全の取り組みを見直し、具体的な成果に通じる活動のための基本方針である「JTA 環境保全基本方針」を一昨年度作成し、ホームページに掲載している。さらに、松岡修造氏による直筆の環境メッセージポスターや、テニス漫画『Baby Steps』に登場する主人公をモデルにした広報用のポスターを活用。また、「ほんのちょっとのエコ活動」をスローガンに日々の生活の中でも環境意識を持ってもらえるよう活動に取り組んでいる。

## 2. 平成29年度事業活動

- 「JTA 環境保全基本方針」の策定、協会ホームページに掲載
- 日本テニス協会主催大会をはじめ、講習会等で環境ポスターやバナーを掲示
- テニス界における環境保全と整備を目的とした活動(3R推進)
- 子どものマナーアップに繋がる継続的なキャンペーンとして「ごみゼロ運動」を実施
- 事務局におけるエコ活動の実践

## 3. 具体的な活動実施内容とその成果

### ① テニス指導者・選手・観客の方々への環境啓発活動

日本テニス協会主催大会をはじめ、講習会等で環境ポスターやバナーを掲示して啓発活動を行っている。なかでも環境ポスターは、とくに子ども達の注目を集め環境への意識を向けるきっかけになっていると感じる。

### ② 「テニスの日」イベントでの啓発活動

毎年9月23日に全国で展開されているテニス普及イベントにおいて、「ほんのちょっとのエコ活動」をスローガンに啓発活動を実施。さらに、子ども達への環境啓発キャンペーンとして「ごみゼロ活動」を行っている。

### ③ グローバル・スポーツ・アライアンス(GSA)との協同事業

毎年「テニスの日」有明メイン会場では、GSAと協力して中古テニスボールと不要になったラケットの回収を行っている。GSAでは、テニスボールのリユース活動として、使い古したボールを全国の学校機関に提供している。ボールは、教室内の騒音対策として机やイスの脚の先に取り付けられ、子ども達の教育環境づくりに役立つだけでなく、大量に廃棄していたゴミの削減にもつながっている。GSAによると2018年3月末までの実績として、延べ5,361校(2017年度+42校)からの依頼、ボール累計596万個(2017年度+31万個)を提供した。さらに今年度中には600万個達成記念式典の開催を予定している。

また、ラケットはGSAと国連環境計画(UNEP)によるサポートのもとケニア・ナイロビで毎年開催されている貧困地域の子子ども達を対象とした環境教育プログラム『GSAドリームキャンプ(Nature & Sport Training Camps)』で活用するために会場となる現地スポーツクラブに寄贈された。

\* GSA ホームページ：<http://www.gsa.or.jp>

### ④ 事務局におけるエコ活動の実践

コピー用紙使用の削減や裏紙を活用している。さらに、紙面による提出物をインターネットによる提出に変更したことや保存書類を紙ベースからデータに変更した。

また、夏季の業務を快適に過ごせる軽装や取組を促す「クールビズ」を継続して、5月1日から



10月31日まで実施した。(環境省の9月末日までの提唱期間をJTAは独自の判断によって10月未まで延長)

#### 4. 全体的な成果と今後の課題

地域・都道府県テニス協会には環境担当者がおり、各地で様々な取り組みの実践がなされている。例えば大会会場では、松岡修造氏の環境啓発ポスターやBaby Stepsのポスターを掲示して環境意識の向上を図っている。今後も日本テニス協会主催大会をはじめ、講習会などで環境バナーやスポーツと環境のシンボル旗「エコフラッグ」、環境ポスターを掲出し、環境保全調査及び啓発・実践活動に取り組んでいく。

今後の課題としては、指導者向けの講習会などにおいて「スポーツと環境」についての講座を企画することや、JOCスポーツ環境専門部会が作成した『スポーツと環境についてのレクチャー原稿』を活用してもらえるように促していく。

#### 5. JOCスポーツ環境専門部会員 大津 克哉

日本テニス協会では、一昨年にこれまでの教育・啓発活動を中心とした環境保全の取り組みを見直し、具体的な成果に通じる活動のための基本方針をまとめた。引き続き、各都道府県協会に向けてこの指針の周知を図っていく。環境への取り組みについては、生涯スポーツあるいはレクリエーションスポーツとしてテニスをするテニス愛好者、競技スポーツとしてテニスの競技会に出場する選手、あるいは大会運営に携わる大会主催者、そして競技会を観戦する観客として、更にはテニスの強化や普及に従事しているテニス協会関係者や指導者として、テニスクラブやテニススクールを運営するテニス事業者など、全てのテニス関係者の問題であり、それぞれが異なった立場や違った形で環境保全に取り組むことが求められている。それには、各々がまず「努力目標」を設定し、私たちテニスを愛するものとして環境保全の大切さを理解し、エネルギー・資源の節約やゴミの分別など、できることから実行することを促していく。(参考：JTA環境保全基本方針 <https://www.jta-tennis.or.jp/information/tabid/498/Default.aspx>)

また、今年度も引き続き『スポーツと環境についてのレクチャー原稿』の資料が指導者向けの講習会をはじめ、あらゆる場面で活用されるように促進していきたい。そして、JOCスポーツ環境部会のスローガンである「スポーツの心、環境と未来へ」をテニス界でも広めていけるよう啓発・実践活動に取り組んでいく。

## (公社) 日本ボート協会

### 1. 実施概要

ボート競技は、例外なく自然の中で行われる競技であり、自然環境の悪化は競技環境の悪化に直結する。また、地球温暖化が原因と言われる「ゲリラ豪雨」など急激な天候悪化の発生はボート競技のインフラを破壊し、選手の安全を損なう可能性がある「大きな脅威」であると言える。

そのためボート関係者は他競技以上に「環境活動」の重要性を認識する必要があり、当協会としてはその点をアピールしながら活動を行ってゆくこととしている。

### 2. 平成29年度事業活動

- 大会時、会議開催時での環境ポスターの掲示
- 大会プログラムへの環境啓発PRの掲載

- 競技会場におけるゴミ分別収集などの環境活動実施
- 練習水域付近の危険物の除去やゴミの回収等の清掃
- セーフティアドバイザー（各都道府県に1名）を通じた各団体への啓発活動

### 3. 具体的な活動実施内容とその成果

#### ①ポスター等によるPR、啓発活動

本会主催大会にて環境啓発ポスターを掲示するなど、啓発活動を行った。また、大会プログラムへ環境啓発ポスターを掲載した。

#### ②講習会における啓発活動

全国セーフティアドバイザー講習会席上において、JOC環境セミナーでの情報なども活用しながら啓発活動を行った（埼玉県戸田市、大阪府高石市で開催）。

#### ③戸田ボートコースにおける水草の除去

初夏から異常発生した水草が水面に達して正常なオールやラダー(舵)の操作が出来ない状態となったため、コースを利用する各団体にも呼びかけ大規模な除去作業を行った。

### 4. 全体的な成果と今後の課題

上記1. 記載の「ボート競技における環境活動の重要性」についての認識は徐々に高まってきている。取り組み内容自体は各地の実情に合わせて行うことを基本とし、関係者の主体性に任せた活動を行ってゆくと、全国各地の取り組みを集約して有効にフィードバックできるような仕組みを設けることとしたい。

## (公社) 日本ホッケー協会

### 1. 実施概要

スポーツ団体が環境保全活動に取り組むことの重要性を広めるよう努めた。協会主催大会において実践し、また各都道府県協会および各連盟にも啓発・実践活動を行わせるよう努めた。今後も全国のホッケープレーヤー及び関係者に環境保全活動に取り組むことの重要性を広めていくことを目標に、さらなる広報・啓発・実践活動に取り組む。

### 2. 平成29年度事業活動

- 大会開催時に環境保全啓発ポスター、横断幕を掲示
- 競技会会場等における環境保全活動を実施
- 研修会開催時に環境保全啓発ポスター、横断幕を掲示

### 3. 具体的な活動実施内容とその成果

#### ①大会開催時の環境保全啓発ポスター、横断幕の掲示

当協会主催大会にて環境啓発ポスター、横断幕の掲示を行い、啓発活動を行った。

#### ②競技会等における環境保全活動

当協会主催大会において、ゴミ箱の設置、清掃活動を行った。

#### ③研修会時の環境保全啓発ポスター、横断幕の掲示

当協会の各種研修会にて環境啓発ポスター、横断幕の掲示を行い、啓発活動を行った。





#### 4. 全体的な成果と今後の課題

ポスター、横断幕の掲示などの啓発活動を実践してきた事が実り、選手・開催地等の関係者に環境保全活動の重要性が理解されてきた。今後はさらにスポーツと環境保全のかかわりの重要性を浸透させ、一人ひとりが自覚して自主的に活動することを促進していきたい。

## (公財) 日本バレーボール協会

#### 1. 実施概要

本協会では、バレーボールを通じて環境保全や環境に関する意識の啓発を推進するべく、従来から実施してきた大会会場での啓発活動やゴミの分別回収等を継続するとともに本協会独自の取り組みとして「バレーボールバンク」事業を展開してきた。

今後もバレーボールファミリー（ファン、加盟団体、プレーヤー、指導者、審判役員等）の皆様と積極的に連携し、環境活動に取り組みたい。

#### 2. 平成 29 年度事業活動

- 大会における環境啓発活動、ゴミの分別やエコキャップの回収及び関係先への寄付
- 事務局における取り組み
- バレーボールバンク事業
- ビーチバレーボール会場での清掃と美化運動

#### 3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①大会における環境啓発活動
  - ・環境バナー、環境ポスターを会場内に掲出。
  - ・大会プログラムにおける環境啓発及び大会会場でのアナウンス実施。
- ②大会におけるゴミの分別
  - ・すべての大会会場においてゴミ分別を実施。
- ③事務局における取り組み
  - ・メール、プロジェクトの活用によるペーパーレス化の推進。
  - ・クールビズ、ウォームビズの実施。
  - ・事務所内に環境啓発ポスターを掲示。

#### ④バレーボールバンク事業

バレーボールバンク事業は、廃棄せざるを得なくなったボールの回収・再利用を主な目的とした本協会独自の社会貢献（国際貢献）プロジェクトであり 2010 年より 8 年が経過した。

その他にも、ネット、ボール籠、ユニフォーム、シューズなど多くのご協力をいただいた。

#### 4. 全体的な成果と今後の課題

環境ポスターやバナー、プログラム等を活用した啓発活動を続けてきたことにより環境に関する知識・意識の浸透が選手や関係者を中心に図られてきた。今年度は昨年度に引き続き、小学生のバレーボール大会に力点を置いて啓発活動を行ってきたが、更に裾野を広げていくための努力を継続したい。

## 5. JOC スポーツ環境専門部会員 小柴 滋

平成29年度は全国小学生バレーボール大会を通じて指導者と子ども達に向けた環境啓発活動を進めるとともにビーチバレーボールでは「来たときよりもキレイに」の合言葉を確実に実現できる大会の開催を目指してきた。今までの取り組みを継続していくとともに、今後は参加選手だけでなく、多くの観客の皆様に向けた環境に対する啓発活動も行っていきたい。

# (公財) 日本体操協会

## 1. 実施概要

公益財団法人日本体操協会では、これまで継続して実施してきた環境保全活動を引き続き実施していく。選手を利用した啓発活動を再開する。

## 2. 平成29年度事業活動

- 環境啓発横断幕の設置
- 炭酸マグネシウム対策
- ゴミ分別回収

## 3. 具体的な活動実施内容とその成果

### ①環境啓発横断幕の設置

これまで同様に、国内で実施される競技会とイベントの会場に、環境啓発に関する横断幕を設置した。これらは、すでに各加盟団体においても横断幕を独自に作り、それぞれの事業において横断幕設置が慣例化されている。

### ②炭酸マグネシウム対策

炭酸マグネシウム対策は、ビニールシートの設置、大会主催者の準備する炭酸マグネシウム以外の利用禁止、競技前後の清掃活動など、従来の方法を継続実施している。

### ③ゴミ分別回収

ゴミの分別回収ボックスを設置し、継続的な分別意識を啓発した。

### ④常務理事会でのペーパーレス化

常務理事会において、会議資料のペーパーレス化を図り、紙資源の節約に努めた。

## 4. 全体的な成果と今後の課題

環境啓発横断幕設置や会議におけるペーパーレスの慣例化については、継続性が重要な本活動にとって意義あることである。一方で、いくつかの大会では横断幕掲出をしなくなった加盟団体もあり、再調査が必要である。いずれにしても、懸案事項は継続して審議していく必要がある。

# (公財) 日本バスケットボール協会

## 1. 実施概要

公益財団法人日本バスケットボール協会〈JBA〉は、スローガンである【次世代を担う子どもたちが、ずっとバスケットボールを楽しめるように！】を常に念頭に置き、スポーツ活動が地球温暖化と無縁ではないことを自覚し、バスケットボールファミリーが共有できるような環境関連のメッ



ページを発信することを使命と考え、積極的に取り組んでいる。

## 2. 平成 29 年度事業活動

- 『環境啓発ポスター』の掲示
- 『環境取組みメッセージ』広告の掲載
- 大会会場における取組の推進とゴミ分別活動の徹底
- 協会内部における環境活動強化

## 3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ① 『環境啓発ポスター』の掲示
  - ・各主催大会およびオフィス内にてポスターの掲示。
- ② 『環境取組みメッセージ』広告の掲載
  - ・日本協会主催大会公式プログラムに、環境ページを掲載し拡く訴求。  
(ウインターカップ 2017 平成 29 年度第 70 回全国高等学校バスケットボール選手権大会)
- ③ 大会会場における取組の推進とゴミ分別活動の徹底
  - ・子供にも分かるようなゴミ分別及び、大会スタッフの巡回によるゴミ回収を実施。
- ④ 協会内部における環境活動強化
  - ・クールビズ（夏季期間）、ウォームビズ（冬季期間）の実施。
  - ・会議資料等の電子化推進、電気使用量削減の徹底。

## 4. 全体的な成果と今後の課題

平成 29 年度は、例年通り実施している環境活動の取り組み（ポスターの掲出、プログラムへの啓発広告）を重点的に実施した。平成 30 年度は、都道府県協会を含めた環境啓発・ゴミ分別活動実施を促進していく。また、選手・バスケットボールファンが常に自然に環境を意識できるような取り組みを考案し実践していきたい。

# （公財）日本スケート連盟

## 1. 実施概要

本連盟では冬季競技のため地球温暖化に伴う諸問題について重く受け止めており、各種セミナー及び競技会をはじめ、連盟内各事業においても継続した環境保全の啓発と実践を推進している。また、個人参加の競技会のため各人の意識が高まらなければ成果が得られず、環境啓発バナー・ポスターの掲示を含め選手・役員及び会場全体への発信を積極的に行っている。

## 2. 平成 29 年度事業活動

- 競技会、講習会での環境バナー・ポスター掲示
- 講習会でのレクチャー
- 競技会でのゴミ分別
- 印刷物の減量化

## 3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ① 環境バナー・ポスター掲示（全日本大会 国際競技会 各種セミナー）

- ・環境保全の必要性についての啓発活動を行った。
- ②セミナーでスポーツと環境について啓発レクチャー
  - ・指導者はもとより競技者自身の自発的な行動を促す。
- ③連盟主催・主管競技会での印刷物の減量化とごみ分別
  - ・競技会運営にかかわる印刷物の減量化のため迅速なウェブ掲載に務めた。
  - ・参加者のみならず観戦者に対しても協力を依頼。
- ④連盟内での各種インフォメーションのウェブ掲載による印刷物・コピーの減量化
  - ・クールビズ（夏季期間）、ウォームビズ（冬季期間）の実施。
  - ・会議資料等の電子化推進、電気使用量削減の徹底。

#### 4. 全体的な成果と今後の課題

##### 【成果】

- ・講習会、競技会での啓発活動により一定の理解が得られている。
- ・ごみの分別については協力を得られている。
- ・ウェブの利用による印刷物の減量化はかなり進んできている。

##### 【今後の課題】

- ・連盟として上記以外にどのような活動方法があるのか模索。
- ・都道府県組織を含めての活動要請。
- ・主に個人参加競技の徹底が難しい。

## (公財) 日本アイスホッケー連盟

### 1. 実施概要

公益財団法人日本アイスホッケー連盟では、「この星にスポーツを」をスローガンに、ポスター掲示等を通じて大会参加選手及び関係者への啓発活動に努めた。また、加盟団体へ呼びかけゴミの分別回収等の周知徹底を図った。

### 2. 平成29年度事業活動

- 本連盟主催試合における啓発ポスター掲示による普及啓発
- 加盟団体主催の大会における啓発ポスターの掲示・大会パンフレットへの環境ポスター掲載による普及啓発
- 加盟団体を通じた環境保全活動の展開

### 3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①本連盟主催試合における啓発ポスター掲示等による普及啓発
 

本連盟の主催大会において啓発ポスターの掲示やECOブースの設置などを実施したほか、会長及び理事が率先してゴミの分別活動を行い、試合参加選手及び関係者への啓発活動に努めた。
- ②大会パンフレット等への環境ポスターの掲載
 

第73回冬季国体アイスホッケー競技会北信越東海ブロック予選会（成年の部）など加盟団体主催大会において、大会パンフレットに環境ポスターを掲載することにより選手・関係者・来場者への普及啓発ができた。
- ③加盟団体を通じた地方連盟での環境保全活動の展開



地方連盟の主催活動においても、スケートリンク清掃及びゴミの分別活動の展開を図った。

#### 4. 全体的な成果と今後の課題

ポスターやバナーを活用した環境保全啓発活動や印刷用紙等の使用量の取り組みでは一定の成果が上がっている。今後は、こうした取り組みを更に徹底するとともに、ゴミの分別・持ち帰り運動や植樹・緑化活動や河川の環境保全活動など、より能動的な活動に取り組んでいきたい。

また、数値目標を設定するほか、それを本連盟ホームページに掲載するなどして、環境保全活動の「見える化」を進めていきたい。

## (公財) 日本レスリング協会

### 1. 実施概要

日本レスリング協会環境委員会が設立され12年を迎え、協会傘下団体の8団体の環境委員の皆さんが中心となり活動している。

その行動指針は、大会会場及び練習場において、電力の削減、ゴミの分別化の啓発活動、実践活動として、ゴミの持ち帰り、マイボトルの推奨、大会スタッフの弁当のカラ箱の分別、そしてペットボトルのキャップ回収を行っている。

その他、JOC環境ポスターの特大バナーを作成し、会場の目立つ場所に掲揚し「来た時よりもキレイに！」をアピールしている。勿論、大会パンフレットへ「来たときよりキレイに」をページ掲載し周知を図っている。

また、環境教育として、指導者講習会とエリートキャンプの中で、スポーツと環境についての座学講習を行っている。

### 2. 活動内容

	大会名	バナー掲載	ポスター掲載	プログラム掲載	館内放送
4月	ジュニアクイーンズカップ選手権大会	○	○	○	○
4月	JOC杯全日本ジュニア選手権大会	○	○	○	○
6月	明治杯・全日本選抜選手権大会	○	○	○	○
6月	全国中学選手権大会	○	○	○	○
7月	全国社会人選手権大会	○	○	○	○
7月	全国少年少女選手権大会	○	○	○	○
10月	全日本女子オープン選手権大会	○	○	○	○
10月	全国社会人オープン選手権大会	○	○	○	○
11月	全国中学選抜選手権大会	○	○	○	○
12月	天皇杯・全日本選手権大会	○	○	○	○
1月	全日本マスターズ選手権大会	○	○	○	○
3月	全国少年少女選抜選手権大会	○	○	○	○
3月	全国高校選抜選手権大会	○	○	○	

※この他、少年少女のローカル大会でも行っている。

温暖化の影響は海面上昇、風や水害の発生、干ばつなど、直接的、間接的に我々に猛威を振るう。温暖化対策は今後、ほぼ永続的に取り組むべきことで、自分たち一人ひとりが考えて行動していかなければならない。

緑の大地、青い空、澄んだ空気と清らかな水、今ある大切な自然を未来の子供たちに渡せるよう、自分ができることから活動できるよう取り組んでいこうと思う。

JOC スポーツ環境専門部会員 鎌賀 秀夫

## (公財) 日本セーリング連盟

### 1. 実施概要

海、湖で主に行うセーリング競技は直接環境へその影響が跳ね返ってくるスポーツであり、常に、また積極的に環境保全への取り組みを推進していく義務があると考えている。平成29年度も「残したいのはきれいな海」をスローガンに全国で環境保全活動を推進してきた。

### 2. 平成29年度事業活動

- 約35の全日本選手権において環境キャンペーンを実施、支援
- Facebookの活用による環境啓発活動の拡充
- Used Sailの活用
- World Sailing (IF) による Sustainability Agenda (持続可能性に関する協議事項) 2030への参画

### 3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ① 全日本クラスの35大会について環境キャンペーンを実施、支援
  - ・ 環境フラッグ、横断幕等掲示により、選手はもとより、大会運営関係者、観客も含め環境保全への意識の向上を推進。
  - ・ レースの帆走指示書に、レース中に海にゴミを捨てた場合のペナルティ、失格条項等を記載、厳しく対処。
  - ・ 競技参加者、運営関係者、観覧者等延べ約4,000名に広くキャンペーンを浸透。
- ② Facebookの活用による環境啓発活動の拡充
  - ・ JSAFのWeb site内の環境委員会のページ経由Facebookを開設しリンクできるようにし、環境委員会の活動をより広く紹介できるようにした。
  - ・ 環境啓発活動の際に活用している「環境小冊子」をWebsite上からでもDownloadできるようにし、より使い勝手の向上および普及に努めた。
  - ・ 環境啓発活動の際に活用している「ペットボトルホルダー」も個人単位でなく、ハーバーにある艇そのものに取り付け、艇が沈んだ際にペットボトルが海中に流れ出ないように取り組みの強化に協力してくれる団体もあり、また大きな大会等でも活用が促されるようになってきた。
- ③ Used Sailの活用
  - ・ 廃棄予定のヨットの帆からトリプルエコバッグを作るワークショップを今年も国体で開催。環境小冊子による海のゴミ問題の現状も取り上げ、セーラー以外の一般の方にも啓発普及。
  - ・ 環境啓発活動の一環として物を大切する意識の向上も図った。
- ④ World Sailing (IF) による Sustainability Agenda (持続可能性に関する協議事項) 2030 調査への参画



- ・World Sailing が現在中心となって進めている Sustainability Agenda2030 に日本として調査に参画。環境委員会において現時点での日本の状況、賛否、今後の取り組みの可能性等につき、とりまとめを行った。
- ・具体的には 59 の目標を 1) 技術標準、2) イベント、3) トレーニング、4) 会場と施設、5) メンバー、6) 参加の 6 項目に分け、それぞれにつき支持できるかどうかの調査を実施。JSAF 内の委員会に広く投げかけ、日本としての意見を集約し報告した。

#### 4. 全体的な成果と今後の課題

これまでの地道な環境啓発活動が少しずつ認められ、積極的に協力を申し出てくれる団体も増えてきた。JSAF の Web site、Facebook 等のメディア媒体を積極的に活用することにより、より広く活動を発信できた。今後は JOC ポスターの大会プログラムへの掲載等、まだ実現できていない課題も併せて活動の拡充にも努めていきたい。

#### 5. JOC スポーツ環境専門部会員 永井 真美

今までの活動が少しずつ進化、浸透していく一方で、ごく少数ではあるものの、いまだ大会においてゴミの分別等個人レベルでは基本的なところができていない所も目の当たりにし、課題が残る。さらにもう一步踏み込んで具体的方策について提案していけるよう縦、横のつながりも駆使し検討していきたい。

## (公社) 日本ウエイトリフティング協会

### 1. 実施概要

公益社団法人日本ウエイトリフティング協会は、スポーツ活動における環境問題を改善するために、事務所内及び競技会での環境への取り組みを実施し、環境保全啓発ポスター、バナーの掲示により大会関係者及び観客に向けて環境保全の啓発を促し、環境保全意識の向上を図っている。

### 2. 平成 29 年度事業活動

- 競技会での環境啓発活動
- 競技会等における環境活動

### 3. 具体的な活動実施内容とその成果

#### ① 競技会等における環境啓発ポスター、バナーの掲示

前年度より継続して、各競技会や催事等において環境啓発のポスター、横断幕を会場内に設置した。

#### ② 競技会等におけるペーパーレス化

全日本選手権大会や全日本ジュニア選手権大会においては大会要項を協会ホームページにアップし、ウェブからのダウンロードによる配信を行った。

大会リザルト等については、公式記録員から各都道府県事務局への配信を行い、ペーパーレス化に向けての実践を行っている。

#### ③ 競技会等における環境活動

当協会においては、より環境負荷の少ない競技会運営を目指し、審判・監督に協力を呼びかけながら、継続的に活動を行っている。

大会の運営にあたっては、できるだけ廃棄物を出さないことはもちろん、飲み物の容器・食器につ

いても再利用や原材料としての再生利用を考慮している。北九州市において開催した全日本選手権大会では、役員の弁当に紙と経木でできた容器を使用した。大阪府羽曳野コロセアムで開催する学生連盟主催の全日本学生新人大会・全日本大学対抗選手権大会（2部）では、競技役員の昼食に会場内食堂の通常の食器を使用して、廃棄物をできるだけ出さないようにしている。

国民体育大会・全国高校総体・社会人選手権大会・レディースカップ全日本女子選抜大会などでは、開催自治体の協力によるゴミの分別収集も定着した。

全日本学生連盟では、清掃班を編成して競技会場トイレを巡回し、清掃活動を行うだけでなく、ゴミの減量化・分別・持ち帰りを呼びかけるなど、環境への配慮を促している。

茨城県において開催した、日韓中ジュニア交流競技会では、次のような環境への配慮を行った。

- (1) 飲料の入っていた段ボール箱は解体して資源ゴミとして活用した。
- (2) 記録の読み合わせ確認で使用し、不要となった記録用紙や使用済で不要となった試技申込用紙も資源ゴミとして処理した。
- (3) 競技に必要な書類等を実施グループごとに保管するために使用した封筒は他の用途に再使用するため保存した。

また、競技会自体の運営については、炭酸マグネシウム対策として、粉の粉塵化を最小限に抑えるため上部へ2カ所の取り出し口のあるものを活用しているとともに、滑りにくいプラットフォームを使用することによって靴底の滑り止めの松ヤニを使用せずに競技会を行い、競技会場の床や競技者の靴底の汚れを防止している。

#### 4. 全体的な成果と今後の課題

環境保全啓発ポスター、バナーの掲示などの活動を通して、環境保全の重要性をアピールした。今後も、会場地等との協力のもと、環境保全の活動を行うとともに、主催者・参加者の意識向上に向け、今後も様々な取り組みを行っていききたい。

## (公財) 日本ハンドボール協会

### 1. 実施概要

全世界的な環境問題を改善していくためには、我々一人ひとりの自覚が不可欠である。そこで、スポーツ団体が取り組める環境活動として、多くの方々が集まる大会等での啓発が効果的であると考え、会場へのバナー・ポスター掲示、プログラムへのポスター掲出等を行った。今後も、各都道府県協会、各連盟とも積極的に連携し、個人個人の環境問題への意識が更に高まるように取り組みたい。

### 2. 平成29年度事業活動

- 全国大会開催時の会場に環境バナー、ポスターを掲示
- 大会プログラムへの環境ポスター掲出
- 「Fun to Share」宣言・推進

### 3. 具体的な活動実施内容とその成果

#### ①大会における環境啓発活動

- ・ 環境バナー、環境ポスターを会場内に掲出し広報した。
- ・ 環境ポスターを大会プログラムに印刷するようにした。





## ② Fun to Share の宣言・推進

- ・「ハンドボールで、低酸素社会へ」と宣言。
- ・事務局で製作する名刺には Fun to Share のロゴを印刷した。

## ③事務局におけるグリーン購入・エネルギー節約

- ・事務用品の利用にあたり、エコ商品の購入に努めた。
- ・資料配付にあたりメール添付を多用し、ペーパーレス化に努めた。
- ・夏季はクールビズとした。

## 4. 全体的な成果と今後の課題

環境バナー、ポスターの大会や集会会場への掲出により環境問題への啓発活動を行ってきたが、必ずしも十分に意識浸透したとは言えない。これからは、より具体的な例を挙げて啓発活動を行うことが必要と考え、他の NF の取組を参考に、その方法を検討していきたい。

# (公財) 日本自転車競技連盟

## 1. 実施概要

近年、自転車は有害物質を排出しない、健康的かつ環境にやさしい乗り物として注目を浴びる存在となっている。その自転車を利用したスポーツである自転車競技は、環境にやさしいスポーツとしての定着を目指し、競技と環境のかかわりを一層深めることをめざす。

## 2. 平成 29 年度事業活動

- 紙消費量の削減（大会公式文書の配布を取りやめ）
- ボディナンバー用安全ピン配布の中止（地域大会への波及）
- 環境啓発ポスター、バナーの掲示
- ロードレース中におけるゴミ廃棄の禁止徹底

## 3. 具体的な活動実施内容とその成果

### ①紙消費量の削減

大会公式文書（Communiqué）を各大会参加者へ紙面配布をしていたが、掲示とインターネット上のみの対応とし、各参加者は掲示またはインターネットから参照、現地での紙消費量を大幅に削減した。またインターネットによる申込サイトの活用を前年度より更に 6 大会増やし、大会申込の紙面对応を削減した。

### ②ボディナンバー用安全ピン配布の中止

主要大会において、ボディナンバーを止める安全ピンを選手持参とし、主催者による新たな配布を中止した。安全ピンの持参は各地域大会レベルへの波及が見られた。

### ③環境啓発ポスター、バナーの掲示

大会会場での環境啓発ポスター、バナー掲示による啓発活動を行った。

### ④ロードレース中におけるゴミ廃棄の禁止徹底

レース中に摂取した補給飲食料の包装紙等をむやみに廃棄することが無いように、廃棄区間を設定、各チームによる回収の徹底をコミュニケにて告知するとともに、違反者にペナルティを課した。

#### 4. 全体的な成果と今後の課題

28年度に引き続き、大会等イベント開催時における環境活動を重点的に行った。29年度についても下記2点について進展が見られた。

1点目は紙消費量の削減を更に推進できた点である。大会要項や申込書についてはメールやホームページからの発信に完全移行がなされ、申込についても印刷や郵送が必要な大会を減らし、インターネットによる申込サイトの採用もさらに6大会増やした。また、現地での大会参加者への紙面配布については、掲示とインターネット上の情報を充実させ、紙の消費量を大幅に削減した。これについてはTwitterやLINE等のSNSの波及・活用も1つの後押しとなった。

2点目は安全ピンの選手持参である。本連盟では以前からこの活動を推進していたが、近年では地域大会レベルまで浸透しつつある。

本連盟の環境活動は基礎的な取り組みが中心となっているが、限られた予算や人員でできる活動を今後も進め、多くの参加者・観客に浸透していくよう引き続き継続していきたい。

## (公財) 日本ソフトテニス連盟

### 1. 実施概要

公益財団法人日本ソフトテニス連盟環境部会は、平成23年度に環境・教育プロジェクトに変更し、公益財団法人移行とともに平成24年度からは環境・教育プロジェクトとし、特別委員会とした。

特別委員会設置の目的は、「ソフトテニス長期基本計画2012」の主要な取り組み事項として、公益財団法人としての高い社会的信用性を維持し、公益目的事業を行うために、ソフトテニスを通じて環境と教育に取り組む。ソフトテニスを通じて環境保全を図っていくとともに、自己責任及びフェアプレーの精神を身につけ、マナーを重んじる教育を推進し、青少年の健全育成を図ることとした。

環境対策については、傘下47都道府県支部と日本学生連盟に、本連盟独自で作成した環境とマナーの横断幕「来たときよりも美しく！ありがとう あなたの笑顔と そのマナー」と既に配布済みの「この星にスポーツを」の横断幕を各支部の施設に常設するとともに大会や会議での啓発活動として掲出するとともにゴミの分別等エコ意識の高揚を継続している。

平成29年度には、下記の全国大会会場で上記横断幕の掲出の他、環境ポスター掲示、機関誌、大会プログラムに広告（「きたときよりもキレイに！」～スポーツの心、環境と未来へ～）を傘下支部へ呼びかけて刷り込み、分別ゴミ箱の設置、ゴミの持ち帰り、マイボトルにより、紙コップ削減のリデュース活動等々を継続実施し、スポーツをする人たち、見る人たちも相等しく地球人として環境保全を推進するための物を大切にする生活習慣の徹底を推進した。さらに、日本連盟主催大会、各支部大会での役員、選手、保護者、応援者のマナーの実態調査を行った。

平成30年度は、環境・教育プロジェクトを中心に、引き続き上記の活動を各支部と連携を図り、日本ソフトテニス連盟独自の環境とマナーの横断幕と平成27年度に作成した「マナーBOOK」を活用し、環境保全の大切さとマナーの向上に取り組んでいく予定。同時に大会時に環境とマナーのチェックシートを活用し実態調査を引き続き行う。また、ボールの再利用について専門機関と連携をとり、研究を進めていく。

主な大会名	開催日	会場	主管団体
全日本シングルス選手権大会	平成29年5月13～14日	香川県高松市	香川県ソフトテニス連盟
全日本実業団選手権大会	平成29年7月28～30日	福井県福井市・越前市	福井県ソフトテニス連盟



全日本小学生選手権大会	平成 29 年 7 月 27 ～ 30 日	滋賀県長浜市	滋賀県ソフトテニス連盟
全日本高等学校選手権大会	平成 29 年 7 月 22 ～ 29 日	福島県会津若松市	福島県ソフトテニス連盟
全国中学校大会	平成 29 年 8 月 18 ～ 20 日	長崎県長崎市	長崎県ソフトテニス連盟
全日本社会人選手権大会	平成 29 年 9 月 2 ～ 3 日	熊本県熊本市	熊本県ソフトテニス連盟
JOC 杯全日本ジュニア選手権大会	平成 29 年 9 月 17 日	広島県広島市	広島県ソフトテニス連盟
全日本シニア選手権大会	平成 29 年 9 月 29 日～ 10 月 1 日	石川県金沢市・小松市・能美市	石川県ソフトテニス連盟
全日本選手権大会	平成 29 年 10 月 20 ～ 23 日	群馬県前橋市	群馬県ソフトテニス連盟
東日本選手権大会	平成 29 年 7 月 15 ～ 16 日	福島県福島市・会津若松市	福島県ソフトテニス連盟
西日本選手権大会	平成 29 年 7 月 15 ～ 16 日	島根県松江市	島根県ソフトテニス連盟
国民体育大会	平成 29 年 10 月 6 ～ 9 日	愛媛県今治市・大洲市	愛媛県ソフトテニス連盟
日本実業団リーグ	平成 29 年 10 月 27 ～ 29 日	広島県広島市	広島県ソフトテニス連盟
全日本クラブ選手権大会	平成 29 年 10 月 28 ～ 29 日	千葉県白子町	千葉県ソフトテニス連盟
ジュニアジャパンカップ	平成 29 年 11 月 24 ～ 27 日	宮崎県宮崎市	宮崎県ソフトテニス連盟
日本リーグ	平成 29 年 12 月 15 ～ 17 日	愛知県豊田市	愛知県ソフトテニス連盟
全日本インドア選手権大会	平成 30 年 2 月 4 日	大阪府大阪市	大阪府ソフトテニス連盟

## (公財) 日本卓球協会

### 1. 実施概要

日本卓球協会としては、COP21（国際気候変動会議）協定に基づき日本の環境省及び JOC スポーツ環境専門部会が行う環境改善活動に、卓球界全体が協力し実践と啓発活動を実施する。

### 2. 平成 29 年度事業活動

- 主に全国大会において環境保全並びに改善に関するアナウンスを実施
- 大会会場内に環境啓発ポスター・横断幕の掲示
- 大会プログラムに環境啓発広告掲載
- 環境保全活動

### 3. 具体的な活動実施内容とその成果

#### ①大会時環境啓発ポスター・バナーの掲示

全日本卓球選手権→「COOL CHOICE」バナー掲示。

関東学生リーグ戦→「来たときよりキレイに！」ポスター掲示。

#### ②本年度下記大会プログラム環境保全広告掲載

- ・JOC 作成「来たときよりキレイに！」

関東学生秋リーグ戦、全日本大学総合卓球選手権（個人の部）、関東学生卓球選手権。

- ・環境省作成「COOL CHOICE」

全日本卓球選手権、全日本実業団選手権、関東学生春リーグ戦。

#### ③環境保全活動

- ・競技フロアにおける選手の飲み物（半飲み・空ボトル）を大会運営側が管理（見回り・回収・廃棄）を実施。
- ・日本リーグ観戦で大会会場によりアルコール飲酒が OK となり、その飲酒マナーチェックとプラスチックカップのデポジット方式を採用する。
- ・大学生大会においては、ゴミ分別用袋を配布し大会終了後回収専門業者に廃棄依頼、また観客席のゴミチェックを実施。

- ・各大会でチームのゴミ持ち帰り運動実施。
- ・観客・選手たばこ喫煙で、喫煙場所厳守・ポイ捨て禁止等意識改革運動実施。
- ・実業団大会では、監督会議にて監督・関係者に環境保全・改善の指導を実施。
- ・環境省地球環境局に訪問（12/22）環境問題のアピールについて協議する。

#### 4. 全体的な成果と今後の課題

日本卓球協会主催・後援の主な全国大会のプログラムに環境啓発広告を掲載し、特に全日本卓球選手権では、環境省協力により環境啓発資料等選手・観客に配布し卓球界全体が取り組む意識を確認した。今後は実践活動へ全国大会以外でも環境保全・改善の意識を持てるよう、卓球界全体がスポーツと環境のつながりを一層強力にアピールしたい。

## （公財）全日本軟式野球連盟

### 1. 実施概要

公益財団法人全日本軟式野球連盟はスポーツ振興に寄与する目的から、平成17年度に環境担当委員会を設置し事務所内及び競技会での環境への取り組みを実施し、環境保全ポスター、チラシを作成、競技会場で掲出・配布し当連盟関係者・大会参加者及び観客者に向けて環境保全の啓発を促し環境保全意識の向上を図っている。

平成19年から各支部より使用済軟式野球用具を収集し、野球用具の入手困難な国や地域へ寄贈する活動を継続実施している。近年では、登録チーム及び一般向けにも用具提供依頼を行い事業拡大を図っている。一部の主催大会において、用具回収ブースを設置し、選手からの直接の寄贈を行い教育啓発活動の意味合いでの活動にも着手している。

平成24年度から、一部の事務連絡等の文書配布において、ペーパーレス化を図り、加盟団体支部（47支部）に電子メールで配信を実施している。

### 2. 平成29年度事業活動

- 競技会等での環境啓発活動と環境活動（中古用具の海外寄贈）

### 3. 具体的な活動実施内容とその成果

#### ①競技会等での環境啓発活動

連盟主催大会及び講習会にて、JOC環境啓発ポスター、JOC環境啓発バナーの掲出、全軟連環境啓発ポスターの掲出、全軟連環境チラシの配布を行った。また、競技会場においては、ゴミの分別・ゴミ持ち帰りの呼び掛けなど、選手や観戦者に対して環境啓発活動を行った。

#### ②環境活動

日本ではゴミとなる使用済み野球用具が、海外の国や地域によっては十分に使用可能であり、野球普及に有効との観点から、国際協力機構（JICA）の「世界の笑顔のために」プログラムに参加する形で、また本連盟主催大会である高円宮賜杯全日本学童軟式野球大会マクドナルド・トーナメント会期中に回収ブースを設置し、JICA、日本マクドナルド株式会社と連携のもと事業展開を行った。本年度の寄贈国は、スリランカ、ウガンダ、ニカラグア、ブルガリア他、計10カ国となった。

### 4. 全体的な成果と今後の課題

環境啓発ポスター、バナーの掲出、環境チラシの配布やゴミ分別・持ち帰りの呼び掛けにより、



全国大会においては参加者の環境への意識向上に繋がってきた。今後は、各都道府県大会においても積極的な環境啓発活動を行えるよう、加盟団体支部へも呼びかけていきたい。

屋外スポーツである軟式野球は、地球温暖化等による異常気象や大気汚染の進行により、競技に与える影響を理解した上で、改めて環境保全に対する取り組みを積極的に行っていきたい。

## (公財) 日本相撲連盟

### 1. 実施概要

相撲大会会場は、国技館や各県の県立武道館特設土俵など屋内の場合と靖国神社相撲場や堺市大浜公園相撲場など屋外の場合に分かれている。

本連盟として、環境活動の重要性を認識し、それぞれの大会では、一般のゴミの分別の徹底と持ち込んだゴミは、持ち帰るという活動を今後も継続的に実施している。

多くの大学においては、相撲部の合宿所においてゴミの分別の徹底を図るとともに相撲部員が最寄の駅から合宿所の道程にゴミの無いように、ゴミ拾いを実施している。

今後このような取り組みが、加盟大学の全体に広がるよう推進していきたい。

### 2. 会場別対策

- ・屋内の大会で、ゴミが放置されていることは殆ど見当たらない。
- ・屋外においても、持ち帰りを指導しているため、ゴミについての問題はない。

### 3. 相撲競技に特異な注意点

- ・屋内相撲場では、特に砂の扱いに注意が必要である。小中学生の大会では、少年選手達が砂を付けたまま観覧席に入ることがある。砂は、足などのほか、まわしにも付いているため、国技館の柵席などにはまわしを付けたまま入ることを禁止している。よって砂を取るための清掃費は、数十万円かかる場合がある。監督会議で注意をするほか、大会当日の放送や見回りを繰り返しており、現在ではほとんど問題がなくなっている。

### 4. 平成 29 年度の具体的な取り組みと今後の取り組み

国体競技（愛媛県・西予市）や日本相撲連盟主催の全国都道府県中学生相撲選手権大会、全日本選手権（東京都・国技館）の会場においては、『来たときよりもキレイに！』のポスターを掲示するとともに、環境活動の重要性を喚起し選手、監督、役員などの関係者全員に、ゴミの分別と持ち帰りの徹底を促した。

これからは今までの取り組みを継続するとともに、スポーツと環境が大きなかかわりを持つことを多くの方に理解してもらえるよう、大会会場等にポスターや横断幕等を掲示して環境保全に努めていきたい。

## (公社) 日本馬術連盟

### 1. 実施概要

子ども達と一緒に取り組む「環境とスポーツのあり方」をスローガンに、継続的活動を積極的に行った。

## 2. 平成 29 年度事業活動

- 馬術競技大会時に環境啓発ポスター、バナーの掲示
- ジュニア競技大会時に子どもたちに対し環境活動の啓発
- 連盟機関誌「馬術情報」に、定期的に「スポーツの心、環境と未来へ」の JOC スポーツ環境専門部会ポスターを掲載。同様に全日本大会プログラムへも掲載し、環境への啓発活動を実施

## 3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①馬術競技大会時に環境啓発ポスター、バナーの掲示  
日本馬術連盟主催大会において、環境啓発ポスター及びバナーの掲示、環境パンフレットの配布を行い、啓発活動に努めた。また、ゴミの分別収集を徹底した。
- ②ジュニア競技大会に子どもたちに対し、環境活動の啓発  
ジュニア選手に対し、競技大会前に環境パンフレットの配布を行い、大会役員から環境活動について説明を行った。

大会名（開催場所）	参加選手数
第 34 回全日本ジュニア馬場馬術大会（御殿場市馬術・スポーツセンター）	約 100 名
第 38 回全日本ジュニア総合馬術大会（山梨県馬術競技場）	約 70 名
第 41 回全日本ジュニア障害馬術大会（御殿場市馬術・スポーツセンター）	約 190 名
第 38 回全日本ヤング総合馬術大会（山梨県馬術競技場）	約 70 名

## 4. 全体的な成果と今後の課題

平成 29 年度は、引き続きジュニア選手たちを中心に啓発活動を行った。この活動を積極的に続けることにより、啓発から実践に繋がるものとする。今後も馬術競技大会を通じて、多くの方に環境に対する啓発活動を続けていきたい。

# （公社）日本フェンシング協会

## 1. 実施概要

大会時に全国の競技者、指導者等に対して環境保全の啓発運動を図り、環境活動に関する理解を深めた。全国レベルで積極的かつ継続的な活動を目標に取り組む。

## 2. 平成 29 年度事業活動

- 国立スポーツ科学センター内、フェンシング道場の節電を実施
- 大会時環境啓発ポスターを掲示
- 競技会における環境活動（会場内の見まわり、安全管理、整理整頓、ゴミ分別収集等）

## 3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①毎日、実施できる取り組みとして、国立スポーツ科学センター内、フェンシング道場の練習時間外の節電を引き続き実施した。
- ②2017 年高円宮杯東京ワールドカップ（平成 29 年 11 月 10 日～11 月 12 日）にて環境ポスターを掲示して啓発を図るとともに、ペットボトル、ビン、可燃ゴミの分別を行い、会場内のゴミ収集を実施した。



- ③ JOC ジュニアオリンピックカップ・フェンシング選手権大会（平成 30 年 1 月 11 日～1 月 14 日）において環境ポスターを掲示して啓発を図った。年齢が若い選手が対象であり、会場内で『周辺を清掃する。ゴミを出さない。』ようアナウンスして注意を図った。
- ④大会時、環境委員が館内や通路を見まわり、ペットボトルや缶等の片付けや会場内の整理整頓を実施した。

#### 4. 全体的な成果と今後の課題

大会でポスターを掲示し、会場内で『ゴミの分別』を呼びかけたが、ペットボトルやゴミ等が片付けられていないことがあった。競技会での環境委員の見まわりを計画的に実施し、指導者や選手達へ環境活動の啓発を図っていく。

今後も開催団体・主管団体と協力して啓発活動を拡げる努力をしていく。

## （公財）全日本柔道連盟

### 1. 実施概要

全日本柔道連盟では、柔道の創始者である嘉納治五郎師範の目指した「柔道を行うことによって技術の上達のみならず人間的な成長」を達成することを念頭に様々な事業に取り組んでいる。連盟として環境に取り組むことは、自他共栄の柔道精神に則った活動であると考え、指導者、選手、試合会場に来る保護者やファンなどにも公共交通機関を使用するの往来や大会会場でのゴミの分別や持ち帰り等の啓発活動を行っている。

### 2. 平成 29 年度事業活動

- 大会時の環境啓発ポスター、バナー掲示
- 大会プログラムへの掲載
- 大会・イベント時の会場内におけるゴミ分別の徹底

### 3. 具体的な活動実施内容とその成果

昨年から引き続き、当連盟主催の大会・イベントにおいて、横断幕・ポスターを会場内に掲示し、スポーツと環境保全活動の啓発に努めた。また、全日本ジュニア体重別選手権大会では、会場美化活動の一環として、決勝戦開始前の準備時間を利用して会場クリーンアップタイムを実施した。埼玉県内の高校生がゴミ袋を持って観覧席を巡回し、観客へゴミの分別回収をお願いするとともに、置き去りにされたゴミの回収を行った。

### 4. 全体的な成果と今後の課題

当連盟主催の大会・イベントにおいて、横断幕・ポスターを会場内に掲示し環境保全活動の啓発を継続することで、観客や保護者によるゴミ持ち帰りやゴミ分別の徹底、参加者全員による大会終了後の会場内清掃等の環境への意識が浸透してきている。

当連盟においては、2014 年 4 月に「柔道 MIND プロジェクト」を発足し、柔道の本質である礼節、品格のある柔道人を育成することを目的として活動している。嘉納治五郎師範の遺訓である「精力善用」「自他共栄」という柔道の根本原理を、「人と自然との共存」というテーマにおいて応用実践することで、今後も環境保全に努めていきたいと考えている。



# (公財) 日本ソフトボール協会

## 1. 実施概要

屋外競技であるソフトボールが、地球温暖化等による天候不順や、大気汚染によって実施できなくなる事を危惧し、JOC スポーツ環境専門部会のスローガンである「この星にスポーツを」、また公益財団法人日本ソフトボール協会の環境スローガンである「ホームラン入ったスタンド ゴミはなし!」を、大会毎にバナー掲示をし、継続的活動を行った。また、各大会のプログラムに、環境に関する標語もしくはメッセージを入れ、より積極的な活動を進めた。

## 2. 平成 29 年度事業活動

- 大会時環境啓発ポスター、バナーの掲示。
- 各大会のプログラムに環境標語もしくはメッセージを入れる。
- 啓発ポスターのデザインを使用したクリアファイルの作成・配布。

## 3. 具体的な活動実施内容とその成果

本協会主催大会にて、環境啓発ポスター、バナー掲示を行い、啓発活動を行った。  
また、本協会が主催する各大会のプログラムに環境標語もしくはメッセージを入れ(別添)、啓発活動を行った。

## 4. 全体的な成果と今後の課題

ポスター、バナーの掲示や、啓発活動を行ってきた成果が実り、選手をはじめ多くの関係者及び観客に環境啓発の知識や、理解を得ることができた。  
また、各大会の監督会議の際に派遣される理事から啓発を依頼し、拡がりをもせる取り組みを模索したい。

来年度以降も引き続きより多くの方々の環境に対する理解を求めて、より積極的に環境保全に努めていきたい。

**啓発**

ソフトボールと環境についてのレクチャー原稿  
(5分のレクチャーの機会がある場合は次の原稿をお願いします)

**【ソフトボールと環境についての原稿】**

(1) ソフトボールを愛する私たちも環境に配慮  
 ① 大会のプログラムに「きれいな空気」「試合や練習の後に残っていない水」「ゴミを一生懸命回収しているソフトボール」が記されています。また、「人間として社会生活を送っているものはソフトボールを愛する」「試合や練習を止めてもゴミを大切に」「環境保護を愛する者ではありません」  
 ② ソフトボールの試合では、みんな環境を愛するために、自分から環境保護を働き、「環境保護は自然は人間の子どもを保護する人だ」  
 「ソフトボール大会のスタンドはゴミはなし!」  
 「環境は私たちの健康を脅かす最大の脅威です。環境保護は私たちの健康を守ります」  
 ③ ソフトボール大会のプログラムには、「環境保護は私たちの健康を守ります」のメッセージを掲載していただきます。  
 (2) 私たちの宇宙船「地球号」の乗組員として環境を大切にすることを祈ります。  
 (3) Think Globally, Act Locally (地球規模で考え、身の回りのことを実行する)  
 ④ 環境保全を推進するにあたり大切なことは、まず、地球規模でどのように環境化や内食が進み、また、その問題がどこにあるかをしっかり知ることです。  
 ⑤ そして、地球規模で起きている問題を考えつつ対策を実行しますが、それは私たちの生活の中で少し意識を待てばできる簡単なことです。

**【啓発活動】**

(1) まず、環境でどのような問題があるかを理解しましょう。  
 地球規模で環境化が進み、それが原因で気候が大きく変動し、豊食・過食・多くの廃棄物が大きな打撃を及ぼしています。  
 (2) 高度な文明によりエネルギー・資源を多く消費し快適な生活を享受している平野、二酸化炭素を多く排出し環境化など環境問題が起きている。  
 (3) 環境問題がソフトボール大会を中心として実行されること  
 ① ソフトボール大会では、できる限り公共交通機関を利用し、徒歩で行く。  
 ② 大会では「きれいな空気」「試合や練習の後に残っていない水」「ゴミを一生懸命回収しているソフトボール」が記されています。また、「人間として社会生活を送っているものはソフトボールを愛する」「試合や練習を止めてもゴミを大切に」「環境保護を愛する者ではありません」  
 ③ ソフトボール大会のプログラムには、「環境保護は私たちの健康を守ります」のメッセージを掲載していただきます。  
 ④ ソフトボール大会のプログラムには、「環境保護は私たちの健康を守ります」のメッセージを掲載していただきます。  
 (4) 私たちが社会生活の中でできること  
 ● エネルギー消費を削減するために3R (Reduce, Reuse, Recycle) の実行  
 a. 削減 (Reduce) : 必ず車の回りで使っているエネルギー、削減を削減することです。(例: 電機や車の削減)  
 b. 再利用 (Reuse) : 同じものをできるだけ長く使おうように工夫することです。(例: サイズの異なることでも減量になったウェアを着る人に譲る)  
 c. リサイクル (Recycle) : 使えなくなったものを上手に分別して適切にリサイクルし再び資源として使用することです。(例: ペットボトルの回収)  
 ⑤ 環境化の面である二酸化炭素を減らすための環境化(二酸化炭素を削減して環境を改善する活動) をする機会を機が手探いでいきましょう。  
 ● 環境保全活動は気の長い活動ゆえに生活習慣として実行しましょう。

ソフトボールをする人たち、見る人たちも積極的に地球人として環境保全を推進することが大切です。できればスポーツファンが積極的に活動を進めて社会の中で環境保全のリーダーとなるように願っています。

● ソフトボールの講習会などでは、環境保護を重点に、お話をしてください。2〜3分で済ませたいと思います。





# (公財) 日本バドミントン協会

## 1. 実施概要

当協会は、スポーツ団体として環境活動の重要性を認識して、環境委員会を中心に「出来ることから始める」をスローガンに登録会員全員に向けて、環境保全の意識を高めることを中心に継続的な活動を実施し、そこから当協会だけの活動に止まらず、より多くの人に発信していけるような活動を目指して取り組んでいく。

## 2. 平成 29 年度事業活動

- 大会時、環境啓発ポスターの掲示
- 大会プログラムに環境啓発広告を掲載
- 大会の要項に環境啓発項目を記載他、大会時の環境活動
- 環境保全として、大会時・合宿時にゴミの分別活動実施

## 3. 具体的な活動実施内容とその成果

### ①大会時等環境啓発ポスターの掲示

本会評議員会、S/ J リーグ開催地、主催 21 大会等において、環境啓発ポスター、パンフレットの配布及び啓発活動の実施。

### ②大会の要項に環境啓発項目を記載他、大会時の環境活動

本会主催 21 大会及び S/ J リーグの要項に以下の三つの事項を必ず記載し、環境活動の重要性を認識させている。

- (1) 宿泊先や試合会場でのゴミの分別収集に協力してください。
- (2) 部屋から出るときにはエアコン、テレビ、ライトのスイッチを消してください。
- (3) マイ歯ブラシを持参して大会に参加してください。

また、大会開催にあたり、本会の案内、大会要項の申し込み方法、連絡方法などについて電子メールを活用して、省資源化を実施している。

### ③環境保全として、ゴミの分別活動実施

大会時における役員、参加選手へのゴミの分別を徹底させている。

本会ナショナルチーム及びジュニアナショナルチームの役員・選手に対しては、味の素ナショナルトレーニングセンター内の強化合宿において、ドリンク類のペットボトル等の多さに着目し、分別廃棄を徹底し、環境活動の重要性を認識させている。

## 4. 全体的な成果と今後の課題

本会では環境委員会の委員を中心に、主に大会時におけるポスター掲示、パンフレット配布など地道な活動を中心に行ってきた。選手・加盟団体の関係者、登録会員には環境啓発の知識と理解を得られたと認識している。

今後も継続的に現在の活動を続けることで、スポーツと環境のかかわりを多くの方に理解していただくよう活動していく。

## (公財) 全日本弓道連盟

### 1. 実施概要

スポーツ団体として環境活動参加の重要性を認識し、行事参加者各位へ啓発活動を行った。

### 2. 平成 29 年度事業活動

- 主催行事における環境啓発活動
- 主催行事における環境活動

### 3. 具体的な活動実施内容とその成果

#### ①主催行事における環境啓発

本連盟主催行事にて環境啓発ポスターを掲示し啓発活動を行った。

本連盟主催行事において主催者挨拶の中で環境に関する内容を話した。

#### ②主催行事における環境活動

ゴミの分別を徹底し、資源の再利用に努めた。

照明、空調の調整をこまめに行い、CO<sub>2</sub> 削減について取り組んだ。

大会速報の配布を行わず掲示のみに留めて、紙の使用を削減した。

### 4. 全体的な成果と今後の課題

ポスター掲示などの啓発活動により、役員・選手・観覧者等広く環境保全を促すことができた。特に平成 29 年度は本連盟最多参加者となる大会での啓発活動により全国各地の参加者へスポーツと環境意識の向上を促すことに繋がったと考えられる。参加者が地元で伝達することにより、啓発活動の更なる広がり期待できる。

これからも個々の意識を高め、実践活動に繋げていくことが必要だと考えている。

## (公社) 日本ライフル射撃協会

### 1. 実施概要

公益社団法人日本ライフル射撃協会は、環境保全に関する活動の重要性を認識し、総務委員会を中心に環境保全を目的とする取り組みと会員の環境意識の向上を図る活動を行っている。

### 2. 平成 29 年度事業活動

- 国体、全日本小学生大会等の競技会、会議等での環境ポスター掲示
- 射撃場施設でのゴミの分別収集の徹底とゴミ持ち帰り運動の実施
- 競技後の使用銃弾（鉛弾）の回収と適切な処理作業
- 射撃場解体処理の際の分別やマニフェスト発行など適切な廃棄物処理の実施
- 環境保全に関する内容を講習会等で実施

### 3. 具体的な活動実施内容とその成果

#### ①競技会、会議等での環境ポスター掲示

全国加盟団体や関係団体に環境ポスターを配布するとともに、愛媛国体や全日本小学生大会などの



競技会で環境ポスターを掲示し、会員への啓発に努めた。

#### ②射撃場施設でのゴミの分別収集の徹底とゴミ持ち帰り運動の実施

射撃場施設でのゴミ分別収集を徹底するとともに、ゴミを持ち帰ることによる施設から発生するゴミの減量化に努めた。

施設駐車場でのアイドリング禁止や施設内照明電力等の省エネを呼び掛け、施設利用者全員の協力で活動を展開した。

#### ③競技後の使用銃弾（鉛弾）の回収と適切な処理作業

競技に使用する鉛弾の回収について、各射撃場において適切な処理を行った。

#### ④射撃場解体処理の際のマニフェスト発行など適切な廃棄物処理の実施

自衛隊朝霞射撃場事務所等の解体前の備品等の廃棄について、自衛隊内で実績のある処理業者を採用し、廃棄前の徹底した分別を実施のうえ、マニフェスト発行など、法令を遵守した処理を実施した。

### 4. 全体的な成果と今後の課題

競技会での環境に関する啓発を多くの機会をとらえて行うことにより、会員の意識の向上に成果が見られた。今後、競技会場や都道府県事務局等への環境ポスターの掲示をはじめ、機関誌や協会ウェブサイト上への環境に関する記事掲載、講習会及び研修会での環境教育のカリキュラムの導入等を引き続き実施する。

ゴミの分別収集の徹底とゴミの減量化はかなり進んでいると思われる。特に、使用銃弾（鉛弾）の回収と適正な処理は、全国で適切に処理されている。

施設利用時の場内清掃の励行（クリーン運動）やゴミのポイ捨て禁止の徹底、ゴミの持ち帰り、場内駐車場での静かな運転とアイドリングの禁止、射撃場施設への緑化と花の栽培の推進及び施設管理上の省エネの実践、グリーン購入について、会員の理解と協力を得るなかで拡大する。

今後も地道な活動ではあるが、具体的な行動指針を示しつつ、身の周りのできることから実施する。

## （一財）全日本剣道連盟

### 1. 実施概要

平成 29 年度も、全国の剣道愛好家から中古剣道具をいただき、剣道具の入手が困難な海外の剣道連盟や団体への寄贈を継続的に実施することを通して、身近なところから「地球規模の環境保全意識」を啓発・実践することに力を注いだ。

### 2. 平成 29 年度事業活動

- 中古剣道具の海外への寄贈を継続
- 環境保全啓発ポスターの活用
- 大会等でのゴミの分別回収等の実践

### 3. 具体的な活動実施内容とその成果

#### ①中古剣道具の海外への寄贈を継続

平成 29 年度も全国から寄せられた中古剣道具を補修し、ポルトガル、カザフスタン、リトアニア、ラトビア、チュニジア、チリ、スロバキア、モンゴルの 8 カ国に寄贈した。

#### ②環境保全啓発ポスターの活用

全国剣道大会等の開催時、また職場においても環境ポスターを掲示して環境保全意識の高揚に努めた。

## ③大会等でのゴミの分別回収等の実践

全国剣道大会等でのゴミの分別回収(弁当箱・ペットボトルの専用回収)、事務所内のリサイクルボックスの利用を促進した。

## 4. 全体的な成果と今後の課題

中古剣道具の補修・活用により剣道の国際的普及の一翼を担うことができた。国内においては、更なる「剣道と環境保全」意識の高揚と活動内容の継続的な検討を進めていきたいと考えている。

.....

## (公社) 日本近代五種協会

.....

## 1. 実施概要

日本近代五種協会では、開催した各競技会において、多くの参加選手とその家族ならびに運営役員及び観戦者に環境保護の呼びかけと協力依頼を行った。

## 2. 平成29年度事業活動（アピール啓発活動を行った競技会）

- ・6月18日 長野県大桑村大会（木曾）
- ・7月9日 和歌山県橋本市大会
- ・7月30日 北海道野幌市大会
- ・9月3日 千葉県千葉市大会
- ・10月1日 東京都調布市市大会
- ・11月19日 近代五種・3種全日本選手権大会（千葉県）

## 3. 具体的な活動実施内容とその成果

## ①大会での環境啓発ポスターの掲示

大会終了後に共同で清掃作業を行い、ゴミの分別や持ち帰りとりサイクルの呼びかけを実施した。環境保護に対するアピール呼びかけに対して多くのスタッフ、参加選手や関係者の理解と協力を得て意識向上にも寄与できたものとする。継続した活動に成果が見られることは大変喜ばしいものと感じる。

## ②競技会参加申込受付時に公共交通機関利用や車両の相乗り等での来場を推奨

運営役員の移動及び行動にも同様の配慮をした。

## 4. 全体的な成果と今後の課題

当協会では今後、更なる環境啓発を促すには、競技大会を通じて主催者が呼びかけ、参加者も一体となって物品とエネルギー消費を抑えることが互いの経済的な負担の軽減、すなわち環境保全に繋がるという事を訴えることが必要であるとする。

.....

## (公財) 日本ラグビーフットボール協会

.....

## 1. 実施概要

日本ラグビーフットボール協会は、総務委員会に環境部門を設置より11年目を迎え、環境部門委員によりスポーツにおける環境活動への取り組みとして、『社会貢献活動の1つと位置づけ、ラ



ラグビーを通じて環境保全に関する啓発・実践活動の推進を図る』ことをテーマとして各種事業を実施した。

## 2. 平成 29 年度事業活動

- ①日本協会『環境保全活動推進宣言』に基づいた推進活動の展開。
- ②地球温暖化防止のための『Fun to Share キャンペーン』（環境省主管）サポーターメンバーとして環境保全活動への協力。
- ③協会内各委員会との連携・協力体制により環境 PR 活動推進。
- ④日本代表チーム、トップリーグとのコラボレーションによる相乗効果を図る。
- ⑤ 2018 年 3 月 7 日開催の JOC スポーツ環境専門部会に参加し他競技団体の取り組み事例を研究、及び 2020 東京オリンピック・パラリンピックに向けたディスカッション。
- ⑥ 2016 年リオデジャネイロ・オリンピック（男・女 7 人制ラグビー競技出場）にて、7 人制ラグビー競技の認知度も高められ、RWC2019（日本開催）、2020 東京オリンピック・パラリンピックに向けての環境活動へのステップとしていく。

## 3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①広報活動（環境啓発 PR）
  - 広報委員会との連携によりホームページ、機関紙、大会プログラム、メンバー表等への掲出により関係者、ファンへの環境啓発運動を推進。
  - ・「FOR ALL, FOR EARTH」環境スローガン活用
- ②経済界協議会との合同によるトップリーグ試合会場にて競技会場の美化活動「KEEP THE STADIUM CLEAN」を実施、当日試合チームの所属選手やボランティアも協力。（秩父宮ラグビー場、豊田スタジアム、大分銀行ドーム、味の素スタジアム等）
- ③トップリーグ参加チームと日本協会による「TRY for GREEN プロジェクト」を継続展開。トライ数に応じ、網走市の森林保全活動に寄付。（1 月 21 日トップリーグ年間表彰式にて網走市水谷市長へ寄付金を寄託）
- ④クール・ウォームビズ、エコ商品利用、試合開催時の公共交通の利用促進。
- ⑤秩父宮ラグビー場における「エコキャップ運動」。

## 4. 全体的な成果と今後の課題

### 【成果】

- ・トップリーグが中心となりラグビーにおける環境実践活動を前進させている。

### 【課題】

- ・2020 東京オリンピック・パラリンピックに向け、スポーツ界全体での環境実践活動を PR 推進していく必要が有る。
- ・各競技の試合会場等でのビジョン放映を活用した広範に環境 PR を行える「著名選手等の出演による環境 PR メッセージ」の作成を是非ともお願いしたい。

**FOR ALL, FOR EARTH.**

# (公社) 日本山岳・スポーツクライミング協会

## 1. 実施概要

当協会における環境保全に関する活動は、登山者がフィールドとしている山岳地域での自然環境保護活動を主体的とし、自然保護委員会を組織してスポーツ環境活動に取り組んでいる。

具体的には

- 1) 独自制度である「自然保護指導員制度」（現在 1400 名を超える登録）の普及
- 2) 自然保護委員総会（各都道府県に委員を 1 名配置）の開催
- 3) 環境省や日本を代表する山岳団体などとの連携した山岳自然保護活動
- 4) 山岳地域におけるゴミ持ち帰りやトイレマナーの向上などの推進
- 5) 各地における清掃登山や登山道の補修などの実践
- 6) 環境省自然公園指導員を推薦し、自然公園内の適正利用や安全指導を推進等年間を通して活動を行っている。

平成 29 年度の特記する環境活動としては、「悠久の歴史を守り続ける白山文化に学ぶ」をテーマに、山岳自然保護の集い全国集会（第 41 回自然保護委員総会）を平成 29 年 9 月 9 日～10 日に白山市で開催し、全国から 104 名の委員が集まり、山岳環境について意見交流を行った。

公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会では、独自の制度として、「自然保護指導員制度」を運営している。この制度は、登山を通して、日本の素晴らしい山岳自然を後世に引き継いでいくよう、全国各地の加盟団体から 1,400 名の登録を受けて、登山者マナーを広く呼びかけ、自然環境の保護に向けた活動を推進している。また、この指導員制度をさらに拡大展開を進めるべく、全国に情報発信を行っている。

### ◆登山者マナー

1. 自然を大切に  
この恵み多い自然を、未永く後世に伝えるため、自然を友達のように接し大切にする。
2. 水資源を大切に  
水は山からの恵みであり、あらゆる生命の源であるから、水源を汚さない。
3. テイクイン・テイクアウト  
山に持ち込んだものは必ず持ち帰る。山にはゴミを残さない。
4. トイレマナーを守る  
登山口で用を済ませて、携帯トイレの使用を習慣付ける。山岳トイレでは利用ルールを守る。使用済みペーパーなどトイレゴミの持ち帰りを呼び掛け。
5. ローインパクトに心がける  
自然環境へ負荷を抑える。移入植物の侵入への配慮（靴の泥に混入）。ストックにゴムキャップ装着。
6. 食糧や残飯の適切な管理を心がける  
野生動物への配慮（餌やり防止、残飯投棄防止、キャンプ食糧の管理）。



## (公社) 日本カヌー連盟

### 1. 実施概要

本連盟では環境保全並びに大会会場の美化推進の重要性の観点に基づき、とりわけ水辺環境について「クリーンウォーター」運動を継続的に実施している。平成 29 年度においては本連盟加盟団体および協賛企業や関連自治体と協働して展開した。

### 2. 平成 29 年度事業活動

すべての主催競技会における啓発活動を実施し、清掃活動等を実施した。スラローム大会ジャパンカップ全 7 会場においては、協賛企業とタイアップし、観戦来場者を含むすべての参加者に呼びかけ、イベントとしても実践した。

### 3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①競技会実施前に環境点検を主管団体と共同して実施し「来た時よりも美しく」を実践した。
- ②危険箇所回避、瑕疵については排除し、会場設営に着手した。
- ③水質については事前の公認検査の項目に照らし、汚濁・悪化防止に配慮した。
- ④監督会議、開会式において必ず環境保全についてその重要性を発信した。
- ⑤原則、ゴミは持ち帰りとし、やむを得ず会場処理する場合は自治体や宿泊業者とタイアップし処理体制を整備した。
- ⑥会場内のゴミ拾い等は大会日程に合わせて一斉もしくは参加団体ごとに実施した。
- ⑦会場内放送で定期的に環境保全・美化推進を啓発した。スラローム会場においては横断幕、のぼり、ブルゾン、トンガ、軍手などを準備しイベント化を図る取り組みも実践した。

### 4. 全体的な成果と今後の課題

啓発活動はおおむね浸透している。また、「クリーンウォーター」運動は長年本連盟の重要スローガンであり定着している。カヌー競技場の設置により、以前より水辺の環境が整備され、かつ水質が格段に改善され周辺住民に歓迎され公園化されているところも出てきており、カヌー競技場設置が契機となり自然と寄り添うこうした事例を全国にさらに広めたい。

今後の課題は、本連盟傘下ではない一般カヌー愛好者への啓発活動が急務である。レクリエーションとして普及することは大いに歓迎であるが、マナー欠如による環境汚濁については当該地域の加盟団体および自治体と協調して対応したい。

## (公社) 全日本アーチェリー連盟

### 1. 実施概要

加盟団体含めて連盟が一体となって環境活動を具体的に明示して継続的に取り組むべく全国に発信した。

### 2. 平成 29 年度事業活動

- 環境宣言を用いて広報活動
- 本連盟主催大会にて環境の啓発活動

- 本連盟からの加盟団体宛て発信

### 3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ・環境宣言を本連盟ホームページに掲載。
- ・環境月間を制定して加盟団体宛てにメール発信して環境への取り組みを促した。
- ・加盟団体宛ての文章発信等はメール発信にて行い、紙資源を節約する。
- ・具体的な環境の取り組みを例示して実践を促した。
- ・本連盟主催大会のパンフレットに環境宣言を掲載しポスター、バナーを掲示し、ゴミの分別も行った。紙ベースの速報の掲示を廃止し、スマホにて読み取れるようにし、結果もホームページに終了後速やかに掲載して、紙での配布を取り止めた。
- ・全日本主催大会のゼッケン用安全ピンを選手自身で持参するようにして毎回 400 以上の安全ピンの準備を無くした。

### 4. 全体的な成果と今後の課題

昨年度は環境についての啓発活動を実施したことで意識を付けることはできたが、今後は加盟団体においても全員参加型の環境の取り組みができるよう、啓発から実践できる体制強化を図りたい。

## (公財) 全日本空手道連盟

### 1. 実施概要

昨年度に引き続き、日本空手道会館内の節電や、その他会館内外で環境保全に関する取り組みを行った。

### 2. 平成 29 年度事業活動

- 徹底した節電
- 大会や講習会等におけるゴミ分別収集徹底の呼びかけ
- ナショナルチームによる早朝ゴミ拾い活動

### 3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①日中は廊下の電気を一部消した。また、エレベーター、エアコンのスイッチの近くに掲示物を張り、日本空手道会館を利用するすべての方に節電への意識付けを行った。また、職員は日常の業務においても、夏は窓を開け放ちエアコンの使用を控え、冬は暖房の温度を控えめに設定し、上着を着たりひざかけを使用したりして、節電に努めた。
- ②大会会場や、日本空手道会館を利用するすべての団体に対しゴミの分別を呼び掛けた。
- ③ナショナルチーム合宿において、宿舍まわりの早朝ゴミ拾い活動を行った。

### 4. 全体的な成果と今後の課題

当連盟では継続して徹底した節電を行っている。本館を使用する団体の中には、エレベーターの使用を控えることはもちろん、真夏にもかかわらず冷房を使用せず窓の換気のみで対応するという、協力的な団体も見られた。今後も節電に対する取り組みを継続していく。

また、掲示物を利用した呼び掛けは効果があり、講習会参加者は自発的にゴミの分別を行う姿が見られるようになった。





## (公社) 全日本銃剣道連盟

### 1. 実施概要

環境保全活動の重要性を認識し、当連盟主催の各種大会・講習会において、参加者に対し積極的な啓発活動を行った。

### 2. 平成 29 年度事業活動

- 大会会場に環境啓発ポスターを掲示
- 大会プログラムに環境啓発ポスターを掲載
- 照明、空調等の調整による節電

### 3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①大会会場に環境啓発ポスターを掲示し、選手や関係者に対し啓発活動を行った。
- ②事務室や道場の電気、空調をこまめに管理し、使用していない電化製品のプラグは抜く等、節電に努めた。

### 4. 全体的な成果と今後の課題

環境保全の重要性を幅広く PR することができ、選手や関係者の意識も向上してきている。今後もこの活動を継続して行い、環境保全に貢献できるよう努めていきたい。

## (公財) 全日本なぎなた連盟

### 1. 実施概要

公益財団法人全日本なぎなた連盟では、公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)と連携して、異常気象や地球温暖化に危機感を持ち、スポーツが楽しめる環境を子どもたちに残すために、環境保全の啓発活動に取り組んだ。

### 2. 平成 29 年度事業活動

- 大会時環境啓発ポスターの掲示
- 大会会場におけるゴミ分別回収の実施

### 3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①国体なぎなた会場における環境啓発ポスターの掲示  
主催大会にて環境啓発ポスターを数多く掲示して、呼びかけを徹底した。
- ②主催行事における環境活動  
ゴミの分別を徹底し、資源の再利用に協力した。

### 4. 全体的な成果と今後の課題

ポスターの掲示による啓発活動により、役員・選手・観覧者の多くに、環境保全を促すことができた。環境保護意識も一定のレベルに達したとみている。取り組みにおいては、まだまだ呼びかける場が多くあると考えている。

## (公財) 全日本ボウリング協会

### 1. 実施概要

スポーツと環境保全への啓発活動は「普及・広報部会」が担当した。「施設を大事にすることが、自分の最高のプレーを引き出す」というテーマを継続し、具体策としての大会における活動は、「競技委員会」の協力のもと実施した。

### 2. 平成29年度事業活動

- 各種イベントにおける環境啓発ポスター掲示
- 環境保全のためのルール、マナー等周知徹底と指導
- 大会成績のデータ活用による効率化と印刷コスト・資源使用の抑制

### 3. 具体的な活動実施内容とその成果

#### ①各種イベントにおける環境啓発ポスター掲示

平成29年度の協会主催大会、理事会、審判員資格認定会等において、環境啓発ポスターを提示した。また協会事務局内にも同ポスターを掲示し、注意喚起と資源の無駄づかい抑制に努めながら業務を遂行した。

#### ②環境保全のためのルール、マナー等周知徹底と指導

協会主催の一部の大会でプログラム冊子に環境啓発ポスターデザインを掲載した。大会の「監督会議」や「選手ミーティング」において、競技環境保護とルール、マナーの遵守について注意喚起を行った。大会中は選手、役員、観客といった大会にかかわるすべての人を対象に、場内アナウンス等による注意喚起を実施した。

#### ③大会成績のデータ活用による効率化と印刷コスト・資源使用の抑制

成績公開にSNSを活用し、会場内外問わず詳細な成績データをより早く閲覧できるようになった。競技においては、最終成績一覧表のデータ提供が定着し、スコアシート不使用も進んだことにより、印刷コストおよびコピー用紙使用量の削減につながった。

### 4. 全体的な成果と今後の課題

近年競技選手の低年齢化が進んでおり、ルールやマナーに対する意識づけの機会や方法も、若い世代に理解できるよう工夫する必要性が生じている。併せて指導者や審判員といった関係者に向けた意識づけも重要となってくる。審判員資格の認定会、ジュニアコーチ研修会といった事業の中で、より積極的に意識づけを行っていきけるよう、各事業の担当部会に引き続き働きかけていきたい。

協会主催大会では、主管する各都道府県連盟が主体的に「後片付け推進タイム」を設け、選手による場内のゴミ集め・忘れ物確認・競技エリアの現状復帰を指導するなどの活動を実施している。試合後のマナーとして、選手の主体的な行動となることを期待しつつ推奨している。

## (一財) 全日本野球協会

### 1. 実施概要

スポーツ団体として環境活動の重要性を認識し、総務委員会環境部会から各加盟団体に情報発信し、野球界全体における啓発活動に取り組んでいる。



特に野球で使用する木製バットは自然の恵みであり、自然環境の保全是野球界のメインテーマとなっている。平成29年度は「～愛する自然と野球のため～アオダモ植樹キャンペーン2017」をスローガンに、北海道において植栽環境保全に貢献しながら、バット材として世界一と言われているアオダモの“バットの森”を育てる取組みを展開した。

## 2. 平成29年度事業活動

- 各加盟団体主催行事における環境ポスターの掲示
- バット材（アオダモ）の植樹活動
- 競技場〔球場〕美化活動として、経済界協議会と提携し都市対抗野球大会（東京ドーム）や日本選手権大会（京セラドーム大阪）でゴミ袋を6000人に配布しゴミを出さない活動を展開
- 同上、東京ドームと京セラドーム大阪にて経済界協議会とタイアップし、カーボンオフセットを実施

## 3. 具体的な活動実施内容とその成果

### ①主要行事における環境啓発ポスター等の掲示

- ・7月－第88回都市対抗野球大会 東京ドーム
- ・8月－第99回全国高等学校野球選手権大会 阪神甲子園球場
- ・10月－第43回社会人野球日本選手権 京セラドーム大阪
- ・1月－2017年度野球指導者講習会 オリピック記念青少年総合センター
- ・通年 社会人野球並びに学生野球の各地方大会 各地主要球場

### ②バット材（アオダモ）の植樹活動（4回）

- ・日時：平成29年7月15日 10時～11時30分  
場所：苫小牧国有林 1283林班は小班  
植樹数：200本（鹿対策との同時並行作業）  
参加者：西山秀二（元読売ジャイアンツ）、北海道室蘭栄高校野球部員、苫小牧スポーツ少年団野球部・新生台イーグルス野球少年団、地元ボランティア、林野庁北海道森林管理局、北海道庁及びアオダモ資源育成の会関係者  
以上 130名
- ・日時：平成29年8月7日 10時～11時30分  
場所：栗山町 栗の木ファーム  
植樹数：100本  
参加者：栗山英樹監督（北海道日本ハムファイターズ）、地元ボランティア（栗山町ロータリークラブ）、栗山ロッキーズ、継立ロビンス及びアオダモ資源育成の会関係者  
以上 124名
- ・日時：平成29年9月30日 10時～11時30分  
場所：由仁町道有林 119林班41小班  
植樹数：300本  
参加者：札幌大学野球部員、北海道札幌東豊高校野球部員、地元ボランティア、林野庁北海道森林管理局、北海道庁及びアオダモ資源育成の会関係者  
以上 120名
- ・日時：平成29年10月14日 10時～11時30分  
場所：新冠国有林 2101林班る小班  
植樹数：1000本

参加者：北海道静内高校野球部員、地元ボランティア、林野庁北海道森林管理局、北海道庁及び  
アオダモ資源育成の会関係者  
以上 103名

#### 4. 全体的な成果と今後の課題

野球界はスポーツと環境が大きなかかわり持つことを以前から考え、啓発し、実践してきた。植樹活動を推進している「NPO 法人アオダモ育成の会」も設立から15年を経過している。今後も変わることなく環境保全に努めていきたい。

## (公社) 日本武術太極拳連盟

### 1. 実施概要

スポーツ団体として、良い環境の下でなければスポーツを楽しむことはできないことを認識し、スポーツと環境ポスターにもある『来たときよりもキレイに!』を目標として活動を行った。団体関係者、選手だけでなく、イベント来場者などにも呼びかけを行い、スポーツ活動を通じて、地域環境や各地の会場の環境保全に努めたい。

### 2. 平成29年度事業活動

- 大会時環境啓発ポスターの掲示
- 日本連盟トレーニングセンターに環境啓発ポスターの掲示
- 大会時ゴミの持ち帰りのアナウンス

### 3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①大会時環境啓発ポスターの掲示  
本連盟主催大会にて、選手受付、選手表彰場所に、環境啓発ポスターを掲示し、啓発活動を行った。
- ②その他のポスターの掲示  
競技者や検定受験者など多くの来場者を迎える日本連盟トレーニングセンターにて、環境啓発ポスターを掲示し、啓発活動を行った。
- ③大会時ゴミ持ち帰りのアナウンス  
選手の活動が観客や会場の方の好意に支えられているという考えから、本連盟では大会時のゴミ持ち帰りを前提としている。毎大会でアナウンスを行い、ゴミの持ち帰りを呼びかけている。

### 4. 全体的な成果と今後の課題

ポスターの掲示、大会時のアナウンスなどを通して、選手をはじめ多くの関係者に環境保全活動についての理解を得ることができた。今後も活動を継続するとともに、ポスター掲示場所の拡大やより実践的な活動にも取り組んでいきたい。競技者年齢6～80歳と多世代交流型スポーツである武術太極拳は、他のスポーツ以上に将来世代への責任を自覚し、活動していく必要があることを認識し、一人でも多くの方に環境保全の重要性について理解、共感してもらえよう、啓発・実践活動に努めたい。



## (公社) 日本カーリング協会

### 1. 実施概要

例年通り全国のカーリング専用ホールへ環境啓発ポスターの展示を行うとともに、主要大会では環境特別委員会のメンバーが中心となり、選手・運営スタッフ共同で環境保全活動に対する意識の向上を積極的に行うことを目指し活動した。

### 2. 平成 29 年度事業活動

- 専用施設への環境啓発ポスター掲示
- 主要大会におけるスタッフ・選手への環境保全活動

### 3. 具体的な活動実施内容とその成果

①平昌オリンピック代表決定戦他、日本カーリング協会主催の主要大会において環境啓発ポスターの掲示を行った。

- ・ とうぎんカーリングスタジアム（北海道）
- ・ 軽井沢アイスパーク（長野県）
- ・ カーリングホール御代田（長野県）
- ・ みちぎんドリームスタジアム（青森県）
- ・ アドヴィックス常呂カーリングホール（北海道）
- ・ 妹背牛町カーリングホール（北海道）
- ・ 北海道立サンピラーパークカーリング場（北海道）等

②下記大会において大会参加者、スタッフを含めゴミの分別回収を徹底し、環境への意識の向上を図った。

《実施主要大会》

- ・ 第 23 回オリンピック冬季競技大会（2018 / 平昌）女子カーリング日本代表決定戦  
2017 年 9 月 8 日～ 10 日 アドヴィックス常呂カーリングホール
- ・ 第 35 回 全農 日本カーリング選手権大会（男女）  
2018 年 1 月 28 日～ 2 月 4 日 サンピラー交流館カーリングホール（名寄）
- ・ 第 11 回 全農 日本ミックスダブルスカーリング選手権大会  
2018 年 3 月 14 日～ 18 日 みちぎんドリームスタジアム青森市スポーツ会館

### 4. 全体的な成果と今後の課題

平昌オリンピックの開催年ということもあり、協会としてスタッフの不足等の理由で、環境保全への取り組みに関しては活動しにくい年であった。課題は多く、理事会においても環境特別委員会の構成メンバーを再検討し、来年度は取り組みを増やし成果を上げていくことが確認された。

## (公社) 日本トライアスロン連合

### 1. 実施概要

- ①「グリーントライアスロン」(※ 1) をスローガンとする環境保全活動の継続実施
- ②東京ベイククリーンアップ大作戦

### ③カーボンオフセットの取組の拡大（横浜シーサイド大会から世界シリーズ横浜大会へ）

※1「グリーントライアスロン」とは、国際トライアスロン連合（ITU）と日本トライアスロン連合（JTU）が共同で取り組む、「トライアスロン」を通じて行う環境活動。主にスタッフ・選手・スポンサー・来場者を対象とし、①リデュース（減らす）、②リユース（再利用）、③リサイクル（再資源化）の3つをテーマとして環境保全活動を大会主催者と連携して実施。

## 2. 平成29年度事業活動

- グリーントライアスロン in 横浜〔平成29年4月15日 山下公園〕
- 東京ベイクリーンアップ大作戦〔平成29年6月・9月・11月計3回 お台場海浜公園〕
- カーボンオフセットの取り組み〔平成29年5月13日・14日 山下公園特設トライアスロン会場、平成29年9月24日 横浜・八景島シーパラダイス〕
- Green Triathlon コーションテープを作成しJTU 主要大会で掲出（横浜、蒲郡、大阪城、仙台、長良川、昭和記念公園、村上、東京台場、宮崎他10会場以上で掲出）

## 3. 具体的な活動実施内容とその成果

### ①グリーントライアスロン in 横浜〔平成29年4月15日 山下公園〕

大会開催1カ月前大会会場となる山下公園にて、スタッフ、協賛社、一般来場者の協力のもと環境保全活動を実施。主な活動内容は、スイムコースの山下公園前面海域の海底清掃や会場内清掃、海中実況中継、スイムコース試泳など。

### ②東京ベイクリーンアップ大作戦〔平成29年6月・9月・11月計3回 お台場海浜公園〕

「東京港を泳げる海に！」をスローガンに年3回（毎年6月・9月・11月予定）、地球環境の保全と泳げる海をめざして、お台場海浜公園でクリーンアップキャンペーンを実施。

### ③横浜大会におけるカーボンオフセットの取り組み〔平成29年5月13日・14日 世界シリーズ横浜大会／平成29年9月24日 横浜シーサイドトライアスロン大会〕

世界トライアスロンシリーズ横浜大会および横浜シーサイドトライアスロン大会にて、横浜市との協働による地球温暖化対策「横浜ブルーカーボン事業」を実施。大会参加選手からの環境協力金を活用し、横浜市漁業協同組合のご協力のもと、参加者のレースの完走を願って「完走（乾燥）わかめ」を配布し、0.4t-CO<sub>2</sub> 分削減。本事業による寄附金は、CO<sub>2</sub> 削減を目的に、わかめの地産地消や水質浄化、海の環境改善支援等に充当される。

## 4. 全体的な成果と今後の課題

横浜大会をはじめJTU 主要大会各地で「グリーントライアスロン」をスローガンとした環境保全告知活動がスタッフおよび参加者へ確実に浸透した。

## 5. JOC スポーツ環境専門部会員 山崎 秀樹

トライアスロン競技は自然界を競技会場とし、スイム会場・トランジションエリア、観戦スタンド、フィニッシュガントレーなどビーチ、公園等に競技会場が設営される。JOC 環境のスローガン「来たときよりキレイに」にもあるように、自然を会場として利用する競技としての意識を各大会に強く周知させることが必要となる。今後は今年度実施した海底清掃や周辺の清掃活動を全国すべての大会会場で実施できるよう働きかけていきたい。



## (公財) 日本ゴルフ協会

### 1. 実施概要

ゴルフ場に対して農薬の使用など法令に基づくコース管理や環境に配慮したコース管理の徹底をお願いするほか、競技会場において環境に配慮した活動を行った。

### 2. 平成 29 年度事業活動

- 大会会場における環境活動
- 資料作成時の両面コピー
- 資料案作成時に廃棄資料の裏面印刷

### 3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①事務所内に環境啓発ポスターの掲示。
- ②トーナメント会場において、環境配慮を目的に、日本オープン、日本女子オープン、日本シニアオープン会場のギャラリー飲食場所を中心に、分別用ゴミ箱を設置。

### 4. 全体的な成果と今後の課題

事務所内におけるペーパーレス化の意識付けはできるものの、委員会等での資料のペーパーレス化が課題。

## (公社) 日本スカッシュ協会

### 1. 実施概要

今年も、昨年のキャンペーンを継続して行った。コートを保有するクラブ利用時の心構え「来たときよりもキレイに！」実践など、全てのライフスタイルに環境意識を取り込むように促し、生活の基本となるように取り組んだ。

また、全国の地区支部への浸透を深めるために会議等でも説明を行った。

### 2. 平成 29 年度事業活動

- 大会開催時に海洋に応じたエコキャンペーンの実施（マイカップ・靴袋リユース）
- 大会会場に JOC 制作の環境啓発ポスターを掲示
- 大会表彰式において環境啓発のスピーチをいれる
- 協会公式サイトで啓発
- 平成 30 年度に向け、さらに地球温暖化防止とスポーツの取り組みとして、大会プログラムへ環境ポスターを掲示する予定で準備中

### 3. 具体的な活動実施内容とその成果

#### ①大会開催時の実施状況

当協会主催の全ての大会や支部大会で JOC 環境啓発ポスターを掲示。  
全日本ジュニアスカッシュ選手権大会のパンフレットにも掲載した。  
協会及び支部大会をはじめ草大会にいたるまでゴミの分別を実施している。

#### 4. 全体的な成果と今後の課題

引き続き JOC の環境啓発ポスターで環境に配慮した活動をアピールする。また、改めてスポーツ団体として環境問題に取り組む必要性を全体会議で啓発し、実践していく。

## (公社) 日本ボディビル・フィットネス連盟

#### 1. 実施概要

役員が中心となり全国の公認クラブ、選手、大会観客、関係者等の方々に環境問題の啓発活動を進め、環境保全意識の浸透と高揚を図っている。

#### 2. 平成 29 年度事業活動

- 事業局での書類を削減
- 競技会等における環境美化活動
- 大会プログラムへ啓発資料の掲載
- 大会・講習会会場での広報活動

#### 3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①事業局での書類を削減  
選手、審査員、指導員等の登録管理データベース化により書類を削減。
- ②競技会等における環境美化活動  
年間約 50 回開催される大会会場でゴミ箱撤去、あるいは分別化。
- ③大会プログラムへ啓発資料の掲載  
大会プログラムに環境ポスターを掲載。
- ④大会・講習会会場での環境啓発活動  
環境標語横断幕（バナー）、ポスター掲示等による環境啓発活動。

#### 4. 全体的な成果と今後の課題

ポスター、バナーの掲示、プログラムへの掲載などの啓発活動を継続することで、役員、選手、観客等への環境活動意識が浸透してきている。

「来たときよりもキレイに！」をスローガンに役員が一丸となり、環境問題に積極的に取り組む。

## (一社) 全日本テコンドー協会

#### 1. 実施概要

全日本テコンドー協会において総務委員会の業務に環境委員会が統合された。昨年 5 月からの約 1 年間の活動の中で、スポーツ団体が環境に対する意識と取り組める活動を都道府県団体ならびに会員に啓発を図るため全国規模の競技大会にて行った。

平成 30 年度は地方大会での活動に枠を拡げ活動したい。

#### 2. 平成 29 年度事業活動

- 競技大会時のポスター、パンフ掲示





●競技大会時の環境への取り組みの呼びかけ

### 3. 具体的な活動実施内容とその成果

①競技大会時のポスター、パンフ掲示

全国規模の大会時に「来たときよりもキレイに！」のポスターを掲示。

パンフレットの表4や表3にも表示し、啓発活動を行った。

②競技大会時の環境への取り組みの呼びかけ

競技大会の開会式のなかで「環境委員会より注意」の時間を設けスポーツ団体として出来る環境対応の一步である、会場のゴミの分別や持ち帰りや会場周辺の美化とマナーを呼びかけた。

### 4. 全体的な成果と今後の課題

ポスター掲示やパンフへの環境啓発ポスターのプリントを行い大会時の開会式での環境活動の呼びかけを行い啓発活動を行ってきた。特に開会式の中に環境啓発の時間を設けることは、回数を重ねるごとに開会式の恒例のプログラムとして認識されている。

実際の会場で撤収時のゴミの量も着実に減少しており、啓発活動の成果が出ていると判断できる。今後はこれを継続するとともに、広報とも連携を図り、大会情報の速報をHP掲載するなど、ペーパーレス化に努めていく。30年度は合宿時に強化選手を対象に行っているコンプライアンス研修の際に環境啓発を併せて行い、トップ選手の環境意識を高めていく。

## (公社) 日本ダンススポーツ連盟

### 1. 実施概要

2017年1月から12月までに当連盟(JDSF)が公認して開催されたダンススポーツ競技会は289回で、これらの大会ではゴミの分別・持ち帰りを啓発するとともに、実践を促した。また、主な主催競技会で環境横断幕やポスターを掲示したほか、指導員研修会において、スポーツと環境活動の関連および重要性について訴えた。

### 2. 平成29年度事業活動

- JDSF 及び加盟団体主催の競技会での環境横断幕の掲出
- JDSF 事務所会議室への環境啓発ポスター掲示
- 競技会等における環境活動
- 事務所における環境活動
- 指導員研修会における環境活動の啓発

### 3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会時環境啓発横断幕等の掲示

JDSF 主催の競技会においては、従来の三笠宮杯及び東京オープン競技会に加え、北海道、仙台、静岡、大阪、大分で開催されたダンススポーツグランプリ及び愛媛で開催された全国都道府県対抗ダンススポーツ大会、ジュニアダンススポーツカップのほか、当連盟主催の競技会において、JDSF ロゴマークをも配した JOC 環境横断幕を掲出し、環境保全の必要性和運動の意義について訴えた。

②事務所会議室への環境啓発ポスターの掲示

来客があった場合等に JOC の環境保全活動について説明し、理解を求めた。

### ③業務執行理事会議案書のペーパーレス化

約 20 名が出席する業務執行理事会を毎月 1 回開催しているが、2016 年 11 月の業務執行理事会より議案書のペーパーレス化を行うとともに、両面印刷を強く推奨するなど、年間 1 万枚以上の紙を節約した。

## 4. 全体的な成果と今後の課題

大会時のゴミ分別は、引き続き多くの会場で実践しており、主催者及び会員の環境保全に対する意識向上はかなり定着してきた。2020 東京オリンピックを控え、引き続き、JDSF 及び加盟団体の各イベントにおいて、JOC ポスターの張り出しや環境横断幕の掲示などを行い、環境保全の重要性を訴えていきたい。特に今後は、全国各地で開催する指導員研修会においても啓発していきたい。また、業務執行理事会議案書のペーパーレス化を参考にしながら、事務所や大会開催時での紙使用及びコピー数の削減の必要性をこれまで以上に訴えていきたい。

# (一社) 日本バイアスロン連盟

## 1. 実施概要

日本バイアスロン連盟は、環境活動の重要性を認識し、継続的活動を積極的に行った。

## 2. 平成 29 年度事業活動

- 大会時環境啓発ポスター、バナーの掲示
- 競技会等における環境活動と清掃活動

## 3. 具体的な活動実施内容とその成果

### ①大会時環境啓発ポスター、バナーの掲示

本会主催大会にて環境啓発ポスター、バナー掲示、環境パンフレットの配布を行い、啓発活動を行った。

### ②競技会等における環境活動と清掃活動

東日本選手権大会・日本選手権大会・西日本選手権大会・宮様スキー国際競技大会バイアスロン競技等の競技会においては、前後に参加者と一緒になって会場周辺地域の清掃活動を行った。さらに、札幌市等の自治体の行ったイベントを通じて、前後に参加者と一緒になって会場周辺地域の清掃活動を行った。

また、札幌市、虻田郡倶知安町、富山県南砺市でミニバイアスロン競技大会及び小・中学生を対象としたバイアスロン体験講習会を実施し、その中で、参加者に環境とスポーツのかかわりや、環境保全・啓発活動の重要性を訴えるとともに周辺地域の清掃活動を行った。

## 4. 全体的な成果と今後の課題

競技会場内へのポスター、バナーの掲示など啓発活動を行ってきた成果が徐々に実り、選手を初め多くの関係者に環境啓発の知識や、理解を得ることができた。

今後も、競技者、啓発活動から実践活動へ意識を変え、より具体的な活動を行っていく。スポーツと環境が大きな係りを持つことを一人でも多くの方に理解してもらえるようこれからも積極的に環境保全に努めていきたい。



## (一社) 日本サーフィン連盟

### 1. 実施概要

各支部が中心となり「NSA SURFERS BEACH CLEAN ACT」を開催し、ゴミのないビーチ、ゴミを捨てないビーチを働きかけ、全国一斉ビーチクリーンを開催している。

次の時代を担う、これから生まれてくる子ども達にも思いっきりサーフィンを楽しんでもらうために「サーファーはこの海を守る！キレイな海は私達が守る！」そうした気持ちを込めて活動をしている。

### 2. 平成 29 年度事業活動

#### ●ビーチクリーン

平成 29 年 9 月 3 日（日）、10 日（日）に全国一斉ビーチクリーンを実施。

#### ●広報活動

- ・日本サーフィン連盟オフィシャル HP に活動実績報告掲載
- ・全国のサーフショップへフライヤー、ポスター配布

### 3. 具体的な活動実施内容とその成果

主催：一般社団法人日本サーフィン連盟

協力：日本サーフィン連盟 70 支部

実施場所：全国サーフポイント 120 カ所

参加人数：約 6,000 名

平成 29 年、11 回目（11 年連続）で行い、サーファーだけではなく、地域の方々にも賛同・参加いただき、環境保全の大切さを呼びかけ清掃活動を行った。

### 4. 全体的な成果と今後の課題

全国一斉ビーチクリーンは平成 29 年で 11 回目を迎え、協力してくれる方々も増えてきた。現在 6,000 名のビーチクリーン参加者を増やし、多くの方々、企業、行政と手を組み、10,000 名の参加者を目指し、サーファーだけでなくすべての人に海の清掃を日ごろから心がけてもらえるように努めていきたい。

## (一社) 日本カバディ協会

### 1. 実施概要

日本カバディ協会では、平成 19 年 4 月に環境委員会を設置以来、スポーツ団体が取り組める環境活動の重要性を認識し、継続的活動を積極的に行ってきた。これからは、団体だけの活動に止まらず、より積極的な活動を全国に展開できるよう、地方支部を含め組織を強化していく。

### 2. 平成 29 年度事業活動

- 国内大会（全日本選手権大会、東日本大会、西日本大会、チャレンジカップ、学生大会、他）での環境啓発ポスター、バナー掲示、パンフレットの配布
- 競技会等における環境活動

## ●事務局における環境活動

### 3. 具体的な活動実施内容とその成果

#### ①大会での環境啓発ポスター、バナーの掲示、パンフレットの配布

当協会が主催した大会（全日本選手権大会、東日本大会、チャレンジカップ、他）、後援した大会（西日本大会、学生大会）にて環境啓発ポスター、バナー掲示、パンフレットの配布を行い、啓発活動を行った。

#### ②競技会等における環境活動

ゴミの分別、持ち帰りの徹底、冷暖房の電源には触れない等の環境保護の呼びかけを行い、大会プログラムに注意事項記載した。また、式典でのアナウンスを併せて行い、環境保全・啓発活動の重要性を訴えた。

#### ③事務局における環境活動

ペーパーレス化推進の為、文書データは郵送やFAXでの送受信を避け、Eメールによる連絡事項のやり取りを極力行った。コピー、FAX用紙の両面使用を徹底し、ゴミの削減、資源節約に努めた。また、事務所を出るときは電源を抜くなどのエネルギー、コスト削減も心がけている。

### 4. 全体的な成果と今後の課題

環境啓発ポスター、バナー掲示、パンフレットの配布など長い間続けてきた啓発活動により、選手や関係者に環境啓発への理解を得ることができた。また、大会の会場では、自主的にゴミの分別を行う選手が多く見られた。

カバディは、ほとんど道具を必要としないエコなスポーツといえる。今後環境問題への意識づけをより一層行い、積極的に環境保全に貢献していきたい。また、地方支部に呼びかけ、全国規模で展開していけるよう、より一層の環境保全に努めていきたい。

## （一社）日本セパタクロー協会

### 1. 実施概要

日本代表選手やチームを通じて、環境保全のメッセージを伝え、競技会場にスポーツと環境に関するポスターを掲示するなど環境啓発活動を推進する。また地球温暖化防止キャンペーン「COOL CHOICE」に引き続き賛同して、協会一丸となって活動していく。

### 2. 平成29年度事業活動

- 大会時環境啓発ポスター掲示および大会パンフレットに掲載
- 競技会等における環境活動
- 事務所における環境保全

### 3. 具体的な活動実施内容とその成果

#### ①大会時環境啓発ポスター掲示、大会パンフレットに環境ポスター印刷

本会主催大会および各地方大会において環境啓発ポスター、バナー掲示、環境パンフレット配布を行い、啓発活動を行った。また、大会パンフレットにも環境ポスターを掲載した。

#### ②競技会等における環境活動

選手及び来場者へのゴミの削減、分別、持ち帰り等の環境保護の呼びかけを開会式や館内放送等で



行った。

### ③事務所における環境保全

ペーパーレス化の推進で、紙の無駄遣い等をなくしてゴミの削減、クールビズ等で冷暖房などのエネルギー（電気等）節約など環境保全に努めた。

## 4. 全体的な成果と今後の課題

環境ポスター等の啓発活動により、選手や関係者に理解を得ることができた。また、大会会場ではゴミの持ち帰りや分別が図られるようになってきた。今後は地方大会での啓発活動を含め全国規模で、より一層の環境啓発および環境保全に努めていきたい。

# （一社）日本クリケット協会

## 1. 実施概要

日本クリケット協会ではスタッフをはじめ選手・ボランティアが環境保全活動の重要性を認識し、スポーツ団体としてできることを考え取り組みを図っている。

## 2. 平成 29 年度事業活動

- 大会やイベント時の環境啓発ポスターの掲示・チームでの集合写真
- 選手によるゴミの分別・削減・清掃活動・グラウンドの見回り
- 事務所におけるペーパーレスまた、紙の分別によるリサイクル
- 事務所での仕事環境の改善

## 3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①大会やイベント時の環境啓発ポスターの掲示・チームでの集合写真  
各大会時にポスターを掲示し意識の向上を図った。
- ②選手によるゴミの分別・削減・清掃活動・グラウンドの見回り  
ごみ箱設置時に英語でもゴミの種類を表記し分別・削減に協力依頼。
- ③事務所におけるペーパーレスまた、紙の分別によるリサイクル  
スタッフでの会議等は各自ノートパソコンにて資料確認しプリントアウトせず、ペーパーレスを図った。また、不要になった紙を分別し紙業へ持ち込みリサイクルを依頼。
- ④事務所での仕事環境の改善  
各部屋での仕事場から一部屋集中にして冷暖房・電気の節電に心がけた。

## 4. 全体的な成果と今後の課題

啓発活動の成果として、選手・関係者の意識の向上が見られ、ゴミの分別等がきちり行われた。今後も活動を継続し、スポーツを通じた環境保全に努めていきたい。

# （公社）日本アメリカンフットボール協会

## 1. 実施概要

選手自らがスタジアムの所在する地域環境活動に貢献することで、スポーツ団体、大学スポーツ

との、より親密なコミュニケーションを図ることを目的とした。  
『街をキレイに！』をスローガンに地域美化推進活動を実施した。

## 2. 平成 29 年度事業活動

「全日本大学選手権 三菱電機杯 第 72 回甲子園ボウル」当日に周辺駅の清掃活動を実施した。また、関西地区以外でも、同時期に各地区でスタジアム内および付近の清掃作業を実施した。

## 3. 具体的な活動実施内容とその成果

- |            |   |
|------------|---|
| (1) 活動名称   | 『三菱電機杯 第 72 回毎日甲子園ボウル』<br>「地域美化推進活動“Clean Up Action”」   |
| (2) 実施日時   | 平成 29 年 12 月 17 日（日）<br>午前 8:00 ～午前 11:30               |
| (3) 実施場所   | 選手権会場「阪神甲子園球場」周辺 8 駅<br>(阪急西宮駅北口、阪神今津駅、JR 西宮駅甲子園口、等)    |
| (4) 参加者    | 関西学生アメリカンフットボール連盟所属<br>加盟 38 大学の学生、約 2,000 名および、全国加盟校学生 |
| (5) 活動主管   | 関西学生アメリカンフットボール連盟                                       |
| (6) 企画運営協力 | 特定非営利活動法人 コミュニティー事業支援ネット                                |
| (7) 活動内容   | 駅周辺道路およびスタジアム内、周辺のゴミ拾いを含めた、清掃活動                         |

# (公社) 日本チアリーディング協会

## 1. 実施概要

公益社団法人日本チアリーディング協会は、地球環境問題の重要性を認識し、スポーツ活動における環境保全に関する啓発と実践活動を推進している。

## 2. 平成 29 年度事業活動

- 大会時環境啓発ポスター、バナーの掲示
- 大会プログラムに環境啓発ポスターを印刷・配布
- 分別回収の実施とゴミ持ち帰り運動の促進
- 省エネ・省資源活動の実施

## 3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①大会時環境啓発ポスター、バナーの掲示
  - ・本協会主催大会において環境啓発ポスター及びバナーを掲示した。
- ②大会プログラムにポスターを印刷・配布
  - ・本協会主催大会プログラムにポスターを印刷・配布し、啓発活動を行った。
- ③大会会場における分別回収の実施とゴミ持ち帰り運動の促進
  - ・本協会主催の大会において会場内のダストボックスの分別を徹底し、ビニール袋使用による回収を実施した。
  - ・大会のアナウンスにおいて、「来たときよりもキレイに！」を呼びかけた。
- ④省エネ・省資源活動の実施



- ・大会会場や控室の照明、空調温度を調整し省エネを実施した
- ・大会会場の整理・清掃を行い、競技環境の整備を促進した。
- ・加盟団体等との各種事務手続きを電子化し、ペーパーレス、省資源を実施した。

#### 4. 全体的な成果と今後の課題

環境啓発ポスターを大会プログラムに印刷・配布するとともに大会会場内に数多く掲示し、啓発活動を行ったことにより、選手をはじめ大会関係者、入場者に環境啓発の理解を得ることができ、スポーツと環境問題に対する認識の向上を図った。

また、協会事務所内に環境啓発ポスターを掲示したことにより、職員及び来訪者に対し、環境問題への取り組みの重要性の認識を深めることができた。

今後も、競技者を初め関係者・関係団体への啓発活動を推進するとともに、計画的な活動を実践し積極的に環境保全に努める。

## (公社) 日本コントラクトブリッジ連盟

### 1. 実施概要

平成 29 年度は首都圏を中心に環境保全に関する啓発活動を行い、競技会参加者や運営関係者の意識の向上を図った。平成 30 年度は全国の競技団体や競技会場でより具体的な取り組みが行われるよう働きかけを行う。

### 2. 平成 29 年度事業活動

- 環境啓発ポスターの掲示。
- 競技会の開始前に、競技会場でゴミをできるだけ出さないこと、ゴミの分別や後片付けへの協力などを参加者にアナウンスでお願いをした。
- 一部の競技会場に日頃利用している競技会参加者が集まり、清掃を行った。
- ペーパーの使用量を減らすよう連盟事務局は関係者に理解を求めた。

### 3. 具体的な活動実施内容とその成果

#### ①環境啓発ポスターの掲示

日本最大の競技会場（四谷ブリッジセンター）の参加者受付を行う場所に環境啓発ポスターを掲示し、競技参加者および競技会関係者に啓発活動を行った。

#### ②競技会開始前のアナウンス活動

競技会開始前に、運営審判（ディレクター）より競技運営への参加者協力の一環として、ゴミをできるだけ出さないこと、ゴミの分別や後片付けの負担軽減への理解を求めた。一部の有名選手が後片付けに参加し啓発活動を行った。

#### ③競技会場の清掃

一部の競技会場で参加者の募集を行い、日頃競技会場を利用している競技会参加者の有志が数十人集まり競技会場の清掃を行った。

#### ④ペーパーレス化への取り組み

連盟事務局で、一部の会議資料を従来の郵送からデータ送付に変更するなど、会議事前配布資料や当日資料の印刷量の削減を行い、関係者の理解を求めた。

#### 4. 全体的な成果と今後の課題

コントラクトブリッジは、一般の観客のいない競技であり、競技会場の入場者は運営関係者を除いて全員が競技会参加者となっている。顔見知りの関係も多いため、環境保全活動の協力への呼びかけはしやすい面がある。平成30年度も2020年に向けて、全国の競技会会場や団体、約8,000人の会員へ積極的な働きかけをし、意識の向上と具体的な活動の習慣化を広げていきたい。

## (公社) 日本オリエンテーリング協会

### 1. 実施概要

平成29年6月18日(日)に栃木県矢板市において、第43回全日本オリエンテーリング大会を実施し、プログラム及び報告書に環境ポスターを挿入。また、会場となった矢板市立矢板中学校体育館内にポスターを掲示した。

平成29年12月3日(日)に香川県まんのう町において、第26回全日本リレーオリエンテーリング大会を実施し、プログラムに環境ポスターを挿入。会場となった国営讃岐まんのう公園内「ドラムドーム」内にポスターを掲示した。

オリエンテーリング行事において、ゴミ等を残すことは、次回大会の会場として改めて使用できなくなるため、大会終了後に役員が使用エリア内を巡回して、ゴミや忘れ物等がないか確認している。両大会とも、「来たときよりも美しく」をモットーに活動している。

## (公社) 日本パワーリフティング協会

### 1. 実施概要

世界的にも希な長寿国の本邦に於いて、選手寿命が14歳から90歳に及ぼうとするパワーリフティングをさらに普及させるため、一般社会に紹介する場を積極的に持ち、数あるスポーツの中でも幅広い年齢層が活躍し、生涯楽しめるスポーツである旨をアピールする。

日本パラパワーリフティング連盟との連携を強化し、健常者・障がい者との交流を図り、パラリンピック出場資格獲得者の増加を目指す。

大会会場として、公共体育館・公会堂等をお借りする 경우가多々あるが、競技中および終了後の会場・施設の原状回復及び清掃・ゴミの持ち帰り等を徹底する。

### 2. 平成29年度事業活動

- 全日本・ジャパクラシック・ブロック・都道府県及び支部大会において、環境啓発ポスターを掲示した。
- 当該大会において、出場者のゴミ持ち帰りを開催要項に記載し、上記大会会場で大会事務局から大会使用器具撤収時に会場復元を呼びかけ、大会関係者(開催者・出場者)全員参加協力して原状を回復した。

### 3. 具体的な活動実施内容とその成果

国体公開競技への昇格に伴い、愛媛県伊予市で9月9日、10日に第72回愛顔つなぐえひめ国体パワーリフティング大会を開催し、大盛況であった。

- ①全日本パワーリフティング選手権大会及びその他大会でのゴミ分別収集を徹底。





②健常者・障がい者の交流大会を日本各地で数回実施し、お互いの相互理解を深めた。

#### 4. 全体的な成果と今後の課題

- ・ポスターの掲示や清掃活動が多くの大関係者に周知され、主催者側からポスターを要望していただけになったことは大きな成果である。
- ・2019年度世界ベンチプレス選手権大会実施のための準備作業の本格化。
- ・各都道府県大会の拡充。
- ・全日本規模の大会出場者のさらなる増加及びレベルアップ。
- ・施設提供者との良好な関係維持。
- ・日本パラパワーリフティング連盟と連携し、障がい者がスポーツにいそしめる環境を構築していく。

## (一社) 日本フライングディスク協会

### 1. 実施概要

一般社団法人日本フライングディスク協会は、砂浜を使用して競技する『ビーチアルティメット』中心に環境活動に取り組み、競技者、関係者に対し環境保全意識の啓発活動を実施してきた。平成27年度から、協会内に環境委員会を設置し環境活動に取り組んでいる。

### 2. 平成29年度事業活動

- 大会参加者による会場及び会場周辺の清掃活動、ゴミの分別廃棄の徹底、及びゴミ持ち帰り推奨
- 使用済段ボールを利用して、親子で手作りフライングディスク工作（リサイクル活動）
- 大会会場での環境ポスターの掲示、大会パンフレットへの環境ポスター掲載
- 協会事務局のペーパーレス化推進

### 3. 具体的な活動実施内容とその成果

#### ①リサイクル活動

ゴミとして捨てられる段ボールを活用し、親子でフライングディスクを工作。

- ◆平成29年7月22日（参加者：親子合計40名）
- ◆平成29年10月14日（参加者：親子合計70名）

主催：貝塚市教育委員会

協力：大阪府フライングディスク協会

- ・段ボールフライングディスクの作成方法を子供たちと保護者に指導
- ・捨てられてしまうものを生かして親子でフライングディスクを作成すると共に、投げて遊ぶことで親子のコミュニケーションにもつながった。
- ・リサイクル、リユースにより環境に良い影響を与えられることを、親子で学ぶ機会を創出できた。

#### ②ビーチクリーン活動

下記の大会で大会開始前、大会後のビーチ及びビーチ周辺の清掃活動、ゴミの分別活動を実施。

- ◆平成29年4月9日：第2回熊本ビーチアルティメット大会（参加者：130名）
- ◆平成29年10月1日：第3回熊本ビーチアルティメット大会（参加者：122名）

場所：熊本県葦北郡芦北町御立岬海水浴場

主催：熊本県フライングディスク協会

- ◆平成29年5月13～14日：ビーチアルティメットフレンドシップ湘南2017 第18回

## EBASHI-CUP

場所：神奈川県藤沢市 湘南・鵠沼海岸

主催：かながわビーチディスクフェスティバル実行委員会

主管：神奈川県フライングディスク協会

## ◆平成29年7月8日：片男波ビーチアルティメット2017

場所：片男波海水浴場（和歌山県和歌山市）

主催：和歌山県フライングディスク協会

主管：片男波ビーチアルティメット2017実行委員会

協力：男波海水浴場、和歌浦漁業協同組合

会場内に特設ブースを設営し、和歌山大学教育学部の学生が段ボールフライングディスクの作成方法を子供たちと保護者に指導。ゴミで捨てられるものを生かしてフライングディスクを作成し遊ぶことができることを教えることにより、リサイクル、リユースが環境活動につながることを共に学んだ。

## ◆平成29年9月3日：第1回南三陸ビーチアルティメット（参加者：143名）

場所：サンオーレそではま（宮城県本吉郡南三陸町志津川）

主催：宮城県フライングディスク協会

主管：南三陸ビーチアルティメット実行委員会

## ◆平成29年10月7～8日：2017蒲郡ビーチアルティメット &amp; ディスクフェスティバル In LAGUNA（参加者：371名）

場所：愛知県蒲郡市ラグーナビーチ（愛知県蒲郡市海陽町・大塚海浜緑地・芝生広場）

主催：愛知県フライングディスク協会

主管：蒲郡ビーチディスクフェスティバル実行委員会

後援：蒲郡市教育委員会・（一社）日本フライングディスク協会

## ◆平成29年10月14～15日：2017熱海ビーチアルティメット大会（参加者：877名）

場所：静岡県熱海市熱海サンビーチ（静岡県熱海市東海岸町）

主催：静岡県フライングディスク協会

主管：熱海ビーチアルティメット実行委員会

後援：熱海市教育委員会・（一社）日本フライングディスク協会

#### 4. 全体的な成果と今後の課題

砂浜を使用して競技を行う、ビーチアルティメット競技の大会は、全国に普及しつつある。その際、ビーチクリーンを実施し競技エリア及びその周辺の清掃活動を実施。環境保全意識の醸成に繋がった。これにより競技者の安全も確保できた。新たに、リサイクル活動として使用済みの段ボールを利用して手作りのフライングディスクを親子で工作する活動を開始した。また、主催大会の全参加者及び来場者に配布する大会パンフレットに環境ポスターを掲載することで、多くの競技者、来場者に周知している。

今後は大会会場での活動だけでなく、日常生活の行動に良い影響が与えられる様、工夫して活動を推進していきたい。



## (2) スポーツ環境専門部会の活動

Activities of the member of JOC Sport and Environment Commission

### 松岡 修造 部会員

#### 日本テニス協会における啓発活動

「修造チャレンジトップジュニアキャンプ」開催時に、会場内におけるポスターの掲示や横断幕の提示、ゴミの分別など啓発活動を積極的に行った。

#### ●修造チャレンジトップジュニアキャンプ

日程	対象	会場
2017年6月13日（火） ～16日（金）	松岡修造とJTA ナショナルチームに選抜された12歳以下の男子ジュニア選手18名	クラブヴェルデ
2017年9月26日（月） ～9月29日（金）	松岡修造とJTA ナショナルチームに選抜された17歳以下の男子ジュニア選手28名	荏原湘南スポーツセンター
2018年3月6日（火） ～9日（金）	松岡修造とJTA ナショナルチームに選抜された14歳以下の男子ジュニア選手16名	味の素ナショナルトレーニングセンター



## 宮下 純一 部会員

### 1. 実施概要

本年も JOC スポーツ環境専門部会員、そして同環境アンバサダーとして「第 13 回 JOC スポーツと環境・地域セミナー」において、コーディネーターをさせていただきました。

スポーツと環境の関わりをテーマとして、慶應義塾大学体育会野球部の大久保秀昭監督、スキースノールディック複合の荻原健司さんの 2 名のオリンピックパネラーに加え、JOC スポーツ環境専門部会員である東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会大会準備運営第一局の田中丈夫持続可能性部長、横浜市市民局の西山雄二局長でディスカッションを通し、スポーツ界における地球環境保全の必要性を改めて感じていただけた。

### 2. 平成 29 年度の活動

「第 13 回 JOC スポーツと環境・地域セミナー」平成 29 年 11 月 26 日

場所：川崎市産業振興会館ホール

### 3. 具体的な活動内容と成果

まずは、東京 2020 大会における取り組みを田中持続可能性部長に紹介いただいた。大会の基本コンセプトに従った取り組みの一つとして「持続可能性」を掲げている背景と、大会組織委員会で策定した「持続可能性に配慮した運営計画」で定めている方針、目標、施策などを紹介いただいた。西山局長は、横浜市のトライアスロン競技大会における「カーボン・オフセット」について説明された。同市からはエリート競技者も参加する「世界トライアスロンシリーズ横浜大会」と、小学生から気軽に参加できる「横浜シーサイドトライアスロン大会」の 2 大会で、海底で CO<sub>2</sub> を吸収する「ブルーカーボン」に注目したカーボン・オフセットの実施状況を紹介いただいた。荻原健司さんは元スキー競技者の視点で、冬季競技の危機について話してくださった。温暖化の影響で、世界で深刻な雪不足が発生しており、「このまま温暖化が進むと、2080 年に冬のオリンピックを開催できる都市が世界で 6 つしか存在しなくなる」という調査結果も紹介された。大久保秀昭監督には、木製バットの再利用に関する事例として、折れたバットが箸や靴べらとして再加工される仕組みを説明いただいた。JOC の方々にも、今回ご尽力いただいたおかげで、2020 年にオリンピックを迎えるにあたり環境セミナーを通して、しっかりとしたメッセージを参加者に伝えられる機会となった事と思う。

### 4. これからの課題

昨年は自然環境を舞台に活躍されているアスリート 3 氏に登壇いただき、現場のお話や、これからの自分の競技環境に対する危機感が強く伝わったと思う。各パネラーに対し、話して欲しいテーマを事務局から事前に伝えておけば、議論がより深まると感じた。また昨年も挙げたが、現役選手のパネラー参加という事も、選手自身の自然環境への思いに繋がっていく事と思う。

2020 年、東京で迎えるオリンピックが後 2 年と迫ってきている中、リオのメダリストに加え、平昌のメダリストにも参加していただき、これから東京 2020 大会を目指していくアスリート達にも、しっかりと「自然環境」への思いを話せるセミナーになると、より良いセミナーになると思う。



### (3) スポーツと環境に関するアンケート集計結果について

Results of the questionnaire regarding environmental activities of NFs

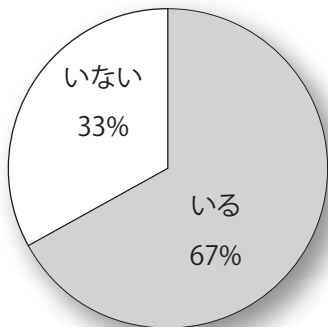
平成29年度JOC加盟団体65団体(準加盟団体、承認団体を含む)を対象に、「スポーツと環境」に関するアンケートを実施。本アンケートは、環境活動の現状や浸透状況を把握しつつ、今後の指針づくりにも役立っている。

その約3分の2の団体で「スポーツ環境委員会」あるいは「環境保全プロジェクト」が設けられていると回答を得た。

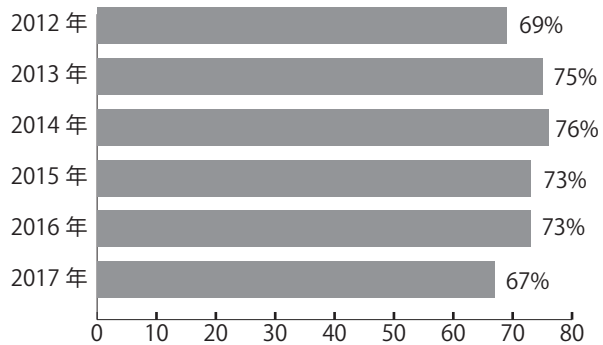
#### ●環境委員・環境保全プロジェクトについて

スポーツ環境委員会あるいは環境保全プロジェクトを設置していますか

(n=60)



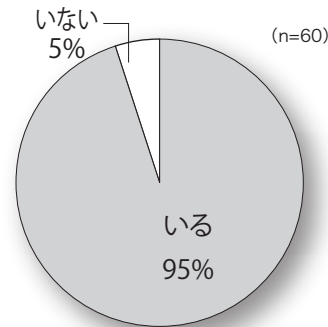
スポーツ環境委員会あるいは環境保全プロジェクトを設置していますか



#### ●日常活動の取組みについて

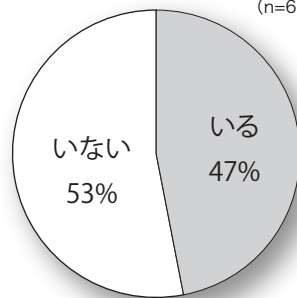
①啓発活動の一環として事務局に環境ポスターを掲示していますか

(n=60)



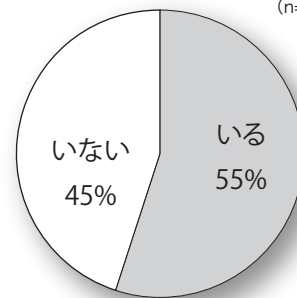
②機関誌等に環境保全に関する内容(環境ポスター等)を掲載していますか

(n=60)



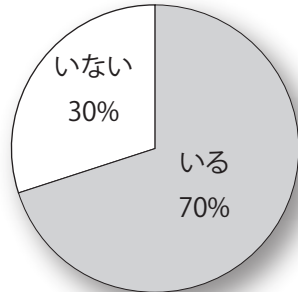
③影響力のあるトップ選手等に環境保全への啓発を依頼していますか

(n=60)



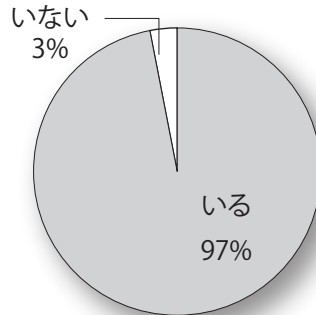
④都道府県協会や加盟団体と連携して環境保全の啓発活動をしていますか

(n=60)



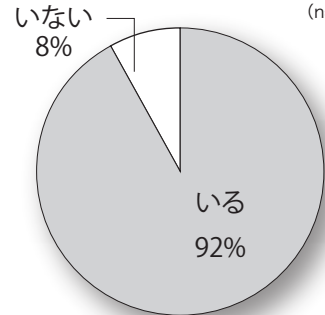
⑤事務局においてコピー用紙使用の削減の取組みをしていますか

(n=60)



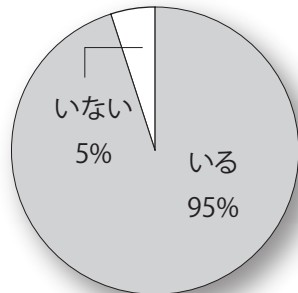
⑥事務局において環境に配慮した印刷の取組みをしていますか

(n=60)



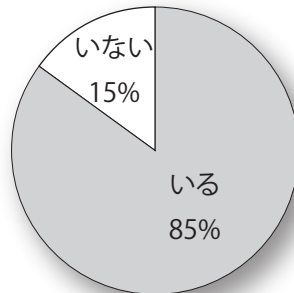
⑦事務局において電気使用量の削減の取組みをしていますか

(n=60)



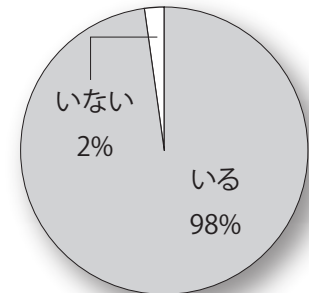
⑧事務局において環境に配慮した用品・用具の使用をしていますか

(n=60)



⑨事務局においてゴミの分別を実施していますか

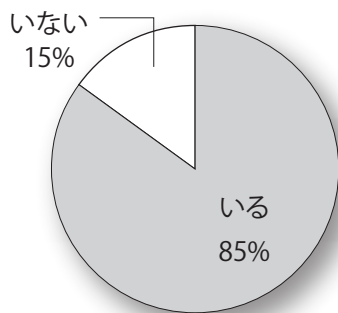
(n=60)



## ●主催イベント(大会等)の取組みについて

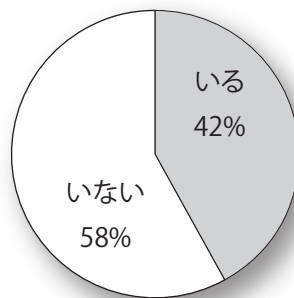
①イベント会場で環境ポスター・環境の横断幕を掲示していますか

(n=60)



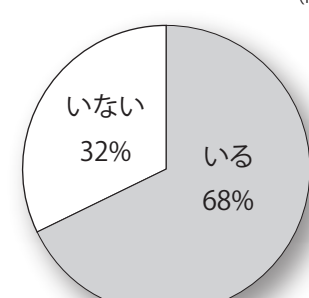
②イベント会場で環境保全に関する展示等をしていますか

(n=60)



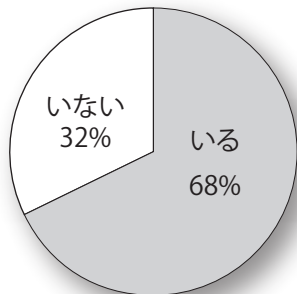
③参加者へのアナウンスの中で環境保全への協力を呼びかけていますか

(n=60)

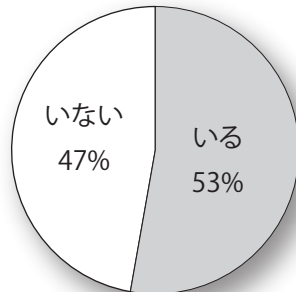




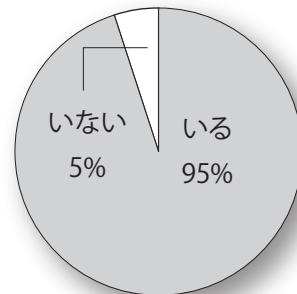
④競技・運営役員等に対し環境保全の重要性を認識してもらう取り組みを行っていますか (n=60)



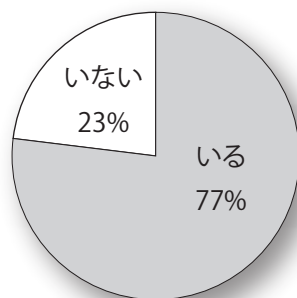
⑤主催大会のパンフレットに「環境ポスター」を掲載していますか (n=60)



⑥イベント会場において、ゴミの分別を行っていますか (n=60)

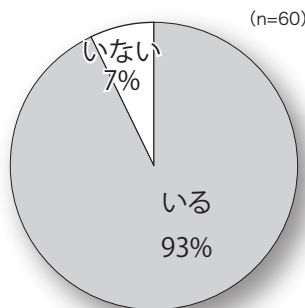


⑦競技者にできるだけ良い環境で競技をさせるよう配慮を何かしていますか (n=60)

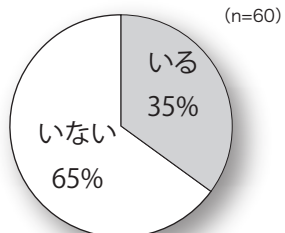


## ● JOCスポーツ環境専門部会活動報告書の活用について

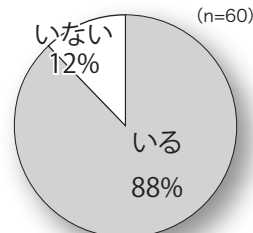
JOCスポーツ環境専門部会「活動報告書」を活用していますか (n=60)



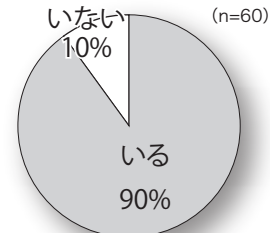
(ア) 報告書の一部をコピーして関係者に配布している (n=60)



(イ) 活動の参考として参照している (n=60)



(ウ) いつでも閲覧できるように設置している (n=60)



## (4) スポーツと環境についてのレクチャー原稿

Lecture draft on Sport and Environment

### 【スポーツと環境について 競技会挨拶原稿（1 分間）】

ご挨拶の中に1分間をプラスして、下記の『環境保全ポスター』の紹介と協力依頼をお願いします。

さて、最後に皆様はこのポスターをご存知でしょうか？

我々●●協会は、公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）と連携して、異常気象や自然災害の原因となっている地球温暖化に危機感をもち、スポーツが楽しめる環境を、50年後、100年後の子供たちに残すために、環境保全の啓発活動に取り組んでいます。

「来たときよりもキレイに！」というこのポスターのフレーズには、単純に「キレイにしましょう！」ということではなく、『スポーツの未来を考え、いまの環境を大切にしていこう！』という、スポーツを通じた持続可能な社会づくりへの大きなメッセージがこめられています。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会まであと●年、東京2020大会は、スポーツを通じて地球環境・地域環境の大切さを発信する大会でもあります。

皆様には、まずは環境に対して興味を持ち、エネルギー・資源の節減やゴミの分別など、できることから実行していただきたいと思います。そして、我々スポーツ（または競技名）を愛するものが、模範的活動を推進し、社会の中で環境保全のリーダーとなることを願っています。

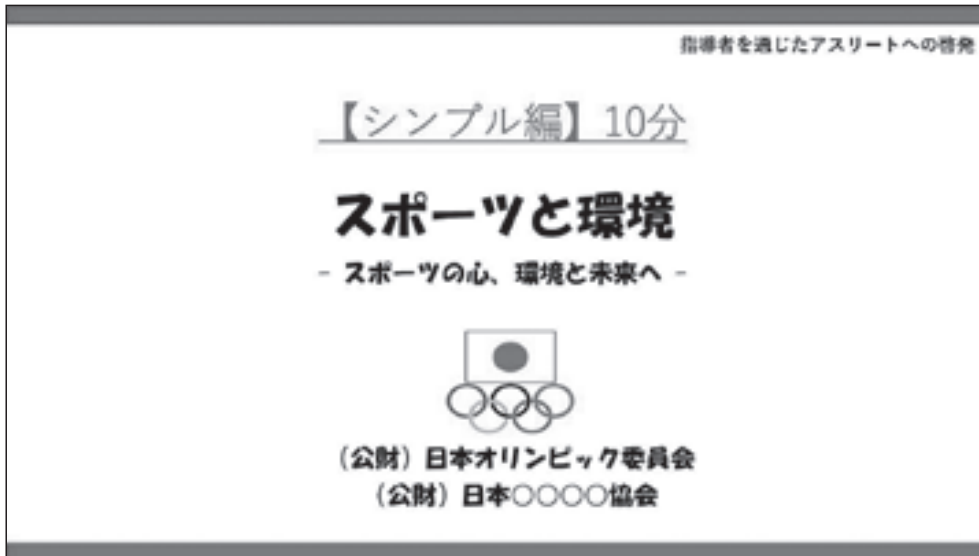






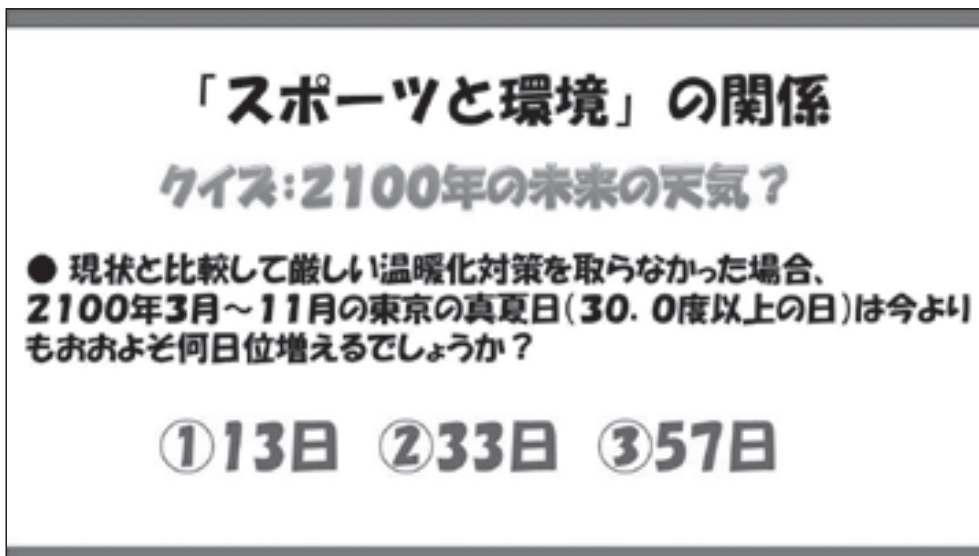
## スポーツと環境について レクチャー原稿（10 分間）

各NFの環境担当者がNF所属の指導者・アスリート向けに行うことを想定して開発したレクチャー原稿です。監督会議・アスリート向けの講習会等の場面で活用をお願いいたします。なお、下記のパワーポイントのデータは、JOC オリンピック・ムーブメント推進部より提供いたします。



私たち〇〇協会は、スポーツが楽しめる環境を、50年後、100年後の子供たちに残すために、スポーツを通じた環境活動に取り組んでいます。

これから行うレクチャーでは、スポーツ界における環境啓発活動の「基礎知識」として、①スポーツと環境の関係、②スポーツを通じた環境問題の取組み、③スポーツ関係者の役割、の3つのテーマについてお話しします。



まずはじめのテーマは、「スポーツと環境の関係」です。皆さんもご存知のとおり、地球温暖化がこのまま進むと、スポーツにも大きな影響がでるといわれています。さて、ここで2100年の未来の天気について考えてみましょう。

現状と比較して厳しい温暖化対策を取らなかった場合、2100年3-5月(春)・6-8月(夏)・9-11月(秋)の期間、東京の真夏日、気温が30.0度以上の日は、今よりも何日位増えるでしょうか？次の3つの中から、正解だと思うものに手を上げて下さい。おおよそ①13日増えると思う人、②33日増えると思う人、③57日増えると思う人。

正解は、57日(正確には56.8日)です。このクイズは、環境省・気象庁から発表された「21世紀末における日本の気候」という資料からの出題ですが、2100年というと遠い未来のことのようにですが、考えてみると私たちのひ孫たちが大人になる時代。真夏日が今より約2カ月も増える未来、ひ孫たちがスポーツをする環境を想像してみてください。

【参考】21世紀末における日本の気象予測結果 P9 真夏日日数の季節別変化

[http://www.env.go.jp/earth/ondanka/pamph\\_tekiou/2015/](http://www.env.go.jp/earth/ondanka/pamph_tekiou/2015/)

政策的な温室効果ガスの緩和削減を前提として予測されたシナリオ。厳しい温暖化対策を取らなかった場合2.6～4.8℃(平均3.7℃)で③の56.8日。一方、厳しい対策を取った場合、0.3～1.7℃(平均1.0℃)で①の13.1日。

## 「スポーツと環境」の関係

**スポーツが環境から影響を受けること**

- 地球環境の変化によってスポーツを行う環境が損なわれる。

**スポーツが環境に影響を与えること**

- 大規模なスポーツ大会では大量の廃棄物やエネルギーが消費され、環境に負荷をかけている。

「スポーツと環境」の関係を考える際には、相対する2つの側面を考える事が重要です。

まず1つは、いまのクイズに出題したように「スポーツが環境から影響を受けること」、例えると被害者側のようなことです。

環境問題の影響でスポーツの環境が整わなくなり、スポーツを楽しむための要素が縮小されてしまうという点です。代表的なものとしては、雪の減少による冬のスポーツへの影響が挙げられます。また、冬のスポーツや屋外スポーツへの影響ばかりが目されますが、地球温暖化による気候変動の影響で台風の増加、ゲリラ豪雨などが多発するとスポーツどころではなくなってしまいます。さらに、熱中症や水不足の問題など、どれをとってもスポーツ活動に大きな影響を及ぼす問題です。

そしてもう1つは「スポーツが環境に影響を与えること」、例えると加害者側のようなことです。

過去において、スポーツ施設を建設するため、山を切り開き、海を埋め立てるなどの自然破壊をして



きた、また、現在では、大規模なスポーツ大会において、大量のエネルギーや廃棄物を生み出し環境に大きな負荷をかけているという点です。

このように、スポーツと環境の関係を考える際には、「スポーツが環境から影響を受けている」側面だけでなく、「スポーツが環境に影響を与えている」という事実を認識することが重要になります。

次のテーマは、「スポーツを通じた環境問題の取組み」です。

**スポーツを通じた環境問題の取組み**

**① スポーツの会場における環境活動**

写真は平成27年度「JOCスポーツ環境専門委員会活動報告書」より抜粋

**スポーツを通じた環境問題の取組み**

**② スポーツを通じた環境啓発活動**

写真は平成27年度「JOCスポーツ環境専門委員会活動報告書」より抜粋

スポーツを通じた環境問題の取組みには、大きく分けて「①スポーツの会場における環境活動」と「②スポーツを通じた環境啓発活動」の2つの取組みがあります。

まずひとつめの取組みは、「スポーツの会場における環境活動」です。

オリンピック競技大会に象徴されるように、スポーツイベントの巨大化に伴い、イベント自体が及ぼす自然環境への影響は無視できなくなってきました。そのため、自然保護や環境保全に向けた取り組み

はもはやスポーツ界も例外ではなく、イベントを主催する競技団体として、環境問題に対して最大限の取組みが求められるようになりました。

具体的な「スポーツの会場における環境活動」の事例としては、スポーツ施設の照明や冷暖房の調整による節電、ゴミの分別などがあります。また、環境貢献活動として、日本テニス協会が行っている中古ボールやラケット等のリユース活動、全日本野球協会が行っている植樹活動、また、日本トライアスロン連合が行っている競技場周辺の清掃活動などがあります。

そして、もうひとつの取組みは、「スポーツを通じた環境啓発活動」です。

<b>スポーツ関係者の役割</b>
<b>①スポーツ団体（組織）としての役割</b>
競技やスポーツイベントにおける環境負荷を低減させる。
<b>②スポーツ指導者・アスリートとしての役割</b>
社会的影響力を使って、環境の大切さを伝える。

スポーツ愛好家と呼ばれる人々は世界中に数十億人とおり、社会的影響力を持っています。スポーツ愛好者が周囲の人たちに環境保全の必要性を伝えて行くことは大きな効果を生むことであり、それがスポーツの力で環境保全を推進することになるのです。

具体的な「スポーツを通じた環境問題の啓発」の事例としては、指導者講習会等での「環境とスポーツ」についてのレクチャーがあります。

また、競技大会のパンフレットへの環境ポスターデザインの掲載、競技会場での横断幕の掲示、日本セーリング連盟が行っている不用になったヨットのセールを利用したワークショップを通じた啓発活動などもあります。

スポーツを通じた環境問題の取組みには、この他にも、各 NF で色々な活動が工夫されて行われています。毎年発行される JOC スポーツ環境専門部会活動報告書には、各 NF の活動が詳しく報告されていますので、ぜひ参考にしてください。

さて、最後のテーマは、「スポーツ関係者の役割」です。

スポーツ関係者の役割のひとつは、「スポーツ団体としての役割」つまり、組織レベルの役割です。

具体的な役割は、日常の協会運営（会議事にタブレットを使用してペーパーレス化やオフィスの省エネなど）や主催する競技大会、スポーツイベントにおいて環境負荷を低減させることです。競技会場ではゴミの分別や自宅から競技会場までの移動に公共交通機関を使うように促すなど、観客に協力してもらう活動も必要でしょう。

また、指導者研修会や競技会の監督会議の機会に、関係者に対して「スポーツと環境」の意識啓発を



行ったり、指導現場での啓発活動への協力依頼を実施することは、スポーツ団体（組織）のとても重要な役割のひとつになります。

そして、もうひとつの役割は、「スポーツ指導者・選手としての役割」つまり個人レベルの役割です。

特に社会的影響力がある指導者、アスリートは自らが手本となり周囲の人たちに環境メッセージを発信し、環境の大切さを伝えることが重要です。具体的な実践活動としては、省エネ・低炭素型の製品・サービス・行動など、身近な生活のなかで、未来のために、今選択できるアクションを選ぶこと、「賢い選択」が大切です。環境省が推進する COOL CHOICE のサイトも参考になります。

## スポーツの心、環境と未来へ。

**スポーツが楽しめる環境を、50年後、  
100年後の子供たちに残すために、  
まずは環境に対して興味を持つこと、  
そして自分のできる事から行動すること**

以上、①スポーツと環境の関係、②スポーツを通じた環境問題の取組み、③スポーツ関係者の役割、この3つのテーマについて話してきましたが、スポーツが楽しめる環境を、50年後、100年後の子供たちに残すために、今、私たちに問われているのは、スポーツの“持続可能性”の問題。なかでも、環境との関わり方の問題です。

スポーツと環境の関係を考える際に、「スポーツが環境から影響を受ける」こと、そして、「スポーツが環境に影響を与えること」、このふたつの側面を理解することが大切です。環境問題はグローバルですが、その解決の糸口はローカルです。未然に防げる行動を取ることが重要です。

「まずは環境に対して興味を持つこと、そして自分のできる事から行動すること」、この考え方を、指導者がアスリートに伝えること。そしてアスリートが家族や周囲の人に広めていく事が、スポーツが楽しめる環境を、50年後、100年後の子供たちに残すことにつながるのだと思います。「スポーツの心、環境と未来へ。」これが未来に向けての我々のメッセージです。

(参考)「スポーツと環境」指導者研修会用原稿事例 (90 分間)

指導者研修会としてレクチャーを実施をする場合の原稿の事例です。「スポーツと環境」についての研修を計画する場合は、JOC スポーツ環境専門部会にご相談下さい。

指導者に向けたアスリートへの啓発

【発展編】

## スポーツと環境

- スポーツの心、環境と未来へ -



(公開) 日本オリンピック委員会  
(公開) 日本○○○○協会

## 「スポーツと環境」の関係

### ケース:2100年の未来の天気?

● 現状と比較して厳しい温暖化対策を取らなかった場合、2100年3月～11月の東京の真夏日(30.0度以上の日)は今よりもおよそ何日位増えるでしょうか?

①13日 ②33日 ③57日

### 1. 題材の目標

現代社会では、スポーツは環境にさまざまな形で大きな影響を与えている。例えば、巨大になったオリンピックや国際的なスポーツ大会では、環境に大きな負荷を与える。また、スポーツ参加者の増大は、環境破壊や自然破壊を起こしたりするようになった。ここでは、個人への環境への配慮とともに、持続可能な開発や環境保護の観点から十分に検討、配慮されることが求められていることを理解できるようにすることを目標として、次の内容を取り扱う。

### 2. ねらい

- ・スポーツが環境に与える影響を理解する
- ・スポーツが環境破壊による影響を受けることを理解する
- ・環境に配慮した行動に求められることを理解し、行動ができる

### 3. お願い

指導者アスリートへ伝えましょう。さらにマナーアップの一環として子供達にも話しましょう。そして自身がロールモデルの役割として、関係者への環境アクションを促しましょう。

### なぜ地球環境問題は解決しない?

各地で異常気象などが起こり、環境問題が深刻化していることは知っていても...

- ① 未来のことなので切迫感が無い...
- ② 省エネ・リサイクルが大切なのは知っているが...
- ③ 自転車の排気ガスが有害なのは分かるが...

環境問題は、公害や健康の問題と違って自分の事として捉え難い!

### Q. 環境問題を列記してみよう

- \* 地球温暖化
- \* 大気汚染
- \* 海洋汚染
- \* オゾン層の破壊
- \* 酸性雨
- \* 野生生物種の減少
- \* 森林の減少
- \* 地球規模の砂漠化...

### 地球環境問題に敏感なグループは?

**スポーツ愛好家やアスリート**

本来、アスリートやスポーツ愛好家こそ地球環境問題には敏感であるはず。なぜならば、プレイする環境としてきれいな空気や水を求めるから、すなわち地球環境の大切さを知っている!!

### 地球環境の危機

1. 自然破壊：森林伐採、砂漠化 など
2. 環境汚染：大気、土壌、海洋汚染 など
3. 資源枯渇：水、食糧、エネルギー源 など

原因は、急激な人口増加とモノとエネルギーを大量に消費する現代文明が地球の自然循環を乱したこと

空気がきれいだとスポーツが楽しい!

豊かな自然環境はスポーツにとって不可欠

↓

アスリートやスポーツ愛好家は、自然環境をより自分の問題として捉えることができる

↓

スポーツを通じて、持続可能な社会づくりが可能



### スポーツと環境「2つの側面」

- 地球環境の変化によってスポーツを行う環境が損なわれてしまう？
- スポーツは「健康」にとってよいもの“だった”・・・しかし、悪化した環境はスポーツ参加者の健康を害してしまう。

**スポーツが環境から影響を受けること**

- スポーツ施設等の開発に伴う自然破壊
- 大規模なスポーツ大会では大量の廃棄物やエネルギーが消費され、環境に負荷をかけているという点。

**スポーツが環境に影響を与えること**

### JOC スポーツ環境専門部会の活動

1. 「スポーツと環境」ポスターの作成
2. JOCスポーツと環境・地域セミナーの開催
3. スポーツと環境関係者会議の実施
4. スポーツ環境専門部会活動報告書の出版

### スポーツを通じた環境問題の取り組み

スポーツなどの人間活動は、基本的に自然破壊や環境汚染をともなう、だから・・・

**1 スポーツの各現場における環境保全**

1) スポーツ場として    2) スポーツ施設周辺の環境として    3) スポーツ活動の中心地として

スポーツ愛好家は、「スポーツマンシップ」という倫理観を持ち、社会的影響力を持っている、だから・・・

**2 スポーツを通じた環境問題の啓発**

各競技団体の実践例は「JOCスポーツ環境専門部会活動報告書」を参照してください。

### スポーツ関係者の役割

健康な環境はスポーツにとって不可欠。また、スポーツは地球環境を改善する際に重要な役割を果たすことができる。持続可能な社会づくりに向けてスポーツ関係者が果たす役割は・・・

① **スポーツ選手として・・・**

技術的、商業的成功がもたらす社会的影響力を使って、ファンの人たちに環境の大切さを伝える。

**来たときよりもキレイに！**

### ディスカッションタイム

Q. 先ほどの映像の中のことが現実となったら、スポーツ（あなたの競技種目）にどのような影響がでると思いますか？

Q. あなたのスポーツでの環境活動は？

### スポーツ関係者の役割

② **スポーツ団体のCSRとして・・・**

商業的成功だけでなく、スポーツの社会的価値を高めるためにも、競技やスポーツイベントにおける環境負荷を軽減させる。

③ **スポーツ業界のCSRとして・・・**

スポーツ施設の建設と運営、スポーツ商品の製造と販売における環境の保全・改善を推進する。

### スポーツと環境の新たな関係

持続可能性 (Sustainability)

スポーツ場面のフェアプレー  
オリンピックバリュー (オリンピックの価値)  
- Excellence - Friendship - Respect  
人と人との関係も再考しよう！

日常の場面でもフェアプレー  
これまでは人と人との関係、しかし今求められるのは人と地球との関係！  
スポーツの心、環境と未来へ。

**他人だけでなく、地球に対しても責任ある社会人として行動しよう！**

### 事例：国際オリンピック委員会の活動

自然の保全、環境保全の義務がある。それはスポーツ界も例外ではない。

2020年10月、IOCトップ委員会が「オリンピック・ムーブメントはスポーツ・文化に与えて負荷の二本柱とする。」と発表

～IOCの使命と役割～

環境問題に関心を持ち、啓発・実践を通してその責任を果たすとともに、スポーツ界において、特にオリンピック競技大会開催について持続可能な開発を促進すること。

### スポーツの心、環境と未来へ。

**スポーツが楽しめる環境を、50年後、100年後の子供たちに残すために、まずは環境に対して興味を持つこと、そして自分のできる事から行動すること**

## 5

## IOC持続可能性とレガシー委員会について

## IOC Sustainability and Legacy Commission

IOCの戦略的ロードマップである「オリンピック・アジェンダ2020」(2014年12月に採択)において、持続可能性は、信頼性および若者とあわせ3本柱のひとつとなっています。持続可能性への配慮は全体を通して示されていますが、特に持続可能性を明示した提言は次の2つになります。

提言4：オリンピック競技大会のすべての側面に持続可能性を導入する

提言5：オリンピック・ムーブメントの日常業務に持続可能性を導入する

2016年11月に開催された「IOC持続可能性とレガシー委員会」では、昨年に引き続き、オリンピック・アジェンダ2020の実現に向けた戦略策定の議論が行われました。その後、「IOC持続可能性戦略」が2016年12月にIOC理事会で採択され、以下の通り概要が公表されました。

### < IOC 持続可能性戦略の概要 >

IOC 持続可能性戦略は、国連持続可能な開発目標 (SDGs) への寄与を実際にサポートするもので、17の目標の全てを対象にしている。なかでも特に、健康及び福祉 (SDGs3)、質の高い教育 (SDGs4)、ジェンダーの平等 (SDGs5)、平和、公正、健全な制度 (SDGs16)、持続可能なパートナーシップ (SDGs17) の分野と親和性が高い。

IOC 持続可能性戦略は、3つの責任階層と、5つの重要分野で構成されている。3つの責任階層とは、「持続可能性のロールモデルとなる組織としてのIOC」「オリンピック競技大会のオーナーとしてのIOC」「オリンピック・ムーブメントの牽引者としてのIOC」である。また、5つの重要分野とは、「インフラと自然環境」「調達と資源管理」「モビリティ」「ワークフォース」「気候」である。

3つの責任階層のそれぞれに目標を設定し、まずは第一歩として2020年に向けて18の目標を設定した。例えば、以下の目標がある。

目標 8：GHGの直接的または間接的排出を削減したり、排出量の相殺でカーボンニュートラルを達成する。

目標 10：招致フェーズから立候補の全てのプロセスを通じ、都市とともに持続可能性を確実に対応する。

目標 16：オリンピック・ソリダリティを活用し、NOCが持続可能性の取組を実施する際に支援する。

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会では、持続可能な大会の実現に向けて、引き続きデリバリーパートナー等と連携し、「持続可能性に配慮した運営計画」等の策定を進めていきます。

(公財) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会  
総務局 持続可能性部長  
荒田 有紀





# 6

## 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた取り組み

Activity for Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games

### 第 13 回スポーツと環境担当者会議資料より抜粋

公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会  
総務局 持続可能性部長

荒田 有紀

### ■オリンピックと持続可能性

#### 持続可能な開発のための2030アジェンダ

- 2015年の国連総会で採択。
- 17の個別目標とより詳細な169項目の達成基準で構成される「持続可能な開発目標（SDGs）」を設定。
- スポーツの重要性にも言及。



37. (スポーツ)  
スポーツもまた、持続可能な開発における重要な鍵となるものである。我々は、スポーツが寛容性と尊厳を促進することによる、開発及び平和への寄与、また、健康、教育、社会包摂的目標への貢献と同様、女性や若者、個人やコミュニティの能力強化に寄与することを認識する。

#### オリンピック・アジェンダ2020

- 2014年12月に採択された、40の提言から成るオリンピック・ムーブメントの改革方針。
- 「持続可能性」の導入を明記。

<提言4> オリンピック競技大会のすべての側面に持続可能性を導入する  
<提言5> オリンピック・ムーブメントの日常業務に持続可能性を導入する



## 大会における「持続可能性」の重要性

- 今日の「持続可能性」の概念は、環境負荷の最小化や自然との共生、環境意識の啓発等、環境の側面だけでなく、人権や労働環境への配慮、サプライチェーンの管理等まで意義が拡大 ⇒ オリンピック・パラリンピック大会も例外ではない
- オリンピック・パラリンピックは世界中の注目を集めるイベントであり、NGOやNPOを含め多くの人々が強い関心を持つ。持続可能性に配慮した取組は、東京2020大会の準備・運営だけでなく、その後の評価に直結

**オリンピックは世界最大規模のスポーツイベントであり、  
その開催はスポーツ分野だけでなく、環境・社会・経済の  
多岐にわたり影響を及ぼす一大事業。**

## ■持続可能性運営計画(第二版)について

### 持続可能性運営計画(第二版)の構成要素

- 第二版の位置づけ(第一版との整理)
- 1964年大会からの歩み等
- 2020大会における持続可能性配慮の基本的な考え方
  - ・ 基本の方針(世界の動きを見据えた大会の方向性)
  - ・ 持続可能な開発目標(SDGs)を踏まえた主要5テーマの取組
  - ・ 計画の適用範囲
  - ・ ISO20121規格に則した持続可能性マネジメントシステムの導入・運用
  - ・ モニタリング体制
  - ・ 調達コード(通報受付窓口を含む)や環境アセスメントなど計画の実現に向けたツールの活用
- 主要5テーマの大目標(ゴール)と施策の柱立て(個別目標)
  - 「気候変動」「資源管理」「大気・水・緑・生物多様性等」
  - 「人権・労働・公正な事業慣行等への配慮」「参加・協働、情報発信」
- 実施主体別の行動計画・進捗状況
  - ・ 会場整備関係の取組
  - ・ 実施主体(組織委員会各部署、都、国など)別の取組



2018.2.27DG資料より

## 主要5テーマ毎の大目標と方向性(案)

1. 気候変動：「Towards Zero Carbon」(仮)  
パリ協定を受け、世界が脱炭素社会の実現を目指す中、パリ協定がスタートする2020年に開催される東京大会において、その方向性・戦略を示し、脱炭素化の礎を築く。
2. 資源管理：「Zero Wasting Resource Use (資源を一切無駄にしない)」(仮)  
資源をムダなく活用し、資源採取による荒廃や、廃棄による環境負荷を防ぐ、持続可能な社会を大会を通じて実践・共有する。
3. 大気・水・緑・生物多様性等：「City with Nature (自然共生都市の実現)」(仮)  
大会後のレガシーも見据え、大会の開催を通じて豊かな生態系ネットワークの回復・形成を図り、かつ快適さとレジリエンスを向上させる新たな都市のシステムの創出に寄与する。
4. 人権・労働、公正な事業慣行等への配慮：「Unity in Diversity (多様性と調和)」(仮)  
国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」を踏まえ、人種や肌の色、性別、性的指向、言語、宗教、政治、障がいの有無等による差別等がなく、児童労働や強制労働、過重労働を含めそれらの課題について間接的にも助長しない大会を目指す。また、腐敗行為や反競争的な取引等に関与しない公正な事業慣行が確保された大会を目指す。
5. 参加・協働、情報発信(エンゲージメント)：「Engagement by broad parties and legacy deploy (全員参加とレガシーの継承)」(仮)  
持続可能性への配慮の最大化に向け、大会関係者のみならず、広く国民、事業者、自治体等の参加・協働による取組の広範な実施と情報発信を目指す。

2017.12.27パブコメ資料より

## 【参考】「メガスポーツイベントと人権」を巡る動き

- 国連「ビジネスと人権に関する指導原則」の採択を契機に、ビジネスが人権に与える影響への関心が急速に高まっている。
- オリンピック・パラリンピックやサッカー・ワールドカップなどのメガスポーツイベントにおける人権・労働問題が注目されている。
- 特に、スポーツ用品の製造過程における児童労働、競技場建設における労働災害の問題などが指摘されてきた。
- 東京2020大会においても、こうした課題を意識した取組を進める必要。



「持続可能性に配慮した調達コード」の策定

# 7 関連資料

Reference

## (1) JOCスポーツ環境活動者一覧

JOC Activities Person of Sport and Environment

### JOCスポーツ環境専門部会

JOC Sport and Environment Commission

平成30年3月現在

役職名	氏名	NF
		所属
部会長 Chairman	野 端 啓 夫 Hiroo NOBATA	(公財) 日本野球連盟 Baseball Federation of Japan
副部会長 Vice Chairman	北 野 貴 裕 Takahiro KITANO	(公財) 全日本スキー連盟 Ski Association of Japan
部会員 Member	上 田 藍 Ai UEDA	(公社) 日本トライアスロン連合 Japan Triathlon Union
"	大 津 克 哉 Katsuya OTSU	(公財) 日本テニス協会 Japan Tennis Association
"	荻 原 健 司 Kenji OGIWARA	(公財) 全日本スキー連盟 Ski Association of Japan
"	風 間 明 Akira KAZAMA	(公財) 日本陸上競技連盟 Japan Association of Athletics Federations
"	鎌 賀 秀 夫 Hideo KAMAGA	(公財) 日本レスリング協会 Japan Wrestling Federation
"	小 柴 滋 Shigeru KOSHIBA	(公財) 日本バレーボール協会 Japan Volleyball Association
"	齋 藤 由 紀 Yuki SAITO	(公財) 日本水泳連盟 Japan Swimming Federation
"	田 中 丈 夫 Takeo TANAKA	(公財) 東京オリンピック・パラリンピック 競技大会組織委員会 The Tokyo Organising Committee of the Olympic and Paralympic Games
"	玉 利 聡 一 Toshikazu TAMARI	(公財) 日本サッカー協会 Japan Football Association
"	永 井 真 美 Mami NAGAI	(公財) 日本セーリング連盟 Japan Sailing Federation
"	西 山 雄 二 Yuji NISHIYAMA	横浜市市民局 Yokohama Civic Affairs Bureau
"	松 岡 修 造 Shuzo MATSUOKA	I M G International Management Group LLC,
"	宮 下 純 一 Junichi MIYASHITA	(株) ホリプロ Horipro Inc.



本会加盟団体(スポーツ環境担当者)

National Federation

平成 30 年 3 月現在

競技団体	委員会名/役職/氏名	副委員長・委員会ほか	事務局
(公財) 日本陸上競技連盟	—	—	風間 明 中村 仁
(公財) 日本水泳連盟	スポーツ環境委員会 委員長/齋藤 由紀	副委員長/— 委 員/岩崎 恭子、山口 善久、守谷 雅之、原田 由梨、 長谷川 雪恵、有久 暢、丸笹 公一郎、林 正洋、後藤 福寿、 鈴木 康尊、久米 直子	小川 知伸
(公財) 日本サッカー協会	社会貢献委員会 委員長/日比野 克彦	副委員長/— 委員/村松 邦子、黒田 かをり、高橋 陽子、赤羽 真紀子	玉利 聡一
(公財) 全日本スキー連盟	スポーツ環境委員会 担当/荻原 健司	副委員長/— 委 員/—	宮沢 賢一
(公財) 日本テニス協会	総務委員会 スポーツ環境担当 委員長/高橋 甫	副委員長/浅井 良樹 委 員/大津 克哉、千葉 輝夫	大石 英代
(公社) 日本ボート協会	安全・環境委員会 委員長/竹内 浩	副委員長/— 委 員/小澤 哲史 (アドバイザー)、 栗林 健太郎 (スタッフ)、赤津 杏奈 (スタッフ)、 興梠 裕一 (スタッフ)、尾崎 英夫 (スタッフ)、 堀 晃浩 (スタッフ)、久保田 芳晴 (スタッフ)	野口 紀子
(公社) 日本ホッケー協会	—	—	織井 隆司
(一社) 日本ボクシング連盟	環境委員会 委員長/山根 明	副委員長/吉森 照夫 委 員/山本 浩二、内海 祥子	内海 祥子
(公財) 日本バレーボール協会	環境委員会 委員長/小柴 滋	副委員長/調整中 委 員/調整中	鍛冶 良則
(公財) 日本体操協会	総務委員会 委員長/遠藤 幸一	—	八木沢 則子
(公財) 日本バスケットボール協会	—	—	向山 悟
(公財) 日本スケート連盟	スポーツ環境委員会 委員長/鈴木 民生	副委員長/浜野 勉 委 員/榊 稔、畑 則好、新田 俊彦、本間 康彦、 富樫 惣一、山崎 弘雄、久野 千嘉子、加藤 真弓、 吉川 敏彦	森村 直樹
(公財) 日本アイスホッケー連盟	環境委員会 委員長/新屋 清喜	副委員長/芳野 俊 委 員/村上一元、高橋 昇士、木野内 毅、細谷 康次、 服部 昌樹、佐々木 史郎	建部 彰弘
(公財) 日本レスリング協会	スポーツ環境委員会 委員長/鎌賀 秀夫	副委員長/桑田 信明 委 員/真田 栄作、本田原 明、丹下 一、森山 加世子、 吉澤 昌	鎌賀 秀夫
(公財) 日本セーリング連盟	環境委員会 委員長/芝田 崇行	副委員長/長嶋 匡之 委 員/青山 篤 (アドバイザー)、菊地 透、三浦 多満枝、 永井 真美	永井 真美
(公社) 日本ウエイトリフティング協会	スポーツ環境委員会 委員長/守 昌宏	副委員長/加納 修、平良 朝順 委 員/青木 延明、米田 迪、多小田 一則、後藤 節哉、 牧野 吉伸、嶽 圭輔	守 昌宏
(公財) 日本ハンドボール協会	環境委員会 委員長/工藤 雄三	副委員長/大橋 則一 委 員/兼子 真、家永 昌樹、松藤 奈緒子	兼子 真
(公財) 日本自転車競技連盟	競技運営委員会 委員長/高橋 博	副委員長/飯田 太文 委 員/早坂 和広、坂井田 米治、小野口 裕朗	白崎 孝紀

競技団体	委員会名/役職/氏名	副委員長・委員会ほか	事務局
(公財) 日本ソフトテニス連盟	環境・教育プロジェクト 委員長/川島 登	副委員長/井上 光子 委 員/安藤 正美、木原 晴彦、林 昭文、林田 正信、 柳下 秋久、金子 知行、岡村 勝幸、金岡 昭房、林 研一	渡辺 貴大
(公財) 日本卓球協会	環境委員会 委員長/鈴木 一雄	副委員長/宮本 勝典 委 員/小畑 幸生、五十嵐 久美子、藤崎 武司	登内 正吾
(公財) 全日本軟式野球連盟	環境担当委員会 委員長/中村 敏治	副委員長/宗像 豊巳 委 員/-	吉岡 大輔
(公財) 日本相撲連盟	総務委員会 委員長/竹内 晋峯	副委員長/樺原 利明 委 員/-	吉村 登
(公社) 日本馬術連盟	JOC スポーツ環境委員会 委員長/-	副委員長/- 委 員/長友 満則	手島 剛治
(公社) 日本フェンシング協会	環境委員会 委員長/中田 玲子	副委員長/河原塚 淳 委 員/加藤 晴英	中田 玲子
(公財) 全日本柔道連盟	-	-	-
(公財) 日本ソフトボール協会	スポーツ環境委員会 委員長/竹島 正隆	副委員長/- 委 員/-	青木 敬祐
(公財) 日本バドミントン協会	総務本部 環境委員会 委員長/丹藤 勇一	副委員長/- 委 員/新木 恵一	橋口 俊彦
(公財) 全日本弓道連盟	-	-	清水 政範
(公社) 日本ライフル射撃協会	総務委員会 委員長/横山 幸子	副委員長/藤井 彌、成山 悟史 委員/-	岸高 清
(一財) 全日本剣道連盟	医・科学委員会 委員長/宮坂 信之	副委員長/- 委 員/秋山 知子、朝日 茂樹、越智 小枝、佐々木 健、 野見山 延、武藤 健一郎、森 伸雄	岩坂 守
(公社) 日本近代五種協会	環境委員会 委員長/長江 洋一	副委員長/野上等 委 員/-	長江 洋一
(公財) 日本ラグビーフットボール協会	総務委員会環境部門 委員長/高野 敬一郎	副委員長/- 委 員/児玉 隆一郎、岩上 教行、中嶋 一義、大山 高行、 小宮山 弘	斎藤 守弘 平川 晋也
(公社) 日本山岳・ スポーツクライミング協会	自然保護委員会 委員長/松隈 豊	副委員長/堀江 伸子、西山 常芳 委 員/田上 正敏、手塚 福寿、岩崎 繁夫、増田 修、 濱田 伸、小高 令子、廣田 博、小島 和徳、猪狩 ノブ、 紅葉 淳一、湯浅 達男、小林 貞幸、岡田 博之	松隈 豊
(公社) 日本カヌー連盟	環境対策委員会 委員長/原 悦代	副委員長/北川 浩正 委 員/-	岩上 禎宏 柳澤 恵子
(公社) 全日本アーチェリー連盟	安全対策検討・環境委員会 委員長/溝井 利和	副委員長/笹尾 茂寿 委 員/廣木 かよ子、津田 正弘、工藤 潤一	笹尾 茂寿
(公財) 全日本空手道連盟	環境委員会 委員長/有竹 隆佐	副委員長/日下 修次 委 員/三村 由紀、石田 航	石田 航
(公社) 全日本銃剣道連盟	環境委員会 委員長/鈴木 健	副委員長/片山 幸太郎 委 員/番匠 幸一郎、石井 実、市野 保己、今村 辰義、 中村 真彦、佐藤 亨、村井 敏夫、井畠 大、矢野 満、 津田 昌泰、井澤 継男、竹下 利一、上村 正、松本 栄一郎	平本 梯子
(一社) 日本クレイ射撃協会	環境問題対策協議会 座長/高橋 義博	副委員長/- 委 員/上村 耕司、野口 省吾、見上 攻	大江 直之
(公財) 全日本なぎなた連盟	環境委員会 委員長/千葉 真弓	副委員長/寺 真喜子 委 員/菅野 佳子、池上 佐保子	清水 真由美
(公財) 全日本ボウリング協会	総務委員会 普及・広報部会 部会長/松下 秀雄	副委員長/- 部会員/富山 幸美	宮内 久美子
(公社) 日本ボブスレー・ リュージュ・スケルトン連盟	-	-	-



競技団体	委員会名/役職/氏名	副委員長・委員会ほか	事務局
(一財) 全日本野球協会	総務委員会 スポーツ環境部会 部会長/本郷 茂	—	柴田 穂
(特非) 日本スポーツ芸術協会	—	—	相原 茂明
(公社) 日本武術太極拳連盟	—	—	—
(公社) 日本カーリング協会	環境特別委員会 委員長/北田一浩	副委員長/— 委 員/小川豊和、宮越 武志、平間 初恵、 ジョンストン・テリー、楠井 悠平	楠井 悠平
(公社) 日本トライアスロン連合	事業企画委員会 (環境部会) 委員長/山本 光宏	副委員長/西沢 潤、関根 明子 委 員/篠田 雅司、松山 文人、朝岡 大輔、新井 康史、 徳外 孝志、清本 直、横山 美紀子、滝川 満弘、 中西 真知子、原田 佐希、磯村 諒、宮本 宏史、渡邊 享子、 小池 賢、徳留 功一、山本 悟志、田山 寛豪 アドバイザー/木下 貴之、関口 秀之	児玉 健太
(公財) 日本ゴルフ協会	—	—	—
(公社) 日本スカッシュ協会	環境委員会 委員長/宮城島 真知子	副委員長/神谷 典子 委 員/日向 孝知、潮木 仁、大根田 芳浩、小幡 博	神谷 典子
(公社) 日本ビリヤード協会	—	—	東仙 明彦
(公社) 日本ボディビル・ フィットネス連盟	環境委員会 委員長/岩崎 靖	副委員長/— 委 員/元木 俊博	岩崎 靖
(一社) 全日本テコンドー協会	総務委員会 委員長/牧野 文彦	副委員長/— 委 員/川津 博、斉藤 和広	山下 諒
(公社) 日本ダンススポーツ連盟	環境委員会 委員長/永井 彰	副委員長/— 委 員/岸尾 政弘、鴻巣 久枝	岸尾 政宏
(一社) 日本バイアスロン連盟	競技運営・環境委員会 委員長/二峰 良四男	副委員長/木村 豊悟、工藤 十九、山瀬 功 委 員/関敏博、関 貴之、滝澤 健、小野 健治、 井口 長治、宮崎 秀樹、柴田 主税	山村 明
(一社) 日本サーフィン連盟	事業委員会 委員長/関口 嘉雄	—	清水裕雅
(一社) 日本ローラースポーツ連盟	—	—	—
(一社) 日本カバディ協会	環境委員会 委員長/河合 陽児	副委員長/林 佳子 委 員/高野 一裕、新田 晃千、高岡 真由子、金子 裕美	河合 陽児
(一社) 日本セパタクロー協会	環境委員会 委員長/菅野 瑞穂	副委員長/寺本 進 委 員/赤石 量也、中塚 智之	菅野 瑞穂
(一社) 日本クリケット協会	環境委員会 委員長/宮地 直樹	副委員長/本島 由起子 委 員/大島居 悠貴、宮地 直実	本島 由起子
(公社) 日本アメリカンフットボール 協会	—	—	—
(公社) 日本チャアリーディング協会	環境委員会 委員長/久保田 友代	—	下地 隆
(公社) 日本コントラクトブリッジ連盟	—	—	高野 英樹
(公社) 日本オリエンテーリング協会	—	—	—
(公社) 日本パワーリフティング協会	—	—	澤 千代美
(公社) 日本ペタンク・ブール連盟	—	—	—
(一社) 日本フライングディスク協会	環境委員会 委員長/角田 信彦	—	梅原 貴正

## (2) IOC持続可能性とレガシー委員会

IOC Sustainability and Legacy Commission

### Chair

Le Prince Souverain ALBERT II

### Members

Beatrice ALLEN

Saria ESSAYAH

Tony ESTANGUET

Ivo FERRIANI

The Crown Prince FREDERIK OF DENMARK

Auvita RAPILLA

Sarah WALKER

Camilo AMADO

Inger ANDERSEN

Michel BARNIER

Christina FIGUERES

Stéphane GARELLI

Neil HAWKINS

Johnson JASSON

Kihong KIM

Matlohang MOILOA-RAMOQOPO

Miriam C. MOYO

Oshani PERERA

Holger PREUSS

Jean-Christophe ROLLAND

Sunil SABHARWAL

Gideon SAM

Erik SOLHEIM

Luzeng SONG

Sarah SPRINGMAN

Takeo TANAKA

Ana Paula TAVARES

Michael VESPER

### Director in charge

Director of Corporate Development, Brand and Sustainability

2018年3月31日現在

## (3) OCAスポーツと環境委員会

OCA Sports and Environment Committee

### Chairman

Mr Kyung-Sun YU

Korea

### Members

Mr Muhamadsho Abdulloev

Tajikistan

Mr Yasuhiro Nakamori

Japan

Mr Hussain RASHEED

Maldives

Mr Jeevan Ram SHRESTHA

Nepal

Mr Raja Wasim Ahmed

Pakistan

Mr R A K Jeewantha

Sri Lanka

Mr Khin Maung LWIN

Myanmar

Mr Mahmoud Mashhoun

I.R.Iran

Dr Tiras Odisho Anwaya BINNO

Iraq

Mr Baker Al Abadi

Jordan

2018年3月31日現在





## (4) IOCスポーツと環境委員会小史

### Brief History of IOC Sport and Environment Commission

1972年	札幌オリンピック冬季大会、恵庭ダウンヒルコース、競技終了後植林
1976年	デンバーオリンピック冬季大会開催返上(経済・環境問題) 1990年までIOCは環境保全団体からの抵抗運動を受けていた 1990年代当初、オリンピック・ムーブメントに環境保全を加えた(スポーツ・文化・環境)
1992年	バルセロナオリンピック大会時に「地球への誓い」全参加NOC署名
1994年	第12回オリンピック・コンGRESS(IOC創立100周年)でスポーツと環境分科会開催・パリ
1995年	IOCにスポーツと環境委員会設置 委員長 パル・シュミット 第1回IOCスポーツと環境世界会議開催・ローザンヌ
1996年	委員に就任 岡野俊一郎(1996-2001)、水野正人(1996-現在)
1997年	第2回IOCスポーツと環境世界会議開催・クウェート
1999年	第3回IOCスポーツと環境世界会議開催・リオデジャネイロ オリンピックムーブメントアジェンダ21採択
2001年	第4回IOCスポーツと環境世界会議開催・長野市 "GIVE THE PLANET A SPORTING CHANCE"
2002年	極東及び東アジア、第1回IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・北京
2003年	第5回IOCスポーツと環境世界会議開催・トリノ "PARTNERSHIPS FOR SUSTAINABLE DEVELOPMENT"
2004年	IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・ハバナ
2005年	極東及び東アジア、第2回IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・ドバイ 第6回IOCスポーツと環境世界会議開催・ナイロビ "SPORT, PEACE AND ENVIRONMENT"
2006年	IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・クアラルンプール IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・キングストン
2007年	第7回IOCスポーツと環境世界会議開催・北京 "FROM PLAN TO ACTION"
2008年	IOCスポーツと環境・アジア地域セミナー開催・インチョン IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・コロンビア
2009年	第8回IOCスポーツと環境世界会議開催・バンクーバー "INNOVATION AND INSPIRATION: HARNESSING THE POWER OF SPORT FOR CHANGE" IOCスポーツと環境賞制定 IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・サモア
2010年	IOCスポーツと環境委員会開催
2011年	第9回IOCスポーツと環境世界会議開催・ドーハ "PLAYING FOR A GREENER FUTURE" 第2回IOCスポーツと環境賞授賞式 (公財)日本水泳連盟「IOCスポーツと環境賞」を受賞
2012年	IOCスポーツと環境委員会開催
2013年	第10回IOCスポーツと環境世界会議開催・ソチ 第3回IOCスポーツと環境賞授賞式
2014年	「オリンピック・アジェンダ2020」第127次IOC総会で採択・モナコ
2015年	「IOCスポーツと環境委員会」を「IOC持続可能性とレガシー委員会」に名称変更 IOC持続可能性とレガシー委員会(Sustainability and Legacy Commission)開催・ローザンヌ
2016年	第2回IOC持続可能性とレガシー委員会

## (5) JOCスポーツ環境専門部会小史

Brief history of the JOC sport and Environment Commission

平成13年度 (2001年)	JOCスポーツ環境委員会設置 委員長 水野正人、委員 石川徹男、櫻井孝次、佐野和夫、瀬尾洋、早田卓次、平松純子、松岡修造、森健兒 第4回IOCスポーツと環境世界会議主催・長野市 "GIVE THE PLANET A SPORTING CHANCE"	平成20年度 (2008年)	第5回スポーツと環境担当者会議・ナショナルトレーニングセンター 第1回OCAコンGRESS・クウェート 板橋一太スポーツ環境専門委員長からJOCの活動を報告 第8回IOCスポーツと環境世界会議・バンクーバー 板橋一太スポーツ環境専門委員長出席
平成14年度 (2002年)	ファーストポスター、パンフレット作成 極東及び東アジア、第1回IOCスポーツと環境・地域セミナー・北京 参加	平成21年度 (2009年)	ポスター(8th)作成 平成20年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 第5回JOCスポーツと環境・地域セミナー・福岡市 第6回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター
平成15年度 (2003年)	セカンドポスター作成 平成14年度スポーツ環境委員会調査研究報告書作成 7月にISO14001認証登録、IOC加盟202NOCの中で初めて 第5回IOCスポーツと環境世界会議開催・トリノ 佐野和夫スポーツ環境委員からJOCの活動を報告 "PARTNERSHIPS FOR SUSTAINABLE DEVELOPMENT"	平成22年度 (2010年)	ポスター(9th)作成 平成21年度スポーツ環境専門委員会活動報告書作成 第6回JOCスポーツと環境・地域セミナー・横浜市 第7回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター
平成16年度 (2004年)	サードポスター作成 平成15年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 第1回スポーツと環境担当者会議開催・国立スポーツ科学センター (本会関係者、加盟団体、パートナー)	平成23年度 (2011年)	ポスター(10th)作成 平成22年度スポーツ環境専門委員会活動報告書作成 第7回JOCスポーツと環境・地域セミナー・神戸市 第8回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター (公財)日本水泳連盟が「IOCスポーツと環境賞」を受賞
平成17年度 (2005年)	ジョイントポスター・パンフレット(第2版)作成 平成16年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 環境省の「チーム・マイナス6%」のメンバーとなる 第1回JOCスポーツと環境・地域セミナー開催・大阪市 第2回スポーツと環境担当者会議開催・国立スポーツ科学センター 第6回IOCスポーツと環境世界会議・ナイロビ 佐野スポーツ環境専門委員会副委員長からJOCの活動を報告	平成24年度 (2012年)	ポスター(11th)作成 平成23年度スポーツ環境専門部会報告書作成 第8回JOCスポーツと環境・地球セミナー・札幌市 第9回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター
平成18年度 (2006年)	イラストポスター・横(5th)作成 平成17年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 ISO14001認証を更新登録 IOCスポーツと環境・アジア地域セミナー・クアラルンプール 遠藤スポーツ環境専門委員からJOCの活動を報告 第2回JOCスポーツと環境・地域セミナー開催・長野市 第3回スポーツと環境担当者会議開催・国立オリンピック記念青少年総合センター	平成25年度 (2013年)	ポスター(12th)作成 平成24年度スポーツ環境専門部会報告書作成 第9回JOCスポーツと環境・地域セミナー・熊本市 第10回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター
平成19年度 (2007年)	イラストポスター・縦(6th)作成 平成18年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 第3回JOCスポーツと環境・地域セミナー開催・東京都 第4回スポーツと環境担当者会議開催・国立スポーツ科学センター 第7回IOCスポーツと環境世界会議・北京 佐野スポーツ環境専門委員会副委員長からJOCの活動を報告 IOCスポーツと環境・アジア地域セミナー・インチョン 鎌賀スポーツ環境専門委員・JOC及びNFの活動を報告	平成26年度 (2014年)	平成25年度スポーツ環境専門部会報告書作成 第10回JOCスポーツと環境・地域セミナー・秋田市 第11回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター
平成20年度 (2008年)	ポスター(7th)作成 平成19年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 IOCスポーツと環境競技別ガイドブック翻訳本作成・同マニュアル・CD-ROM 第4回JOCスポーツと環境・地域セミナー・広島市	平成27年度 (2015年)	ポスター(13th)作成 平成26年度スポーツ環境専門部会報告書作成 第11回JOCスポーツと環境・地球セミナー・帯広市 第12回スポーツと環境担当者会議(総務委員会フォーラム)・味の素ナショナルトレーニングセンター
		平成28年度 (2016年)	平成27年度スポーツ環境専門部会報告書作成 第12回JOCスポーツと環境・地域セミナー・東京都 第13回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター
		平成29年度 (2017年)	ポスター(14th)作成 平成28年度スポーツ環境専門部会報告書作成 第13回JOCスポーツと環境・地域セミナー・川崎市 第14回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター
		平成30年度 (2018年)	平成29年度スポーツ環境専門部会報告書作成 第14回JOCスポーツと環境・地域セミナー・高崎市(予定) 第15回スポーツと環境担当者会議(総務委員会フォーラム)・味の素ナショナルトレーニングセンター(予定)



## (6) オリンピック・アジェンダ2020 20+20の提言(抜粋)

OLYMPIC AGENDA 2020

### 提言4：オリンピック競技大会のすべての側面に持続可能性を導入する

IOCは持続可能性に関して、より一層積極的な姿勢を取り、指導的な役割を担う。また、持続可能性がオリンピック競技大会の開催計画の策定と、開催運営のすべての側面に取り入れられることを保証する。

1. 持続可能性に関する戦略を前進させ、オリンピック競技大会の潜在的な開催都市と実際の大会開催都市を統合する。さらに、各都市のプロジェクトのあらゆる段階で、経済、社会、環境の各領域を包含する持続可能性の施策を設ける。
2. 組織運営全体で統合的な持続可能性の統治を最善なものとするため、新たに選定した大会組織委員会を支援する。
3. IOCはNOCとUMVO（World Union of Olympic City = オリンピック開催都市連合）などの外部の組織の支援を受け、オリンピック競技大会の遺産を確実に監視する。

### 提言5 オリンピック・ムーブメントの日常業務に持続可能性を導入する

IOCは持続可能性の原則を導入する。

1. IOCはIOCの日々の業務活動に持続可能性を取り入れる。
  - ・IOCは物品やサービスの調達、およびイベントの組織運営（大小の会議など）で持続可能性を取り入れる。
  - ・IOCは移動による二酸化炭素排出量への影響を減少させる。
  - ・IOCはローザンヌの本部統合に際し、可能な限り最善の持続可能性の基準を適用する。
2. IOCは以下の方法により、オリンピック・ムーブメントの関係者に対して各自の組織内に、またその業務活動に持続可能性を導入させ、その援助を行う。
  - ・勧告を推し進める。
  - ・成功事例やスコアカードなどのツールを提供する。
  - ・オリンピック関係者間で情報交換するための仕組みを確実に提供する。
  - ・取り組みの実施を支援するため、オリンピック・ソリダリティーなど既存の手段を活用する。
3. 上記を実現するため、IOCはUNEPなどの関連する専門組織と協力する。



## 平成29年度 JOC スポーツ環境専門部会 活動報告書

---

発行日：平成30年6月21日

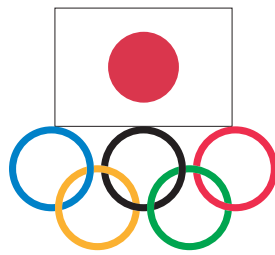
編集・発行：公益財団法人日本オリンピック委員会 スポーツ環境専門部会  
〒150-8050 渋谷区神南1-1-1 岸記念体育会館内

URL：<http://www.joc.or.jp/eco/>

印刷：広研印刷株式会社

---

問い合わせ：公益財団法人日本オリンピック委員会 オリンピック・ムーブメント推進部  
TEL：03-3481-2238 FAX：03-3481-2292



公益財団法人日本オリンピック委員会